茨城県教育財団文化財調査報告第111集

# 主要地方道土浦竜ケ崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書

右籾貝塚東遺跡
内路地台遺跡
念代遺跡
平坪遺跡

平成8年3月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第111集

# 主要地方道土浦竜ケ崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書

## 右籾貝塚東遺跡（みぎもみかいづかひがしいせき）
## 内路地台遺跡（ないろじだいいせき）
## 念代遺跡（ねんだいいせき）
## 平坪遺跡（たいらつぼいせき）

平成８年３月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

# 序

茨城県は，長期的な展望のもとに県土の基盤整備を行っております。道路網につきましても，県土60分構想の具体化や円滑な都市交通の確保を図るなど，ゆとりある社会の実現をめざして快適な道路の整備を進めております。

主要地方道土浦竜ケ崎線道路改良工事は，この整備事業にともない住宅，宅地関連事業を推進するために，土浦市の右籾地区から荒川沖にかけての交通渋滞の緩和を目的として計画されたもので，その予定地内には埋蔵文化財の包蔵地である右籾貝塚東遺跡，内路地台遺跡，念代遺跡及び平坪遺跡が確認されております。

このたび，財団法人茨城県教育財団は，茨城県から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け，平成５年10月から平成６年３月にかけて，主要地方道土浦竜ケ崎線道路改良工事地内に所在する前記各遺跡の発掘調査を実施いたしました。

本書は，右籾貝塚東遺跡，内路地台遺跡，念代遺跡及び平坪遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，教育，文化の向上の一助として活用されますことを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理を進めるにあたり，委託者である茨城県はもとより，茨城県教育委員会，土浦市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から，ご指導，ご協力を賜わりましたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成８年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　橋　本　　昌

# 例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成５年10月から平成６年３月まで実施した，茨城県土浦市に所在する石篠貝塚東遺跡，内路地台遺跡，念代遺跡及び平坪遺跡の発掘調査報告書である。

なお，遺跡の所在地は次のとおりである。

右篠貝塚東遺跡　茨城県土浦市大字右篠2821番地の１ほか

内路地台遺跡　茨城県土浦市大字右篠622番地の１ほか

念代遺跡　茨城県土浦市大字右篠588番地ほか

平坪遺跡　茨城県土浦市大字右篠3633番地の２ほか

2　右篠貝塚東遺跡ほか３遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は，次のとおりである。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理事長 | | 磯田　勇 | 昭和63年６月～平成７年３月 |
| | | 橋本　昌 | 平成７年４月～ |
| 副理事長 | | 角田芳夫 | 平成３年７月～平成６年３月 |
| | | 小林秀文 | 平成６年４月～ |
| | | 中島弘光 | 平成７年４月～ |
| 専務理事 | | 中島弘光 | 平成５年４月～平成７年３月 |
| 常務理事 | | 一木邦彦 | 平成７年４月～ |
| 事務局長 | | 藤枝宣一 | 平成４年４月～平成７年３月 |
| | | 齋藤紀彦 | 平成７年４月～ |
| 埋蔵文化財部長 | | 安藏幸重 | 平成５年４月～ |
| 埋蔵文化財部長代理 | | 河野佑司 | 平成６年４月～ |
| 企画管理課 | 課長 | 水飼敏夫 | 平成４年４月～ |
| | 課長代理 | 根本達夫 | 平成７年４月～ |
| | 主任調査員 | 川井正一 | 平成５年４月～平成６年３月 |
| | 主任調査員 | 海老澤　稔 | 平成６年４月～ |
| | 主事 | 杉山秀一 | 平成４年４月～平成６年３月 |
| 経理課 | 課長 | 小幡弘明 | 平成５年４月～ |
| | 主査 | 鈴木三郎 | 平成７年４月～（平成５年４月～平成７年３月　課長代理） |
| | 課長代理 | 大高春夫 | 平成７年４月～ |
| | 主任 | 飯島康司 | 平成４年４月～平成６年３月 |
| | 主任 | 小池　孝 | 平成７年４月～ |
| | 主事 | 軍司浩作 | 平成５年４月～ |
| 調査課 | 課長（部長兼務） | 安藏幸重 | 平成５年４月～ |
| | 調査第三班長 | 鈴木美治 | 平成５年度 |
| | 主任調査員 | 海老澤　稔 | 平成５年10月～平成６年３月　調査 |
| | 主任調査員 | 矢ノ倉正男 | 平成５年10月～平成６年３月　調査 |
| 整理課 | 課長 | 山本静男 | 平成７年４月～ |
| | 主任調査員 | 矢ノ倉正男 | 平成７年10月～平成８年３月　整理・執筆・編集 |

3　本書に使用した記号等については，凡例を参照されたい。

4　発掘調査及び整理に際して，ご指導，ご協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

5　遺跡の概要

| | |
|---|---|
| ふりがな | しゅようちほうどうつちうらりゅうがさきせんどうろかいりょうこうじちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 主要地方道土浦竜ケ崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 |
| 副書名 | 石穐貝塚東遺跡　内路地台遺跡　念代遺跡　平坪遺跡 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 茨城県教育財団文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 第111集 |
| 編著者名 | 矢ノ倉　正　男 |
| 編集機関 | 財団法人　茨城県教育財団 |
| 所在地 | 〒310　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　☎029-225-6587 |
| 発行年月日 | 1996（平成８）年３月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石穐貝塚東遺跡 | 茨城県土浦市大字石穐2821番地の１<br>ほか | 08203<br>A-20 | 36度<br>２分<br>27秒 | 140度<br>11分<br>５秒 | 19931001<br>～<br>19940331 | 1,574㎡ | 主要地方道土浦竜ケ崎線道路改良工事に伴う事前調査 |
| 内路地台遺跡 | 茨城県土浦市大字石穐622番地の１<br>ほか | 08203<br>A-24 | 36度<br>２分<br>48秒 | 140度<br>11分<br>20秒 | 19931001<br>～<br>19940331 | 960㎡ | |
| 念代遺跡 | 茨城県土浦市大字石穐588番地<br>ほか | 08203<br>A-26 | 36度<br>２分<br>57秒 | 140度<br>11分<br>30秒 | 19931001<br>～<br>19940331 | 4,756㎡ | |
| 平坪遺跡 | 茨城県土浦市大字石穐3633番地の２<br>ほか | 08203<br>A-27 | 36度<br>３分<br>１秒 | 140度<br>11分<br>34秒 | 19931001<br>～<br>19940331 | 1,635㎡ | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 右穐貝塚東遺跡 | 集落跡 | 縄文時代（前期） | 竪穴住居跡　1軒<br>土坑　4基 | 縄文土器片　深鉢<br>石製品　石鏃 | 標高25ｍ。縄文時代の小集落跡。 |
| | | 時期不明 | 土坑　9基 | | |
| 内路地台遺跡 | 集落跡 | 縄文時代（早期・前期・後期） | | 縄文土器片　深鉢 | 標高20ｍほど。平安時代の集落跡。片口の鉢をかぶせた蔵骨器が出土している。 |
| | | 平安時代 | 竪穴住居跡　2軒<br>火葬墓　2基 | 土師器片　坏，甕，甑，鉢<br>須恵器片　坏，甕，高台付坏，鞴 | |
| | | 時期不明 | 土坑　7基 | | |

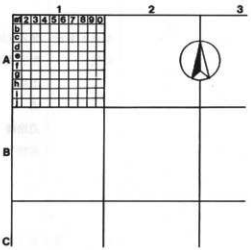
| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 念代遺跡 | 集落跡 | 古墳時代 | 竪穴住居跡　1軒 | 土師器片　坏，甕，甑<br>須恵器片　坏，甕，甑，蓋<br>壺<br>土製品　土玉 | 標高15～20m。奈良・平安時代を中心とする集落跡。墨書土器が10点以上出土している。その他，鈴帯や須恵器の硯などが出土している。 |
| | | 奈良・平安時代 | 竪穴住居跡　19軒<br>竪穴状遺構　2軒<br>土坑　6基<br>溝　4条<br>道路跡　1条<br>遺物包含層　1か所 | 土師器片　坏，高坏，甕，<br>甑，高台付坏，<br>鉢<br>須恵器片　硯，坏，<br>高台付坏，蓋，<br>高台付盤，甑<br>石製品　砥石<br>金属製品　鈴帯，刀子，鏃，<br>釘 | |
| | | 中世 | 地下式壙　4基<br>土坑　1基 | 土師質土器片　内耳鍋，すり鉢，<br>皿<br>陶磁器片　瀬戸，美濃，<br>常滑<br>古銭　熙寧元寶 | |
| | | 時期不明 | 土坑　75基 | | |
| 平坪遺跡 | 集落跡 | 古墳時代 | 竪穴住居跡　3軒 | 土師器片　坏，高坏，壺，<br>器台<br>土製品　土玉，紡錘車 | 標高10～15m。古墳時代，平安時代の住居跡。東海系の特徴を備えた古墳時代の装飾壺の口縁部が出土している。 |
| | | 奈良・平安時代 | 竪穴住居跡　2軒 | 土師器片　坏，高台付坏，<br>皿，甕<br>須恵器片　坏，甕，甑，蓋<br>金属製品　鉄鏃，刀子 | |
| | | 時期不明 | 掘立柱建物跡　1棟<br>土坑　8基 | | |

# 凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅳ系座標を用いて区画し，Ｘ軸（南北）＋19,120ｍ，Ｙ軸（東西）＋22,800ｍの交点を基準点とした。

大調査区は，この基準点を基に東西，南北各々40ｍずつ平行移動して大調査区を設定し，さらに，大調査区を東西，南北に各々10等分して，４ｍ方眼の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，北から南へ「Ａ」，「Ｂ」，「Ｃ」…，西から東へ「１」，「２」，「３」…とし，「Ａ１」区，「Ｂ２」区というように呼称した。小調査区も同様に北から南へ「ａ」，「ｂ」，「ｃ」…「ｊ」，西から東へ「１」，「２」，「３」…「０」と小文字を付し，位置を表示する場合は，大調査区と合わせて，$A1b_1$区，$B2b_2$区のように呼称した。



第１図　調査呼称方法概念図

2　遺構，遺物，土層に使用した記号は，以下のとおりである。

遺構　住居跡…ＳＩ，掘立柱建物跡…ＳＢ，土坑…ＳＫ，溝…ＳＤ，不明遺構…ＳＸ，道路跡…ＳＦ

遺物　土器…Ｐ，拓本土器…ＴＰ，土製品…ＤＰ，石器・石製品…Ｑ，金属製品…Ｍ

土層　撹乱…Ｋ

3　遺構・遺物の実測図中の表示は，以下のとおりである。

竈・炉　粘土　焼土　黒色処理　繊維　釉　赤彩

● 土器　○ 土製品　□ 石器・石製品　△ 金属製品

4　土層観察における色相，含有物の量の判定については，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著・日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構，遺物実測図作成方法と掲載方法については，以下のとおりである。

(1)　遺跡の全体図は縮尺200分の１，住居跡や土坑等は縮尺60分の１にした。

(2)　遺物は原則として３分の１に縮尺した。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては，個々にＳ＝１／○と表示した。

(3)　土器の計測値のＡは口径を，Ｂは器高，Ｃは底径，Ｄは高台径，Ｅは高台高，Ｆはつまみ径，Ｇはつまみ高を示した。また，（　）は現存値を，〔　〕は推定値を示した。

(4)　遺物観察表の備考欄は，土器の現存値や実測（Ｐ）番号，出土位置及びその他の必要と思われる事項を記した。

# 目　　次

序
例言
凡例
第1章　調査経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経過 …… 1
　第2節　調査経過 …… 1
第2章　位置と環境 …… 3
　第1節　地理的環境 …… 3
　第2節　歴史的環境 …… 3
第3章　右線只塚東遺跡 …… 9
　第1節　遺跡の概要 …… 9
　第2節　基本層序 …… 9
　第3節　遺構と遺物 …… 9
　　1　竪穴住居跡 …… 9
　　2　土坑 …… 12
　　3　遺構外出土遺物 …… 16
　第4節　まとめ …… 18
第4章　内路地台遺跡 …… 19
　第1節　遺跡の概要 …… 19
　第2節　基本層序 …… 19
　第3節　遺構と遺物 …… 19
　　1　竪穴住居跡 …… 21
　　2　土坑 …… 25
　　3　火葬墓 …… 28
　　4　遺構外出土遺物 …… 30
　第4節　まとめ …… 31
第5章　念代遺跡 …… 33
　第1節　遺跡の概要 …… 33
　第2節　基本層序 …… 33
　第3節　遺構と遺物 …… 34
　　1　竪穴住居跡 …… 34
　　2　竪穴状遺構 …… 80
　　3　土坑 …… 82
　　4　溝 …… 101
　　5　地下式壙 …… 103
　　6　道路跡 …… 108
　　7　遺物包含層 …… 109
　　8　遺構外出土遺物 …… 111
　第4節　まとめ …… 114
第6章　平坪遺跡 …… 117
　第1節　遺跡の概要 …… 117
　第2節　基本層序 …… 117
　第3節　遺構と遺物 …… 119
　　1　竪穴住居跡 …… 119
　　2　土坑 …… 130
　　3　掘立柱建物跡 …… 133
　　4　溝 …… 134
　　5　遺構外出土遺物 …… 135
　第4節　まとめ …… 135

# 挿 図 目 次


第１図　調査区呼称方法概念図
第２図　周辺遺跡分布図 …… 6
右耀貝塚東遺跡
第３図　基本土層図 …… 9
第４図　右耀貝塚東遺跡全体図 …… 10
第５図　第１号住居跡実測図 …… 11
第６図　第１号住居跡出土遺物拓影図 …… 12
第７図　第１号土坑実測・出土遺物拓影図 …… 13
第８図　第９号土坑実測・出土遺物拓影図 …… 13
第９図　第12・13号土坑実測・出土遺物拓影図 …… 14
第10図　第２・４・７・８・10・11・14～16号土坑実測図 …… 15
第11図　遺構外出土遺物実測・拓影図 …… 17
内路地台遺跡
第12図　基本土層図 …… 19
第13図　内路地台遺跡全体図 …… 20
第14図　第１・２号住居跡実測図 …… 21
第15図　第１号住居跡出土遺物実測図 …… 23
第16図　第２号土坑・出土遺物実測図 …… 25
第17図　第５号土坑・出土遺物実測図 …… 26
第18図　第１・３・４・６・７号土坑実測図 …… 27
第19図　第１号火葬墓・出土遺物実測図 …… 28
第20図　第２号火葬墓・出土遺物実測図 …… 29
第21図　遺構外出土遺物実測・拓影図 …… 30
念代遺跡
第22図　基本土層図 …… 33
第23図　念代遺跡全体図 …… 35・36
第24図　第１号住居跡実測図 …… 37
第25図　第１号住居跡出土遺物実測図 …… 38
第26図　第３・20号住居跡実測図 …… 39
第27図　第３号住居跡出土遺物実測図 …… 40
第28図　第４号住居跡実測図 …… 42
第29図　第４号住居跡出土遺物実測図(1) …… 44
第30図　第４号住居跡出土遺物実測図(2) …… 45
第31図　第５号住居跡実測図 …… 46
第32図　第５号住居跡出土遺物実測図 …… 47
第33図　第６・８号住居跡実測図 …… 48
第34図　第６・８号住居跡竈実測図 …… 49
第35図　第６号住居跡出土遺物実測図 …… 51
第36図　第８号住居跡出土遺物実測図 …… 53
第37図　第７号住居跡実測図 …… 54
第38図　第７号住居跡出土遺物実測図 …… 55
第39図　第９・10号住居跡実測図 …… 57
第40図　第９号住居跡出土遺物実測図 …… 58
第41図　第10号住居跡出土遺物実測図 …… 59
第42図　第11号住居跡実測図 …… 60
第43図　第11号住居跡出土遺物実測図 …… 62
第44図　第12号住居跡実測図 …… 63
第45図　第12号住居跡出土遺物実測図 …… 64
第46図　第13号住居跡実測図 …… 65
第47図　第13号住居跡竈実測図 …… 66
第48図　第13号住居跡出土遺物実測図 …… 66
第49図　第14号住居跡実測図 …… 68
第50図　第14号住居跡出土遺物実測図 …… 69
第51図　第15号住居跡実測図 …… 70
第52図　第15号住居跡出土遺物実測図 …… 71
第53図　第16号住居跡実測図 …… 72
第54図　第16号住居跡出土遺物実測図 …… 73
第55図　第17号住居跡実測図 …… 74
第56図　第17号住居跡出土遺物実測図 …… 75
第57図　第18号住居跡実測図 …… 76
第58図　第18号住居跡出土遺物実測図 …… 77
第59図　第19号住居跡実測図 …… 78
第60図　第21号住居跡実測図 …… 78
第61図　第21号住居跡出土遺物実測図 …… 79
第62図　第１号竪穴状遺構・出土遺物実測図 …… 80
第63図　第２号竪穴状遺構実測図 …… 81
第64図　第２号竪穴状遺構出土遺物実測図 …… 82
第65図　第１号土坑実測図 …… 82
第66図　第１号土坑出土遺物実測図 …… 83

第67図　第３号土坑実測図 …… 83
第68図　第４・39号土坑・出土遺物実測・拓影図 …… 84
第69図　第７号土坑実測図 …… 84
第70図　第８号土坑実測図 …… 85
第71図　第８号土坑出土遺物実測図 …… 86
第72図　第15号土坑・出土遺物実測図 …… 87
第73図　第16号土坑実測図 …… 88
第74図　第24・28号土坑出土遺物実測図 …… 88
第75図　第24～29号土坑実測図 …… 89
第76図　第30・89号土坑実測・出土遺物拓影図 …… 91
第77図　第58号土坑・出土遺物実測図 …… 93
第78図　第50・55・86号土坑・出土遺物実測図 …… 94
第79図　第53・87・88号土坑・出土遺物実測図 …… 95
第80図　第２・９～13・17～22・31・32・35・40号土坑実測図 …… 96
第81図　第37A・B・38・42・45～48・51・52・59～61・63～66・72号土坑実測図 …… 97
第82図　第73・74・77～79・82号土坑実測図 …… 98
第83図　第９・35・37A・38・48・73号土坑出土遺物実測図 …… 98
第84図　第１号溝断面図 …… 101
第85図　第２号溝断面図 …… 102
第86図　第３号溝断面図 …… 102
第87図　第４号溝断面図 …… 102
第88図　第１号地下式壙・出土遺物実測図 …… 103
第89図　第２号地下式壙実測図 …… 105
第90図　第３号地下式壙・出土遺物実測図 …… 106
第91図　第４号地下式壙・出土遺物実測・拓影図 …… 107
第92図　第１号道路跡・出土遺物実測図 …… 109
第93図　遺物包含層出土遺物実測図 …… 110
第94図　遺構外出土遺物実測図(1) …… 112
第95図　遺構外出土遺物実測図(2) …… 113
平坪遺跡
第96図　基本土層図 …… 117
第97図　平坪遺跡全体図 …… 118
第98図　第１号住居跡実測図 …… 119
第99図　第１号住居跡出土遺物実測図 …… 121
第100図　第２号住居跡・出土遺物実測図 …… 124
第101図　第３号住居跡実測図 …… 125
第102図　第３号住居跡出土遺物実測図 …… 126
第103図　第４号住居跡・出土遺物実測図 …… 127
第104図　第５号住居跡・出土遺物実測図 …… 129
第105図　第３・４号土坑実測図 …… 131
第106図　第６号土坑・出土遺物実測図 …… 131
第107図　第７号土坑実測図 …… 132
第108図　第１・２・５・８号土坑実測図 …… 132
第109図　第１号掘立柱建物跡実測図 …… 133
第110図　第１号溝断面・出土遺物実測図 …… 134
第111図　第２号溝断面図 …… 134
第112図　遺構外出土遺物実測図 …… 135

# 表　目　次

表１　周辺遺跡一覧表 …… 7
表２　石棚貝塚東遺跡土坑一覧表 …… 15
表３　内路地台遺跡住居跡一覧表 …… 25
表４　内路地台遺跡土坑一覧表 …… 28
表５　内路地台遺跡火葬墓一覧表 …… 30
表６　念代遺跡住居跡一覧表 …… 79
表７　念代遺跡土坑一覧表 …… 99
表８　平坪遺跡住居跡一覧表 …… 130
表９　平坪遺跡土坑一覧表 …… 133

# 写真図版目次


ＰＬ１　念代遺跡・平坪遺跡全景

ＰＬ２　右線貝塚東遺跡遺構確認状況，第１号住居跡遺物出土状況，調査終了全景

ＰＬ３　内路地台遺跡調査前全景，第１号住居跡遺物出土状況

ＰＬ４　内路地台遺跡第１・２号住居跡完掘状況，第１号火葬墓遺物出土状況，調査終了全景

ＰＬ５　念代遺跡第１号住居跡遺物出土状況，第１・３号住居跡遺物出土状況

ＰＬ６　念代遺跡第４・６・８号住居跡遺物出土状況，第６・８号住居跡完掘状況

ＰＬ７　念代遺跡第７号住居跡遺物出土・完掘状況，第10号住居跡完掘状況

ＰＬ８　念代遺跡第13号住居跡遺物出土・完掘状況，第14号住居跡完掘状況

ＰＬ９　念代遺跡第15号住居跡完掘状況，第17号住居跡竈内遺物出土・完掘状況

ＰＬ10　念代遺跡第18号住居跡遺物出土状況，第19号住居跡完掘状況

ＰＬ11　念代遺跡第１・３・４・39・７・８・26・27・24～29・72号土坑完掘状況

ＰＬ12　念代遺跡第１号竪穴状遺構・第２号地下式壙・第３号地下式壙・第２号溝完掘状況，平坪遺跡第２号溝完掘状況

ＰＬ13　平坪遺跡第１号住居跡遺物出土・完掘状況

ＰＬ14　平坪遺跡第３号住居跡遺物出土・完掘状況

ＰＬ15　右線貝塚東遺跡住居跡・遺構外出土遺物

ＰＬ16　右線貝塚東遺跡遺構外出土遺物

ＰＬ17　内路地台遺跡住居跡・土坑出土遺物

ＰＬ18　内路地台遺跡住居跡・土坑・火葬墓・遺構外出土遺物

ＰＬ19　内路地台遺跡遺構外出土遺物

ＰＬ20　念代遺跡住居跡出土遺物（第１号住～第５号住）

ＰＬ21　念代遺跡住居跡出土遺物（第６号住～第７号住）

ＰＬ22　念代遺跡住居跡出土遺物（第７号住～第13号住）

ＰＬ23　念代遺跡住居跡出土遺物（第12号住～第21号住）

ＰＬ24　念代遺跡第21号住居跡・竪穴状遺構・土坑出土遺物

ＰＬ25　念代遺跡上坑・地下式壙・道路跡・遺物包含層・遺構外出土遺物

ＰＬ26　念代遺跡住居跡・竪穴状遺構・土坑・遺物包含層・遺構外出土土製品及び石製品

ＰＬ27　念代遺跡住居跡・竪穴状遺構・地下式壙遺構外出土石製品及び金属製品

ＰＬ28　平坪遺跡住居跡出土遺物（第１号住）

ＰＬ29　平坪遺跡住居跡出土遺物（第１号住～第３号住）

ＰＬ30　平坪遺跡住居跡・土坑・溝・遺構外出土遺物

# 第1章　調　査　経　緯

## 第1節　調査に至る経過

茨城県は21世紀に向け県土の基盤整備推進の方針のもと，県土60分構想の具体化や円滑な都市交通の確保を図るなど，ゆとりある社会の実現を目指して快適な道路の整備を進めている。主要地方道土浦竜ケ崎線道路改良工事も，こういった趣旨に沿って計画されたものである。土浦市右籾を起点に，花室川を渡り荒川沖までの1,800ｍの道路改良工事は，住宅，宅地関連事業を推進するために，烏山団地付近の交通渋滞の緩和を主な目的に，平成９年開通を目標に計画されたものである。

平成４年６月２日，茨城県（土浦土木事務所）は，茨城県教育委員会に対し，主要地方道土浦竜ケ崎線道路改良工事予定地内における埋蔵文化財の有無について照会した。茨城県教育委員会は，同年10月23日に現地踏査，同年12月１日から２日にかけて試掘調査を実施し，改良工事予定地内に右籾貝塚東遺跡，内路地台遺跡，念代遺跡及び平坪遺跡の存在を確認し，その旨を茨城県に回答した。平成５年１月19日以降，茨城県教育委員会は，茨城県と遺跡の取り扱いについて協議を重ね，その結果，発掘調査による記録保存の措置を講じることにし，茨城県に調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は，茨城県と埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び，平成５年10月１日から平成６年３月31日にかけて，右籾貝塚東遺跡ほか３遺跡の発掘調査を実施することとなった。

## 第2節　調査経過

右籾貝塚東遺跡，内路地台遺跡，念代遺跡及び平坪遺跡の発掘調査は，平成５年10月１日から平成６年３月31日までの６か月にわたって実施した。以下，調査経過について，その概要を月ごとに記述する。

10月　１日から右籾貝塚東遺跡の発掘準備を開始した。５日に試掘グリッドを設定し，調査区南側から試掘を開始し，縄文土器片（前期）を採取して12日までに試掘を終了した。表土が浅いため人力による表土除去を実施し，18日までに住居跡１軒，土坑15基を確認し，遺構調査に入った。25日には右籾貝塚東遺跡の遺構掘り込みをほぼ終了し，実測作業員を残して次の内路地台遺跡の調査に移り，伐開と遺跡清掃を進めた。

11月（右籾貝塚東遺跡）１日までに全測図を作成し，２日には調査終了全景写真を撮影した。

（内路地台遺跡）９日までに表土除去を終了。住居跡２軒，土坑７基，火葬墓２基を確認し，遺構確認状況の写真撮影後，掘り込みを開始した。第１，第２号住居跡からは平安時代の土器が出土した。24日には調査終了全景写真を撮影し調査を終了した。

（念代遺跡）10日から遺跡清掃を開始した。調査区が細長いので，調査区内を横切る道路によって３つの区にわけ，南側から順にＡ区，Ｂ区，Ｃ区と呼称した。Ａ区は伐開，試掘調査後，24日から29日まで重機による表土除去を行った。Ｃ区は17日から試掘調査に入り，29日から12月１日まで重機による表土除去を行った。

（平坪遺跡）17日に試掘を開始し，遺構が確認できたため表土の浅い部分について人力による表土除去を進めた。

12月（念代遺跡）Ａ区は遺構調査に入った。南端から中世の内耳鍋や擂鉢などの遺物が出土し，同時期の遺構

である地下式壙が確認された。また，第5号土坑からは平安時代の黒書土器が出土した。C区は3日までに遺構確認作業を終え，22日から遺構調査に入り，平安時代の土器が比較的多く出土した。

（平坪遺跡）1日，2日に重機による表土除去を行い，古墳時代の住居跡3軒，平安時代の住居跡2軒，土坑8基，溝2条を確認した。22日から遺構の掘り込みに入った。

1月（念代遺跡）C区の遺構調査に平行して，遺物包含層に4mごとに試掘坑を入れた。黒色土の中から須恵器の蓋片や土師器片などの遺物を少量採取したが，遺構は確認できなかった。作物の収穫を待ってB区の調査に着手した。B区を取り囲むようにトレンチを設定して試掘に入った。

（平坪遺跡）遺構調査を継続し，28日に調査終了全景写真撮影を行って調査を終了した。

2月　念代遺跡B区の遺構の掘り込みを継続し，平安時代の土器や鉄製の鎌などが出土した。C区の遺物包含層の調査も継続した。

3月　念代遺跡B区の調査終了写真を4日に撮影した。8日には茨城県への調査報告会を行い，12日に念代遺跡に於いて右根貝塚東遺跡ほか3遺跡の現地説明会を開催した。15日に航空写真撮影を行い，31日までに現地調査を終了し撤収した。

# 第２章　位置と環境

## 第１節　地理的環境

右郷貝塚東遺跡，内路地台遺跡，念代遺跡及び平坪遺跡は，いずれも茨城県土浦市大字右郷に所在し，土浦市役所の南西３kmから3.5kmのところに位置している。

遺跡が所在する土浦市は，茨城県の南部にあり，北から東にかけては新治郡新治村，同千代田町，同出島村に接し，南東は大部分霞ヶ浦に面するが，一部，稲敷郡の阿見町にも接し，南は牛久市，西はつくば市に接している。市域は東西約13km，南北約15km，面積は約92㎢である。土浦市の市街地は，土浦城下（現在のＪＲ常磐線土浦駅西側）を中心に陸前浜街道（現在の国道６号線旧道）沿いに細長く形成されたものであったが，現在ではＪＲ常磐線荒川沖駅，土浦駅，神立駅の周辺と国道６号線，125号線沿いに拡大している。さらに，常磐自動車道の開通，筑波研究学園都市の発展及び東京通勤圏の拡大等の影響から，台地部を中心に住宅地や工場用地が増加している。

土浦市の地形を概観すると，市域の大半は筑波・稲敷台地と桜川流域の低地で，北から南へ30ｍから20ｍの高度でごくゆるい波浪状の起伏が続く。台地を刻む水系は，北部で北から南，南部では北北西から南南東に流れ，広い台地部もあるが，土浦南方，高津付近の台地は小規模な支谷が樹枝状に入り込む谷が多い。台地部は，住宅地，畑地及び平地林などに利用され，桜川流域の低地では稲作や蓮根栽培などが行われている。

右郷貝塚東遺跡ほか３遺跡は，筑波・稲敷台地を流れる花室川右岸の同じ台地上に分布している。右郷貝塚東遺跡はその舌状台地の中央部に位置し，その他の３遺跡は先端部に位置する。右郷貝塚東遺跡の標高は約20ｍで，調査前の現況は畑である。他の３遺跡は標高15～20ｍで，調査前の現況は内路地台遺跡が林，念代遺跡及び平坪遺跡が畑地や荒地となっている。

参考文献

茨城県　「土地分類基本調査　土浦」　1983年12月
大山年次　蜂須紀夫　「茨城県地学のガイド」　1986年11月
大森呂南　蜂須紀夫　「茨城の地質をめぐって」　1987年８月

## 第２節　歴史的環境

霞ヶ浦沿岸地方は，利根川下流域や東京湾沿岸地方とともに，多くの遺跡が存在することで知られている。土浦市にも縄文時代や古墳時代を中心に多くの遺跡が分布しているが，その中で右郷貝塚東遺跡ほか３遺跡周辺の遺跡について時代を追って概観してみたい。

縄文時代早期の遺物が出土した遺跡としては，木（ま）の宮（みや）南遺跡Ｂ〈31〉がある。前期の遺跡は数が多く，花室川の北側にはビヤ首（ぴ）遺跡（早期も含み，前期・中期が主体。）〈62〉，神出（かみいで）遺跡〈72〉があり，花室川の南側には二又（ふたまた）遺跡（主に浮島式土器が出土）〈１〉，後稲（こいね）遺跡〈２〉，竹ノ入（たけのいり）遺跡〈16〉，宮前（みやまえ）遺跡〈37〉，宮塚（みやづか）遺跡（主に浮島式土器が出土）〈38〉，堂地塚（どうちづか）遺跡〈44〉，小西（こにし）遺跡〈48〉がある。中期の遺跡としては，花室川の北側にビヤ首遺跡，国分（こくぶ）遺跡〈61〉，内根（うちね）Ｂ遺跡〈68〉があり，花室川の南側に笹崎（ささざき）遺跡〈13〉，石橋（いしばし）台（だい）遺跡〈14〉，谷原（やはらかど）門遺跡Ａ〈23〉，峰崎（みねさき）遺跡Ａ〈33〉，峰崎遺跡Ｂ〈34〉，峰崎遺跡Ｃ〈35〉，右郷貝塚東

遺跡に隣接する権現前遺跡〈36〉がある。後期の遺跡には，後期・晩期を中心に縄文土器片が多数出土した池の台遺跡〈60〉，内根B遺跡がある。晩期の遺跡としては，峰崎遺跡B，池の台遺跡がある。なお，土浦市の西部，上高津，宍塚地区の台地上に広がる上高津貝塚は，縄文時代後期・晩期につくられた大規模貝塚であり，昭和52年（1977）年には貝塚の4.4ヘクタールが国指定史跡に指定されている。貝層は厚いところで1.85m以上に及び，上位の混土貝層は縄文晩期，中位の純貝層は縄文後期，下位の混土貝層は縄文中期のものと考えられる。後・晩期の地点からはかなりの量の製塩土器片が採集されており，桜川水系のこの時期の生業活動を知る上で重要な貝塚として注目されている。

弥生時代の遺跡としては，調査が行われた土浦市北部の原出口遺跡，原田北遺跡及び原田西遺跡などがある。原出口遺跡では，弥生時代の竪穴住居跡が57軒確認され，弥生土器，紡錘車，石鏃，穂摘具及び磨製石斧などが出土している。原田北遺跡では竪穴住居跡が96軒（内古墳時代29軒），原田西遺跡では12軒確認され，それぞれ弥生式土器，紡錘車，土錘及び敲石などが出土している。これら隣接する3遺跡は，弥生時代後期の大集落を形成していたものと考えられる。当地域周辺では，谷原門遺跡C〈25〉，木の宮南遺跡A〈30〉が存在するが，数は少ない。

古墳時代になると，数多くの大小の集落と古墳が築造された。古墳時代前期の遺跡としては，花室川の北側に亀井遺跡〈19〉，内出後遺跡〈53〉，霞ケ岡北遺跡〈63〉，東谷遺跡〈64〉，内根A遺跡〈67〉があり，南側に堂場台遺跡〈5〉，平遺跡〈7〉，南達中遺跡B〈27〉，堂後遺跡〈51〉がある。中期の遺跡としては谷原門遺跡A，内根A遺跡がある。後期の遺跡も数が多く，花室川の北側に亀井遺跡，内出後遺跡，油麦田遺跡〈54〉，阿ら地遺跡〈55〉，桜ケ岡遺跡〈57〉，小松遺跡〈59〉，池の台遺跡，東谷遺跡，本曽遺跡〈70〉，神出遺跡，霞ケ岡遺跡〈73〉があり，南側に宮脇遺跡〈6〉，平遺跡，南達中遺跡B，馬道遺跡〈28〉，永峰遺跡〈41〉，堂後遺跡がある。不動堂古墳群（円墳2基　共に径10m，高1m）〈3〉，馬道古墳群（円墳5基）〈29〉，霞ケ岡古墳（円墳径15m，高1.5m）〈65〉，中内山古墳群（円墳5基　方墳1基）〈79〉，法泉寺古墳群（円墳4基）〈76〉などの古墳も多い。

奈良・平安時代の遺跡としては，宮脇遺跡，谷原門遺跡C，牧の内遺跡〈40〉がある。南岡遺跡〈52〉では，奈良・平安時代の竪穴住居跡が7軒（古墳時代6軒）確認され，長峰遺跡〈43〉の調査においても，奈良・平安時代の竪穴住居跡が11軒（古墳時代1軒）確認されて，土師器（坏・高台付坏・甕・鉢）や須恵器（坏・甕・鉢・蓋）などが出土している。また，土浦市烏山町に所在する烏山遺跡では，A地区で奈良・平安時代に属する竪穴住居跡が36軒，掘立柱建物跡が3棟確認され，土師器甕，須恵器坏，鉄製紡錘車，鉄鏃，墨書土器などが出土している。B地区でも竪穴住居跡が39軒，掘立柱建物跡5棟が確認され，土師器の坏や皿，須恵器の坏や蓋，「八」，「大反」，「大家」などと書かれた墨書土器，鉄製の紡錘車や鏃，銅製足金物などが出土している。土浦市手野町字五斗落に所在する五斗落遺跡では，奈良・平安時代の竪穴住居跡が16軒確認され，土師器，須恵器や紡錘車，球状土錘，管状土錘などが出土している。また，五斗落遺跡と小谷を挟んで位置する大畑遺跡でも，奈良・平安時代の竪穴住居跡が13軒確認されている。さらに，土浦市田村町，沖宿町に所在する田村・沖宿遺跡では，平安時代の竪穴住居跡が104軒，掘立柱建物跡が81棟確認されている。竈の補強に甕や鉢を使用したり，竈内に坏や小形の甕を重ねているものなどが確認され，漆の付着した坏や墨書土器，灰釉陶器，鉛釉陶器，瓦，鉄器及び皇朝十二銭などが出土している。

中世の館跡としては，太鼓櫓や鐘楼が現存する土浦城のほかに木田余城，今泉城，神立館などが所在している。また，石郷館跡では，土塁や堀跡などが確認され，陶磁器片や土師質の皿が出土している。前述の宮塚遺跡の調査では，中世の遺構である地下式壙が3基確認され，覆土から内耳土器，擂鉢，陶磁器及び香炉などが

出土している。

参考文献

茨城県教育委員会　『茨城県遺跡地図』　1990年３月

土浦市教育委員会　『土浦の遺跡－埋蔵文化財包蔵地－』　1984年３月

土浦市教育委員会　『池の台遺跡調査報告』　1982年３月

土浦市教育委員会　『図説　土浦の歴史』　1991年３月

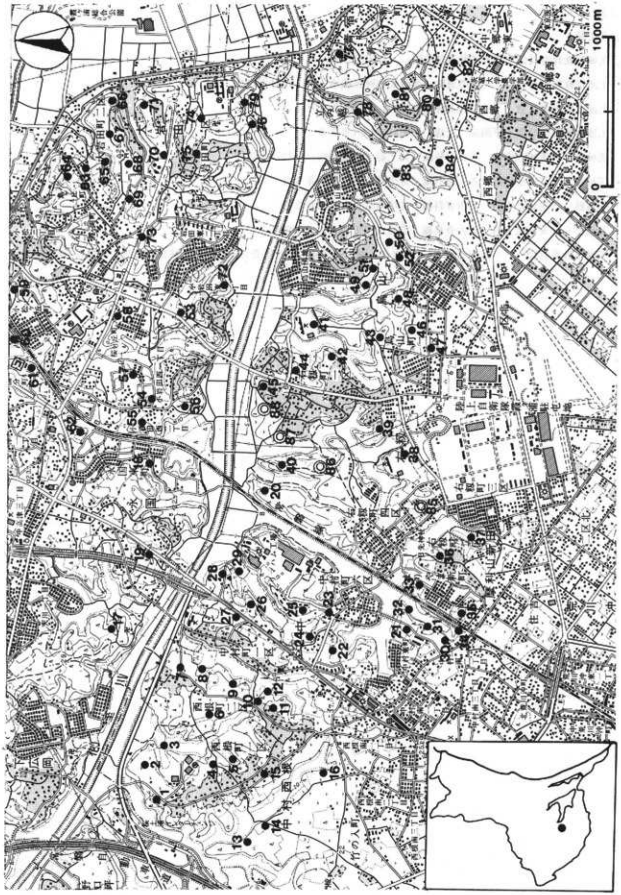
茨城県　『茨城県史料　考古資料編　先土器・縄文時代』　1979年３月

茨城県　『茨城県史料　考古資料編　弥生時代』　1991年３月

茨城県　『茨城県史料　考古資料編　古墳時代』　1974年２月

茨城県　『茨城県史料　考古資料編　奈良・平安時代』　1995年３月

茨城県教育財団　『一般国道125号道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書』　茨城県教育財団調査報告第64集　1991年３月




第２図　周辺遺跡分布図

表1　周辺遺跡一覧表

| 図中番号 | 遺跡名 | 県遺跡番号 | 時代 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈・平 | 中世 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 二又遺跡 | 5226 | | ○ | | | | |
| 2 | 後稲遺跡 | 5227 | | ○ | | ○ | | |
| 3 | 不動堂古墳群 | 1823 | | | | ○ | | |
| 4 | 中新台遺跡 | 5228 | | | | ○ | | |
| 5 | 堂場台遺跡 | 5229 | | | | ○ | | |
| 6 | 宮脇遺跡 | 5230 | ○ | | | ○ | ○ | |
| 7 | 平遺跡 | 5231 | | | | ○ | | |
| 8 | 諏訪遺跡 | 5232 | | | | ○ | | |
| 9 | 平代地遺跡 | 5233 | | ○ | | ○ | | |
| 10 | 白樂所在塚 | 5234 | | | | ○ | | |
| 11 | 大日古墳 | 1821 | | | | ○ | | |
| 12 | 浅間古墳 | 1822 | | | | ○ | | |
| 13 | 笹崎遺跡 | 5236 | | ○ | | | | |
| 14 | 石楼台遺跡 | 5237 | | ○ | | | | |
| 15 | 西所在塚 | 5238 | | | | ○ | | |
| 16 | 竹ノ入遺跡 | 5239 | | ○ | | | | |
| 17 | 寺家ノ後遺跡 | 5279 | | | | ○ | | |
| 18 | 宮久保遺跡 | 5261 | | | | ○ | | |
| 19 | 亀井遺跡 | 5262 | | | | ○ | | |
| 20 | 石塚十三塚 | 5245 | | | | | ○ | |
| 21 | 烏山A遺跡 | 5220 | | | | ○ | | |
| 22 | 天神遺跡 | 5192 | | | | ○ | | |
| 23 | 谷原門遺跡A | 5193 | | ○ | | ○ | | |
| 24 | 谷原門遺跡B | 5194 | | | | ○ | | |
| 25 | 谷原門遺跡C | 5195 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 26 | 南達中遺跡A | 5196 | | | | ○ | | |
| 27 | 南達中遺跡B | 5197 | | | | ○ | | |
| 28 | 馬道遺跡 | 5198 | | | | ○ | | |
| 29 | 馬道古墳群 | 5199 | | | | ○ | | |
| 30 | 木の宮南遺跡A | 5201 | | ○ | ○ | | | |
| 31 | 木の宮南遺跡B | 5202 | | ○ | | ○ | | |
| 32 | 木の宮南遺跡C | 5203 | | ○ | | | | |
| 33 | 峰崎遺跡A | 5204 | | ○ | | | | |
| 34 | 峰崎遺跡B東・B西 | 5205 | | ○ | | | | |
| 35 | 峰崎遺跡C | 5206 | | ○ | | ○ | | |
| 36 | 権現前遺跡 | 5207 | | ○ | | ○ | | |
| 37 | 宮前遺跡 | 5208 | | ○ | | | | |
| 38 | 宮塚遺跡 | 5210 | | ○ | | | | |
| 39 | 小谷遺跡 | 5211 | | | | ○ | | |
| 40 | 牧の内遺跡 | 5213 | | | | ○ | ○ | |
| 41 | 永峰遺跡 | 5216 | | | | ○ | | |
| 42 | 松原遺跡 | 5217 | | ○ | | ○ | | |
| 43 | 長峰遺跡 | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 44 | 堂地塚遺跡 | 5218 | | ○ | | | | |

| 図中番号 | 遺跡名 | 県遺跡番号 | 時代 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈・平 | 中世 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 45 | 沖ノ台遺跡 | 5219 | | | | ○ | | |
| 46 | 烏山A遺跡 | 5220 | | | | ○ | | |
| 47 | 烏山B遺跡 | 5221 | | | | ○ | | |
| 48 | 小西遺跡 | 5222 | | ○ | | ○ | | |
| 49 | 北平南遺跡 | 5223 | | ○ | | ○ | | |
| 50 | 北平北遺跡 | 5224 | | | | ○ | | |
| 51 | 堂後遺跡 | 5225 | | ○ | | ○ | | |
| 52 | 南岡遺跡 | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 53 | 内出後遺跡 | 5250 | | ○ | | ○ | | |
| 54 | 油麦田遺跡 | 5251 | | | | ○ | | |
| 55 | 阿ら地遺跡 | 5252 | | | | ○ | | |
| 56 | いさろ遺跡 | 5253 | | | | ○ | | |
| 57 | 桜ケ丘遺跡 | 5254 | | | | ○ | | |
| 58 | 桜ケ丘古墳 | 5255 | | | | ○ | | |
| 59 | 小松遺跡 | 5256 | | | | ○ | | |
| 60 | 池の台遺跡 | 5257 | | ○ | | ○ | | |
| 61 | 国分遺跡 | 5258 | | ○ | | | | |
| 62 | ビヤ首遺跡 | 5259 | | ○ | | | | |
| 63 | 霞ケ岡北遺跡 | 5247 | | | | ○ | | |
| 64 | 東谷遺跡 | 5248 | | | | ○ | | |
| 65 | 霞ケ岡古墳 | 5249 | | | | ○ | | |
| 66 | ひさご塚古墳 | 1807 | | | | ○ | | |
| 67 | 内根A遺跡 | 5269 | | | | ○ | | |
| 68 | 内根B遺跡 | 5270 | | ○ | | | | |
| 69 | 内根C遺跡 | 5271 | | | | ○ | | |
| 70 | 本曾遺跡 | 5272 | | | | ○ | | |
| 71 | 大若田貝塚 | 3999 | | ○ | | | | |
| 72 | 神出遺跡 | 5274 | | ○ | | ○ | | |
| 73 | 霞ケ岡遺跡 | 5246 | | | | ○ | | |
| 74 | 五蔵遺跡 | 5275 | | | | ○ | | |
| 75 | 中内山古墳群 | 1816 | | | | ○ | | |
| 76 | 法泉寺古墳群 | 5276 | | | | ○ | | |
| 77 | 青窯古墳群 | 1682 | | | | ○ | | |
| 78 | 立の越古墳群 | 3979 | | | | ○ | | |
| 79 | 丸山古墳群 | 3981 | | | | ○ | | |
| 80 | 宮脇遺跡 | 5658 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 81 | 熊野脇遺跡 | 5659 | | ○ | | ○ | | |
| 82 | 阿見貝塚 | 1687 | | ○ | | | | |
| 83 | 立の越館跡 | 5660 | | | | | | ○ |
| 84 | 西郷遺跡 | 5661 | | ○ | | ○ | | |
| ◎85 | 石塚貝塚東遺跡(当遺跡) | 5209 | | ○ | | | | |
| ◎86 | 内路地台遺跡(当遺跡) | 5212 | | ○ | | | ○ | |
| ◎87 | 念代遺跡(当遺跡) | 5214 | | | | ○ | ○ | ○ |
| ◎88 | 平坪遺跡(当遺跡) | 5215 | | ○ | | ○ | ○ | |

# 第３章　右籾貝塚東遺跡

## 第１節　遺跡の概要

右籾貝塚東遺跡は，霞ヶ浦の西方約４㎞のところにあり，霞ヶ浦に流れ込む花室川の右岸，標高約25ｍの台地縁辺上に位置し，調査面積は1,574㎡で，現況は畑地である。

今回の調査によって確認した遺構は，竪穴住居跡１軒（縄文時代前期）と土坑13基である。

遺物は，遺物収納箱（60×40×20㎝）に１箱出土している。大部分は縄文時代前期の土器片である。

## 第２節　基本層序

調査区内（B2c₂区）にテストピットを設定し，第４図に示すような土層の堆積状況を確認した。

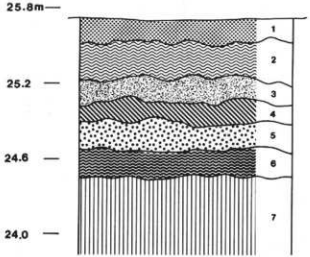
第１層は，20㎝前後の厚さの耕作土層で，暗褐色をしている。

第２層は，25～35㎝の厚さで，褐色のソフトローム層への漸移層である。

第３層は，15～25㎝の厚さで，やや締まりの強い褐色のソフトローム層である。

第４層は，10～15㎝の厚さで，締まりの強い褐色のハードローム層である。

第５層は，20～30㎝の厚さで，締まりの強い褐色のハードローム層である。



第３図　基本土層図

第６層は，20～25㎝の厚さで，ロームブロックを少量含む，締まりの強い褐色のローム層である。

第７層は，65㎝程の厚さで，締まりの強い褐色のローム層である。

第７層の下面では砂と礫が混じる。

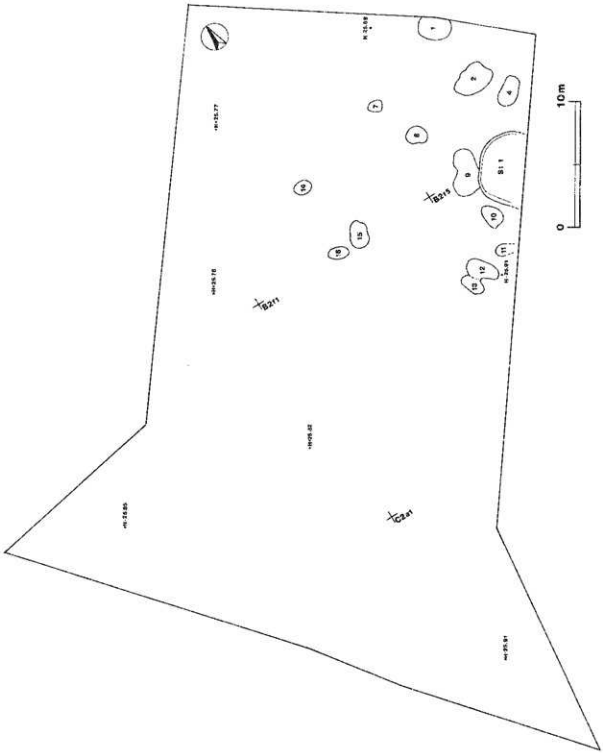
住居跡等の遺構は，第３層上面で確認した。

## 第３節　遺構と遺物

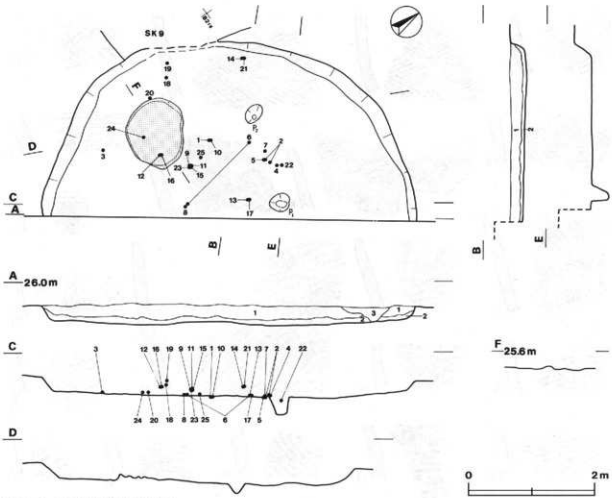
当遺跡では，調査区の東端から縄文時代前期の竪穴住居跡１軒，調査区東部から土坑13基を確認した。住居跡は覆土が薄く，しかも耕作による攪乱を受けており，遺存状態は良くない。土坑は出土遺物も少なくほとんどが細片で，時期や性格を判定できないものが多い。

### １　竪穴住居跡

**第１号住居跡**（第５図）




第４図　右釈貝塚東遺跡全体図




第5図　第1号住居跡実測図

**位置**　調査区の東端，B2f₆区。

**重複関係**　本跡の北西側は第9号土坑に掘り込まれているので，本跡の方が古い。

**規模と平面形**　南東側が調査区外へ延びているため明確でないが，径約6 mの円形と推定される。

**主軸方向**　不明

**壁**　壁高は約28cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，炉周辺は硬く踏み固められている。

**ピット**　2か所（$P_1$，$P_2$）。$P_1$は長径33cm，短径28cmの不整楕円形で，深さは29cm。$P_2$は長径34cm，短径23cmの楕円形で，深さは16cm。$P_1$，$P_2$とも，底面の硬化部分もなく，性格は不明である。

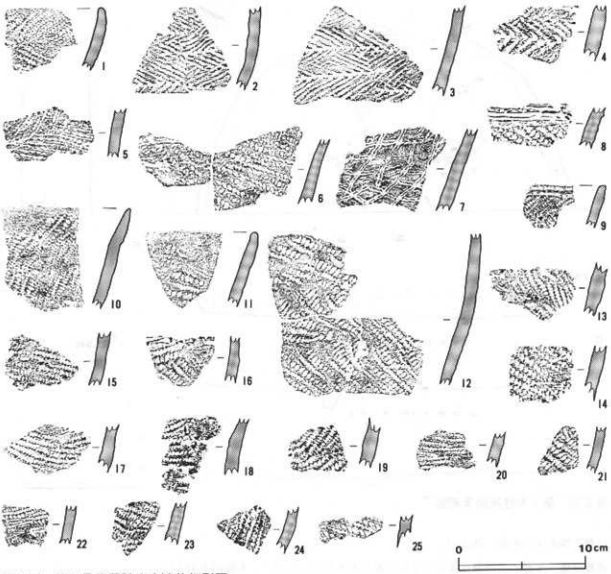
**炉**　中央部からやや西側に位置し，長径110cm，短径93cmの不整楕円形で，床を2cm程掘り下げた地床炉である。炉床は中央部に熱を受けてブロック化した焼土がわずかに確認されている。

**覆土**　自然堆積と思われる。

住居跡土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

**遺物**　住居跡中央部床面付近を中心に，縄文時代の土器が比較的多く出土している。本跡から出土した縄文土器は，すべて縄文時代前期前葉の黒浜式土器の体部片である。胎土に繊維を含んでいる。1～4は羽状縄文




第６図　第１号住居跡出土遺物拓影図

が施されている。６は撚糸文，５は直前段合撚縄文，７は網目状撚糸文が施されている。９～11,13,14,17,19,22～25はＲＬ，8,12,15,17,18,20,21はＬＲの単節縄文が施され，８は平行沈線，９は押引文が施されている。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，縄文時代前期の住居跡と考えられる。

## 2　土坑

遺構確認の段階で16号まで土坑番号を付けたが，調査の結果，風倒木痕の類と判断したもの３基を除いたので，当遺跡では13基の土坑を確認した。そのうち，土坑４基について解説を加え，他の土坑については一覧表にまとめ実測図を掲載する。

### 第１号土坑（第７図）

**位置**　調査区北部，B2c6 区。

**規模と平面形**　長径2.70ｍ，短径1.73ｍの不整楕円形で，深さは0.30ｍである。

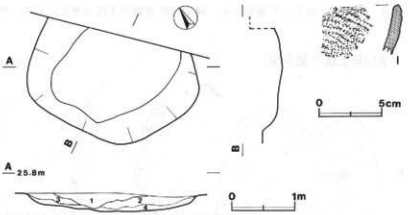
**長径方向**　N－42°－W

**壁面**　緩やかに立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子少量

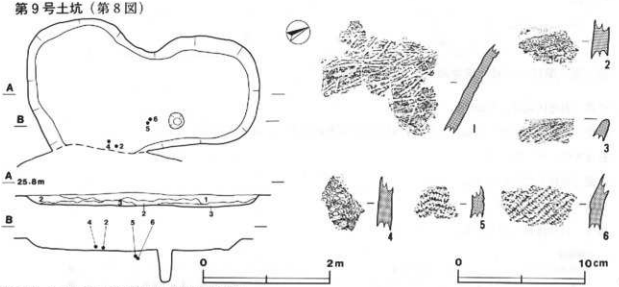


第7図　第1号土坑実測・出土遺物拓影図

**遺物**　覆土中から，縄文時代前期（黒浜式）の土器片が11点出土している。1は繊維を含み，ＲＬの単節縄文が施されている。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，縄文時代前期の土坑と考えられる。性格は不明である。

## 第9号土坑（第8図）



第8図　第9号土坑実測出土遺物拓影図

**位置**　調査区北部，B2f₅区。

**規模と平面形**　長径3.67ｍ，短径2.05ｍの不整楕円形で，深さは0.20ｍである。

**長径方向**　N－25°－E

**壁面**　緩やかに立ち上がる。

**底面**　平坦である。

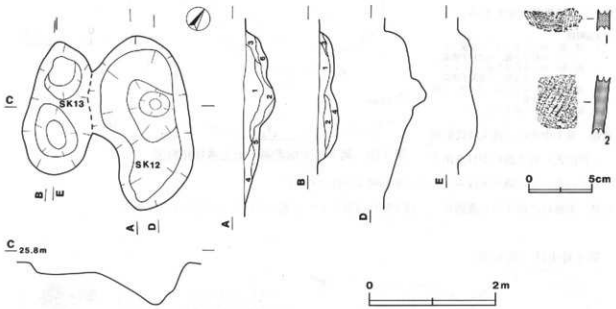
**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量
2　褐　色　ローム粒子多量
3　褐　色　ローム粒子多量

**遺物**　覆土中から縄文時代の土器片が21点出土している。本跡から出土した縄文土器は，縄文時代前期前葉の黒浜式土器片である。いずれも繊維を多量に含んでいる。1は不規則な条痕文が施されている。2は縄文地文に連続爪形文が施されている。3,4はＲＬ,5,6はＬＲの単節縄文が施されている。

所見　本跡は，出土した遺物から，縄文時代前期の土坑と考えられる。性格は不明である。

第12号土坑（第９図）




第９図　第12・13号土坑実測・出土遺物拓影図

**位置**　調査区北部，B2g5区。

**規模と平面形**　長径2.70ｍ，短径〔1.54〕ｍの不整楕円形で，深さは0.67ｍである。

**長径方向**　N－43°－W

**壁面**　外傾して立ち上がる。

**底面**　皿状である。

**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 4 | 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |
| 2 | 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 | 5 | 明褐色　ローム粒子多量，暗褐色土ブロック少量 |
| 3 | 褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 6 | 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量 |

**遺物**　覆土中から，縄文土器片が４点出土している。１，２はいずれも縄文時代前期前葉の黒浜式土器の体部片である。繊維を多量に含み，１は縦や斜め方向の沈線，２はＬＲの単節縄文が施されている。

**所見**　出土した土器片はいずれも縄文時代前期（黒浜式）のものであるが，流れ込みの可能性もあり，時期や性格等は不明である。

第13号土坑（第９図）

**位置**　調査区北部，B2g4区。

**規模と平面形**　長径2.08ｍ，短径〔0.95〕ｍの不整長楕円形で，深さは0.20ｍである。

**長径方向**　N－25°－W

**壁面**　外傾して立ち上がる。

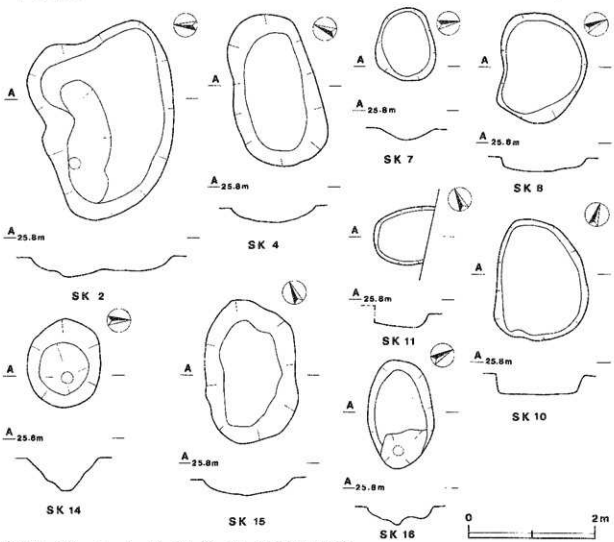
**底面**　皿状である。

**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　覆土中から，縄文土器片が1点出土している。

所見　出土した土器片は縄文時代前期（黒浜式）のものであるが，流れ込みの可能性もあり，時期や性格等は不明である。




第10図　第2・4・7・8・10・11・14～16号土坑実測図

表2　右郷貝塚東遺跡土坑一覧表

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 計測値 長径×短径(m) | 計測値 深さ(cm) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | B2e4 | N－42°－W | 不整楕円形 | 2.70 × 1.73 | 30 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | 縄文土器片11点 | |
| 2 | B2d4 | N－16°－E | 不整楕円形 | 3.35 × 2.38 | 42 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 4 | B2e1 | N－47°－E | 楕円形 | 2.45 × 1.34 | 27 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | | |
| 7 | B2e3 | N－64°－W | 楕円形 | 1.14 × 1.00 | 19 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | | |
| 8 | B2d4 | N－44°－W | 楕円形 | 1.70 × 1.42 | 23 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 9 | B2f5 | N－25°－E | 不整楕円形 | 3.67 × 2.65 | 20 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | 縄文土器片21点 | S11と重複(新旧不明) |
| 10 | B2f5 | N－26°－W | 楕円形 | 1.98 × 1.46 | 33 | 垂直 | 平坦 | 自然 | 縄文土器片2点 | |

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 計測値 長径×短径(m) | 深さ(cm) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | B2g5 | N－66°－W | 不整楕円形 | (0.86)×0.89 | 24 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 縄文土器片3点 | |
| 12 | B2g5 | N－43°－W | 不整楕円形 | 2.70 ×(1.54) | 67 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 縄文土器片4点 | SK13と重複(新旧不明) |
| 13 | B2g4 | N－25°－W | 不整長楕円形 | 2.08 ×(0.95) | 20 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 縄文土器片1点 | SK12と重複(新旧不明) |
| 14 | B2d2 | N－59°－W | 円形 | 1.34 × 1.22 | 51 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | | |
| 15 | B2c3 | N－20°－E | 楕円形 | 2.30 × 1.46 | 28 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | | |
| 16 | B2e2 | N－90°－W | 楕円形 | 1.73 × 1.05 | 57 | 緩傾 | 凸凹 | 自然 | | |

## 3　遺構外出土遺物（第11図）

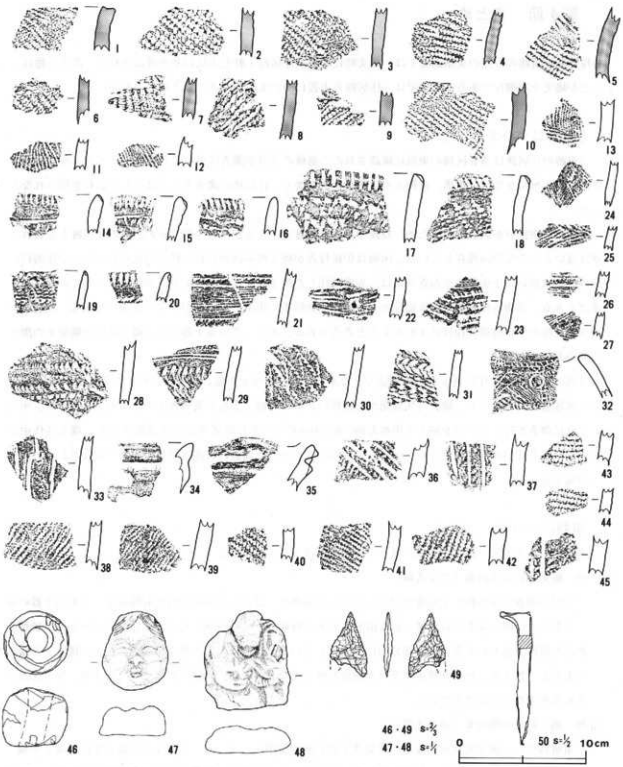
1～10は縄文時代前期前葉の黒浜式土器の体部片である。繊維を多く含み，縄文が施文されている。1～6はＲＬ，7はＬＲの単節縄文が施され，8は無節縄文が施されている。9は附加条1種附加1条の縄文が施されている。10は羽状縄文が施されている。11～13は浮島Ⅰ式土器の体部片で，撚糸文が施されている。14～20は（浮島Ⅱ～Ⅲ）式土器の口縁部片で，口縁端部には刻み目が見られる。14，15は横方向の沈線と貝殻腹縁文が施されている。16は横方向の刺突文が施されている。17，18は貝殻腹縁文が施されている。19，20は刺突文が施されている。21～30は浮島Ⅱ～Ⅲ式土器の体部片である。21～23には横方向の沈線と押引文，24～27は櫛目状工具による集合沈線が施されている。28～30には貝殻腹縁文，31には連続爪形文が施されている。32は諸磯式土器の口縁部で，地文はＲＬの単節縄文が施され，半截竹管による押引文，円形刺突文，平行沈線などが施文されている。33は称名寺式土器の体部で，沈線が施されている。34～45は加曽利Ｅ式土器である。34，35は口縁部で横方向の太い沈線が巡っている。36，37は体部片でＲＬの単節縄文を地文に，沈線が施されている。38～40はＲＬ，41～45はＬＲの単節縄文が施されている。45には縦方向の沈線が施文されている。

遺構外出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 高さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第11図46 | 土玉 | 径 | (2.6) | (2.3) | 0.9 | (11.7) | 表採 | DP1 |
| 47 | 泥面子 | 2.1 | 1.8 | 0.8 | － | 2.6 | 表採 | DP2 |
| 48 | 泥面子 | 2.7 | 2.3 | 0.7 | － | 3.4 | 表採 | DP3 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第11図49 | 石鏃 | (2.6) | (1.5) | (0.4) | (0.7) | チャート | 表採 | Q1 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第11図50 | 釘 | 7.1 | 1.7 | 0.7 | 15.9 | 鉄 | 表採 | M1 |




第11図　遺構外出土遺物実測・拓影図

## 第4節　まとめ

右堀貝塚東遺跡の今回の発掘調査では，縄文時代の竪穴住居跡1軒と土坑13基が確認された。出土遺物はほとんどが縄文土器細片である。ここでは，住居跡と土器について時期ごとにまとめてみたい。

### 1　住居跡について

当遺跡の住居跡は調査区域の東端に確認された。遺構の半分が調査区外に延びていることや，現況が畑で耕作により撹乱を受け，遺構，遺物ともに遺存状態が悪く，住居跡の調査としては十分な資料を得られなかった。

遺構の南東部分が調査区外のため，規模や平面形は推定となるが，直径約6ｍの円形の住居跡と思われる。壁は高いところで28cm残存している。床面は炉跡付近が硬く踏み固められた様子が見られるが，全体的には踏み固めは弱い。中央部やや西寄りには，赤変硬化した焼土ブロックが広がり，炉が設けられていたことが確認できる。遺物は住居跡中央床面付近を中心に比較的多く出土しているが，すべて細片である。住居が放棄された後の早い時期に投げ込まれたものと考えられる。出土している土器は全て縄文時代前期前葉の黒浜式期のものである。

今回の調査では，住居跡1軒しか確認できなかったが，平成元年度に調査が行われた北西約350ｍに位置する宮塚遺跡においても，縄文時代前期から後期にかけての縄文土器が遺構覆土中から出土している。平成6年度に調査が行われた谷を隔てて南西方向へ約300ｍのところに位置する宮前遺跡からも，縄文時代中期を中心にした住居跡群が確認されている。これらのことから，周辺には縄文時代の集落が形成されていたことが窺える。

### 2　遺物について

当遺跡から出土した縄文土器は，概して3期に分けることができる。

Ⅰ期　縄文時代前期前葉（黒浜式期）

今回の調査で住居跡や土坑覆土中から出土した遺物は，ほとんどが縄文時代前期前葉の黒浜式土器の細片である。今回の調査では遺構と最も関わりのある時期が，この時期である。土器断面は胎土中の繊維が燃えた痕跡と思われる黒色で，部分的に空洞化している。外面は単節の縄文が施され，羽状構成をとるものもある。撚糸文，網目状撚糸文及び直前段合撚糸文などのほか，半截竹管による平行沈線，押引文及び連続爪形文などが施されている。

Ⅱ期　縄文時代前期後葉（浮島式期）

遺構外から，縄文時代前期後葉の浮島式土器が極少量出土している。浮島Ⅰ式土器は単節の縄文が施されている。浮島Ⅲ式土器は，口縁端部に刻み目を持つものが多く，体部には貝殻を利用した沈線，腹縁文及び連続爪形文，半截竹管を利用した押引文，連続爪形文，櫛目状工具による集合沈線などが施されている。

Ⅲ期　縄文時代中期中葉・後葉（加曽利E式期）

遺構外から，縄文を地文に，沈線が施され，口縁部に渦巻文を有する縄文時代中期の加曽利E式土器も僅かに出土している。

# 第４章　内路地台遺跡

## 第１節　遺跡の概要

内路地台遺跡は，霞ヶ浦の西方約3.5km，右根貝塚東遺跡の北北東約850ｍのところにあり，霞ヶ浦に流れ込む花室川の右岸，標高約20～25ｍの台地縁辺上に位置し，調査面積は960㎡で，現況は山林である。

今回の調査で確認した遺構は，竪穴住居跡２軒（平安時代），火葬墓２基（平安時代）及び土坑７基である。２軒の住居跡は台地の南縁辺部で確認し，第１号住居跡が第２号住居跡を包み込む形で重複している。また，土坑の多くも台地の南側縁辺部に分布している。

出土遺物は，縄文時代早期，前期，後期の土器片，平安時代の土師器片（坏，甕，甑，鉢），須恵器片（坏，甕，甑，高台付坏，盤）及び鉄鏃などである。

## 第２節　基本層序

調査区内（A1k₂区）にテストピットを設け，第12図に示すような土層の堆積状況を確認した。

なお，表土除去により耕作土等は取り除かれている。

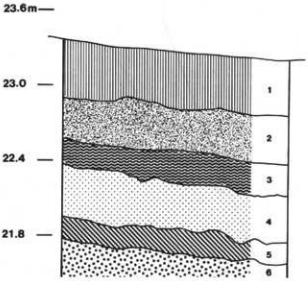
第１層は，40～45cmの厚さで，褐色のソフトローム上層である。

第２層は，35～40cmの厚さで，褐色のソフトローム下層である。

第３層は，20～30cmの厚さで，鈍い褐色のローム層である。

第４層は，35～45cmの厚さで，褐色のハードローム層である。

第５層は，15～25cmの厚さで，粘土ブロックを少量含む鈍い褐色のローム層である。



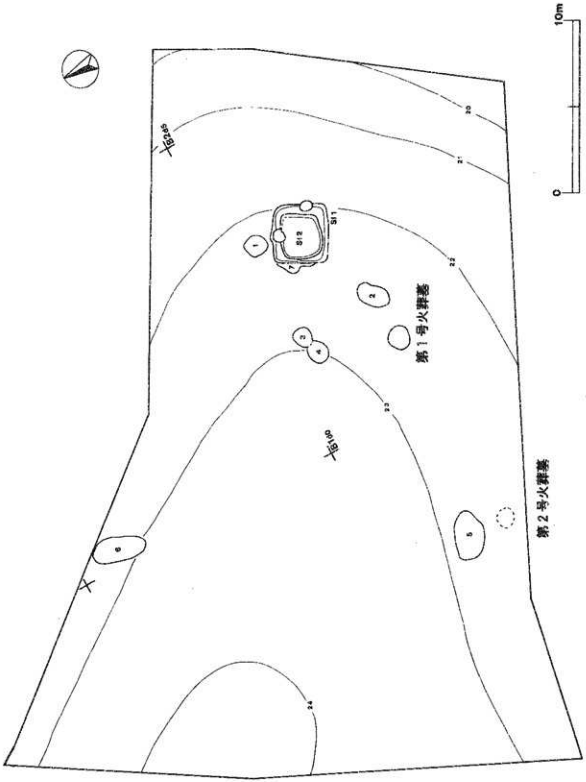
第12図　基本土層図

第６層は，15～20cmの厚さで，鈍い褐色の粘土層である。

住居跡等の遺構は，第１層上面で確認した。

## 第３節　遺構と遺物

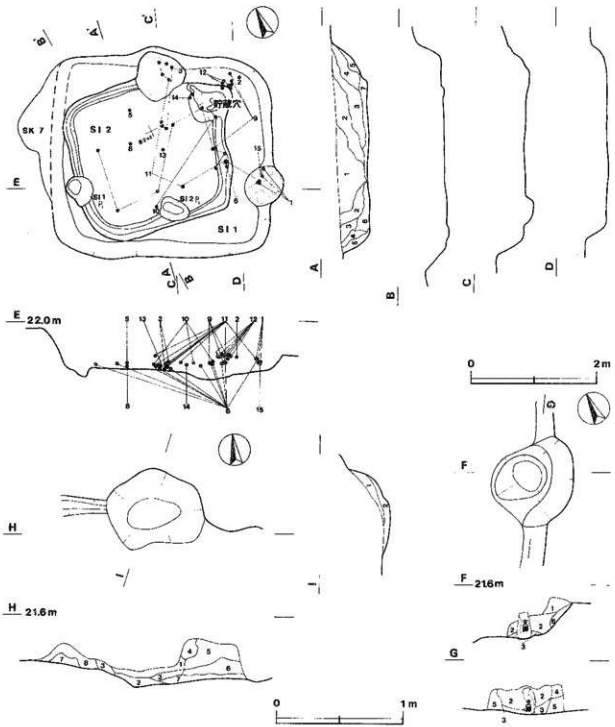
当遺跡では，竪穴住居跡（平安時代）２軒，火葬墓（平安時代）２基及び土坑７基を確認した。遺構は覆土が薄いことや樹木や篠竹の根による撹乱を受けており，遺存状態は良くない。住居跡は調査区南端の台地縁辺部に位置し，第１号住居跡は第２号住居跡を拡張して構築している。




第13図　内路地台遺跡全体図

## 1　竪穴住居跡

### 第1号住居跡（第14図）




第14図　第1・2号住居跡実測図

**位置**　調査区の南部，B2cz区。

**重複関係**　本跡は，第2号住居跡を拡張して構築しているので，本跡の方が新しい。

**規模と平面形**　長軸3.44m，短軸3.22mの隅丸方形である。

**主軸方向**　N－115°－E

**壁**　壁高は約42cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，踏み固めは弱い。

ピット　P1は長径50cm，短径40cmの格円形で，深さは15cmの入り口施設に伴うピットである。

竈　南東壁中央からやや南寄りを壁外に25cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は長さ130cm，幅115cmである。両袖とも痕跡を残す程度で，火床部はわずかに掘り込まれ赤変硬化した焼土が薄く堆積している。煙道部は，火床面から約45度で立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰褐色　ローム粒子・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　灰褐色　砂粒少量，焼土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量
6　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　自然堆積と思われる。

住居跡土層解説

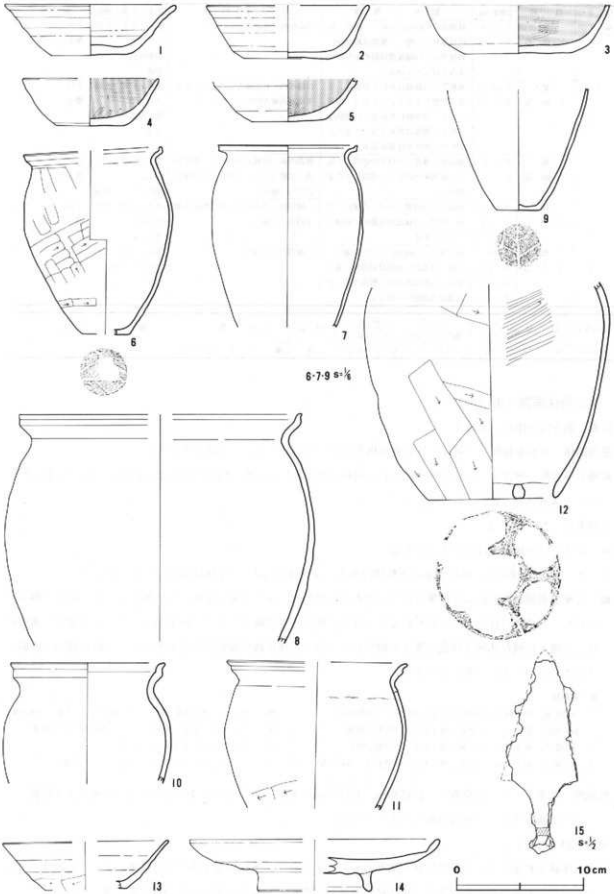
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量
6　暗褐色　炭化物・ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　覆土中から，土師器片133点，須恵器片27点，鉄鎌1点及び混入と思われる縄文土器細片4点が出土している。1の土師器坏は東竈内，3の土師器坏は北竈から出土している。5の土師器坏及び13の須恵器坏はともに覆土下層から出土している。

所見　本跡は，出土した遺物から，10世紀前半の住居跡と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 巻15図 1 | 坏 上師器 | A 13.6<br>B 3.9<br>C 6.1 | 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。底部外面へラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>砂粒<br>鈍い橙色　普通 | P1　95%<br>覆土中層 |
| 2 | 坏 上師器 | A 13.0<br>B 4.3<br>C 6.9 | 体部から口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り後ナデ。 | 長石・雲母・砂粒<br>スコリア<br>鈍い橙色　普通 | P2　70%<br>覆土中層 |
| 3 | 坏 土師器 | B( 3.9)<br>C 8.4 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。 | 体部から底部内面へラ磨き。底部外面へラ削り後ナデ。 | 長石・雲母・砂粒<br>スコリア<br>鈍い橙色　普通 | P3　40%<br>覆土下層<br>内面黒色処理 |
| 4 | 坏 土師器 | A(10.6)<br>B 3.8<br>C( 5.4) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面横方向の丁寧なヘラ磨き，外面下端へラ削り後ナデ。底部内面へラ磨き，外面へラ削り後ナデ。 | 雲母・砂粒<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P4　20%<br>覆土<br>内面黒色処理 |
| 5 | 坏 土師器 | B( 3.4)<br>C 3.9 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は下端で小さな稜を作って内彎気味に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部から底部内面へラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>小石・スコリア<br>橙色<br>普通 | P5　50%<br>覆土下層<br>内面黒色処理 |
| 6 | 皿 土師器 | A(21.4)<br>B 29.7<br>C( 7.4) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，頂部は「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾し，端部は真上につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横方向のナデ。体部上位縦方向のヘラ削り，中位斜め方向のヘラ削り，下位横方向のヘラ削り。 | 長石・雲母・砂粒<br>鈍い橙色<br>普通 | P6　60%<br>覆土中層<br>底部木葉痕 |
| 7 | 甕 土師器 | A 22.2<br>B(29.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頂部は強く外反する。口縁端部は真上につまみ上げられ，中央に沈線が巡る。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>砂粒<br>鈍い橙色<br>普通 | P7　40%<br>覆土 |
| 8 | 甕 上師器 | A(22.4)<br>B(18.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頂部は緩やかに外反する。口縁部は外傾し，端部はつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・雲母・砂粒<br>鈍い赤褐色<br>普通 | P8　20%<br>覆土下層 |
| 9 | 甕 土師器 | B(19.1)<br>C 7.0 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。底部内面やや上げ底気味。 | 体部外面一部ヘラナデ。 | 長石・雲母・砂粒<br>鈍い橙色<br>普通 | P9　30%<br>覆土中層<br>底部木葉痕 |




第15図　第１号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・硬度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 巻15図10 | 甕<br>土師器 | A 12.0<br>B( 9.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は球状に内弱し，頸部は緩やかに外反する。口縁端部は斜め上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外頻横方向のナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>明赤褐色<br>普通 | P16 30%<br>覆土中層 |
| 11 | 壺<br>土師器 | A(14.0)<br>B(11.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内弱しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外開し，端部は斜め上方につまみ上げられ，中央を沈線が巡る。 | 口縁部内・外頻横方向のナデ。体部下端外面横方向のヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>鈍い赤褐色<br>普通 | P11 20%<br>覆土下層 |
| 12 | 甑<br>土師器 | B(17.0)<br>C 10.2 | 底部から体部にかけての破片。6孔式。底部中央円孔1，周辺に本の紫状孔5。 | 体部内面上位横方向の調ま。体部外面上位横方向のヘラ削り，下位縦方向のヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>小石<br>橙色　普通 | P12 40%<br>覆土中層 |
| 13 | 坏<br>須恵器 | A( 8.1)<br>B 3.8<br>C( 6.2) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外開して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>灰白色<br>普通 | P13 20%<br>覆土下層 |
| 14 | 甕<br>須恵器 | A(19.7)<br>B 4.1<br>D( 8.9)<br>E 1.7 | 高台部から口縁部にかけての破片。平底。付高台。底台は直線的に垂下する。底部は緩やかに彎曲する。口縁部は直線的に外開する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>灰オリーブ色<br>良好 | P31 50%<br>覆土中層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | | 材質 | 出土位置 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | | |
| 巻15図15 | 鉄鏃 | 10.2 | 3.8 | 0.4 | 30.5 | 鉄 | 覆土中層 | M1 | |

## 第2号住居跡（第14図）

**位置**　調査区の南部，B2e-区。

**重複関係**　本跡を拡張して第1号住居跡が構築されていることから，本跡の方が古い。

**規模と平面形**　壁は第1号住居跡が造られる過程で壊されているが，壁溝の存在から長軸2.55m，短軸（2.36m）の隅丸方形と推定される。

**主軸方向**　N－21°－E

**床**　第1号住居跡とほぼ同じ床面である。

**ピット**　P1は長径50cm，短径30cmの不整楕円形で，深さは15cmの入り口施設に伴うピットである。

**竈**　北壁中央部を掘り込んで構築されていたものと思われ，後に本跡を拡張して構築された第1号住居跡の壁面にも，当遺構に伴うものと思われる15cmほどの掘り込みが確認できる。砂質粘土で造られた袖部と赤変硬化した焼土の残存状況及び竈内覆土の観察から，第1号住居跡の竈が構築された後も，本跡の竈が引き続き使用されていたものと考えられる。

**竈土層解説**

1　灰褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
2　鈍い褐色　粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　灰褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　鈍い褐色　粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　褐　色　ローム粒子多量，焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子・粘土ブロック少量，焼土粒子微量
7　褐　色　ローム粒子多量，粘土ブロック中量
8　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

**貯蔵穴**　北東コーナーに位置し，長径80cm，短径70cmの不整円形で，深さは65cmである。黒褐色土が堆積している。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

**遺物**　出土していない。

**所見**　本跡を拡張して第1号住居跡が構築されていることや，本跡の竈が第1号住居跡においても使用されていると思われることから，第1号住居跡とほとんど時期差がない10世紀前半の住居跡と考えられる。

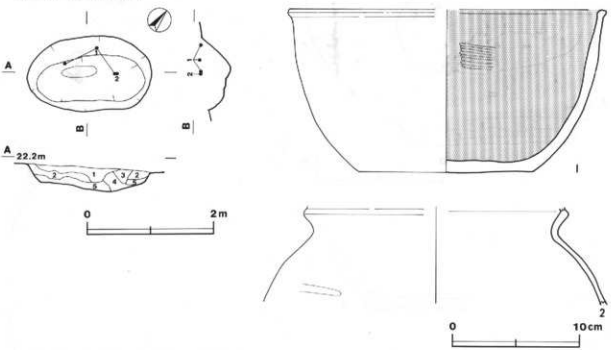
表3　内路地台遺跡住居跡一覧表

| 住居跡番号 | 位置 | 主軸方向（長軸方向） | 平面形 | 規模(m)（長軸×短軸） | 壁高(cm) | 床面 | 内部施設 主柱穴 | 貯蔵穴 | ピット | 入口 | 竈 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | B2e₂ | N－115°－E | 隅丸方形 | 3.44×3.22 | 42 | 平坦 | － | － | － | 1 | 1 | 自然 | 土師器(甕・壺・鉢)，須恵器(坏・高台付坏・蓋)，縄文土器，鉄鏃 | SK7→SI 2→本跡 |
| 2 | B2e₂ | N－21°－E | 隅丸方形 | 2.55×2.36 | 32 | 平坦 | － | 1 | － | 1 | 1 | 自然 | | SK7→本跡→SI 1 |

## 2　土坑

当遺跡で確認した土坑7基のうち，2基について解説を加え，他は計測値を一覧表にまとめ，実測図を掲載する。

### 第2号土坑（第16図）




第16図　第2号土坑・出土遺物実測図

**位置**　調査区北部，B2e₁区。

**規模と平面形**　長径1.96m，短径1.17mの楕円形で，深さは0.43mである。

**長径方向**　N－51°－E

**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　皿状である。

**覆土**　人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム小ブロック中量
5　褐　色　ローム粒子多量

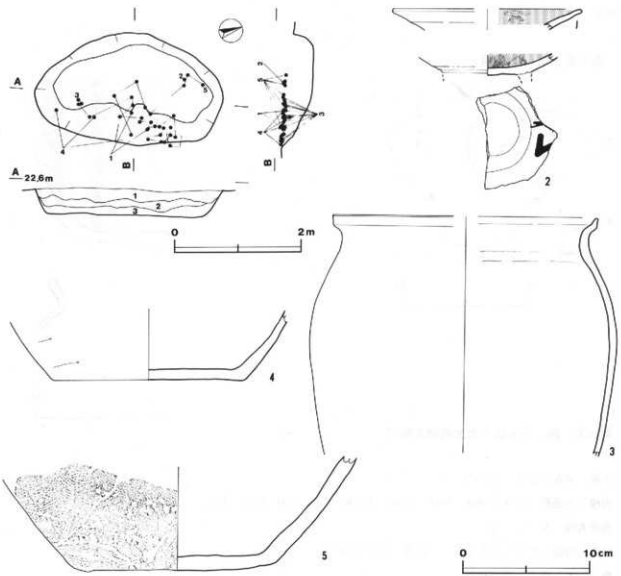
**遺物**　覆土中から，土師器片32点及び縄文土器片4点が出土している。1の土師器鉢及び2の土師器甕は覆土上層から出土している。

**所見**　遺物は，主に覆土上層から出土しており，時期や性格等は不明である。

第２号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第16図<br>1 | 鉢<br>土師器 | A〔24.8〕<br>B 12.9<br>C〔13.8〕 | 底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁端部はつまみ出されている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面横方向のヘラ磨き，外面横方向のヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通 | P14　45%<br>覆土上層<br>内面黒色処理 |
| 2 | 甕<br>土師器 | B( 7.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頂部は「く」の字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横方向のナデ。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通 | P15　5%<br>覆土上層 |

第５号土坑（第17図）




第17図　第５号土坑・出土遺物実測図

**位置**　調査区北部，B1es区。

**規模と平面形**　長径2.97ｍ，短径1.78ｍの不整楕円形で，深さは0.38ｍである。

**長径方向**　N－68°－W

**壁面**　緩やかに立ち上がる。

**底面**　皿状である。

**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

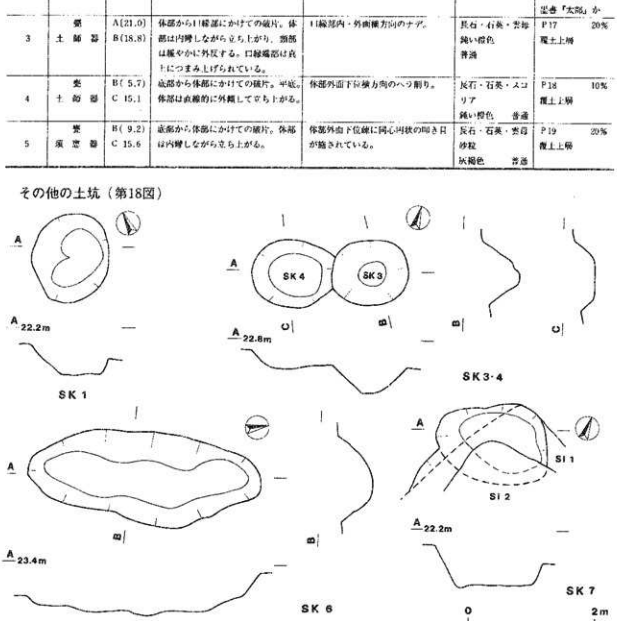
**遺物**　覆土中から，土師器片23点，須恵器片4点及び縄文土器片6点が出土している。1の土師器皿，2の高台付皿，3及び4の土師器甕，5の須恵器の甕はいずれも覆土上層から出土している。

**所見**　遺物は，主に覆土上層から出土しており，時期や性格等は不明である。

第5号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第17図<br>1 | 皿<br>土師器 | A(14.2)<br>B( 1.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎し，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から体部内面へラ磨き。 | 長石・雲母<br>鈍い褐色<br>普通 | P16　10%<br>覆土上層<br>内面黒色処理 |
| 2 | 高台付皿<br>土師器 | B( 1.7) | 底部から体部下位にかけての破片。 | 体部内面へラ磨き。 | 長石・雲母<br>鈍い褐色<br>普通 | P32　10%<br>覆土上層<br>内面黒色処理<br>墨書「太部」か |
| 3 | 甕<br>土師器 | A(21.0)<br>B(18.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。口縁端部は真上につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横方向のナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P17　20%<br>覆土上層 |
| 4 | 甕<br>土師器 | B( 5.7)<br>C 15.1 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 体部外面下位横方向のヘラ削り。 | 長石・石英・スコリア<br>鈍い橙色　普通 | P18　10%<br>覆土上層 |
| 5 | 甕<br>須恵器 | B( 9.2)<br>C 15.6 | 底部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。 | 体部外面下位縦に同心円状の掻き目が施されている。 | 長石・石英・雲母<br>沙殺<br>灰褐色　普通 | P19　20%<br>覆土上層 |

その他の土坑（第18図）



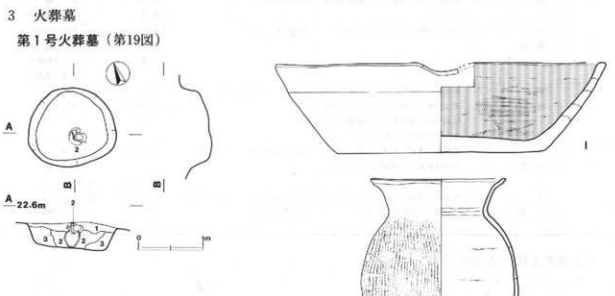

第18図　第1・3・4・6・7号土坑実測図

表4　内路地台遺跡土坑一覧表

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規模 長径×短径(m) | 規模 深さ(cm) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係（古→新） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | B2d₂ | N－44°－E | 楕円形 | 1.46 × 1.25 | 40 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器片(高台付坏・甕) | |
| 2 | B2e₁ | N－51°－E | 楕円形 | 1.96 × 1.17 | 43 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 土師器(甕・鉢),縄文土器 | |
| 3 | B2d₁ | N－71°－E | 円形 | 1.23 × 1.20 | 52 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 縄文土器 | SK 4 と重複(新旧不明) |
| 4 | B2d₁ | N－72°－E | 楕円形 | (1.25)× 1.07 | 29 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 縄文土器 | SK 3 と重複(新旧不明) |
| 5 | B1e₄ | N－68°－W | 不整楕円形 | 2.97 × 1.78 | 38 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(長台付皿・甕),須恵器(坏・甕),縄文土器 | |
| 6 | A1j₆ | N－11°－E | 不整長楕円形 | 3.39 × 1.48 | 52 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(甕),須恵器(坏) | |
| 7 | B2d₂ | N－66°－E | 不整楕円形 | 2.30 ×(0.65) | 42 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | SK 7→SI 2→SI 1 |

## 3　火葬墓

### 第1号火葬墓（第19図）




第19図　第1号火葬墓・出土遺物実測図

**位置**　調査区の中央部，B2e₁区。

**規模と平面形**　長径1.40m，短径1.25mの不整楕円形で，深さは0.37mである。

**長径方向**　N－22°－E

**壁面**　緩やかに外傾しながら立ち上がる。　**底面**　皿状である。

**覆土**　土層中のロームブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量

2　暗褐色　ローム中ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子微量

3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

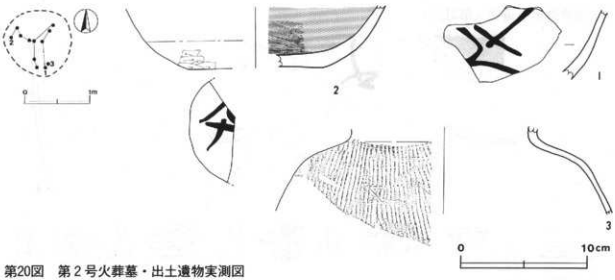
**遺物**　覆土中から，土師器片6点，須恵器片2点及び流れ込みと思われる縄文土器片1点が出土している。2の須恵器の甕に1の土師器の片口鉢で蓋をした蔵骨器が底面近くから出土しており，蔵骨器中には火葬骨と思われる小骨片が入れられている。

所見　本跡は，出土した遺物から，平安時代の火葬墓と考えられる。

第１号火葬墓出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第19図<br>1 | 片口鉢<br>土師器 | A 26.0<br>B 7.1<br>C 16.4 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁部に１か所注ぎ口が付けられている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面ヘラ磨き。輪積痕が明瞭に残る。底部内面ヘラ磨き。 | 長石・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P20　70%<br>覆土<br>内面黒色処理 |
| 2 | 甕<br>須恵器 | A 21.4<br>B 30.0<br>C 17.0 | 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面平行叩き，外面下位横方向のヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア・小石<br>灰白色　良好 | P22　90%<br>底面<br>器内に火葬骨 |

第２号火葬墓（第20図）




第20図　第２号火葬墓・出土遺物実測図

位置　調査区の中央部，B1e7区。

規模と平面形　撹乱により遺構の底面だけが確認されたが，長径〔1.06〕m，短径〔1.04〕mの円形と思われる。

長径方向　N－67°－W

底面　皿状である。

遺物　底面から，土師器片10点及び須恵器片10点が出土し，わずかではあるが骨片が出土している。須恵器片の焼成や調整法は，第１号火葬墓の蔵骨器と極めて似通っている。１の土師器坏，２の土師器鉢及び３の須恵器甕は，いずれも底面から出土している。

所見　本跡は，第１号火葬墓と形状や出土遺物が似通っていること及び骨片が出土していることから，平安時代の火葬墓と考えられる。

第２号火葬墓出土遺物観察表

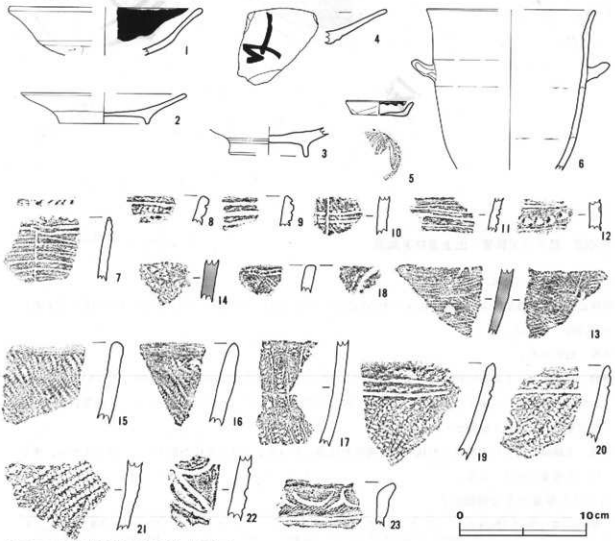
| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第20図<br>1 | 坏<br>土師器 | B(6.3) | 体部片。体部は内彎しながら立ち上がる。 | 体部内面ヘラ磨き。 | 長石・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P24　5%<br>覆土<br>内面黒色処理<br>体部外面墨書 |
| 2 | 鉢<br>土師器 | B(4.8)<br>C〔10.6〕 | 底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。 | 体部から底部内面横方向の丁寧なヘラ磨き。体部外面下端ヘラ削り。 | 長石・石英・スコリア<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P21　10%<br>覆土<br>内面黒色処理<br>底部外面墨書 |

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 甕<br>須恵器 | B(6.9) | 体部上位片。体部は内彎しながら立ち上がる。 | 体部上位外面平行叩き。 | 長石・雲母<br>灰オリーブ色<br>普通 | P23　20%<br>覆土 |

表5　内路地台遺跡火葬墓一覧表

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規模 長径×短径(m) | 規模 深さ(cm) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | B2e₁ | N－22°－E | 不整楕円形 | 1.40 × 1.25 | 37 | 緩傾 | 皿状 | 人為 | 土師器(坏・甕・鉢),須恵器(甕・蓋) | |
| 2 | B1e₁ | N－67°－W | 円　形 | [1.06]×[1.04] | 不明 | 不明 | 皿状 | 不明 | 土師器片(坏・鉢),須恵器(甕) | |

## 4　遺構外出土遺物（第21図）




第21図　遺構外出土遺物実測・拓影図

遺構外出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第21図<br>1 | 坏<br>土師器 | A(15.2)<br>B(3.8) | 体部片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下位横方向のヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>褐灰色<br>普通 | P25　20%<br>覆土<br>口縁部油煙付着 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第21図 2 | 高台付鉢 土師器 | A[13.1] B 2.4 D 7.1 E 0.9 | 高台部から口縁部にかけての破片。平底。付高台。高台は更く端部が薄くなる。体部，口縁部は直線的に外旋して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。高台部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 純い黄橙色 普通 | P25 50% 覆土 |
| 3 | 高台付鉢 土師器 | B[ 2.4] D[ 6.0] E 0.9 | 高台部から底部にかけての破片。平底。高台は薄く短く直線的に垂下する。 | 高台部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 暗灰色 普通 | P27 20% 覆土 |
| 4 | 鉢 土師器 | | 体部片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母 スコリア 純い黄橙色 普通 | P30 10% 覆土 内面黒色処理 体部外面墨書 |
| 5 | 小形鉢 土師器 | A 5.4 B 1.1 C[ 4.2] | 底部から口縁部片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り。体部外面下端ヘラ削り。 | 長石・石英 橙色 普通 | P28 40% 覆土 口縁部油煙付着 |
| 6 | 壺 須恵器 | A[26.6] B(25.5) | 体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。体部上位に一対の把手が付く。 | 口縁部内・外面ナデ。体部に明瞭な輪積痕。 | 長石・小石 純い黄色 普通 | P29 30% 覆土 |

7～11は縄文時代早期中葉の三戸式土器である。7～9は口縁部片で，7は口縁部に半截竹管による押引文が施され，口縁端部に刻み目がある。体部には縦と横方向の沈線が施されている。8，9は横方向の沈線が施されている。10，11は体部片で，10は横方向の平行沈線の上下に連続刺突文が施され，11は沈線が横方向に施されている。12は早期中葉の田戸下層式土器の体部片で，半截竹管による横方向の連続爪形文が沈線間に施されている。13は早期後葉の茅山式土器の体部片で，胎土は繊維を含み，表・裏面に貝殻条痕文が施されている。14は前期前葉の黒浜式土器の体部片で，胎土は繊維を含み，RLの単節縄文が施されている。15～17は前期後葉の浮島Ⅰ式土器である。15，16は口縁部片で，RLの単節縄文が施されている。17は体部片で，附加条1種附加1条の縄文が施されている。18は前期後葉の諸磯式土器の口縁部片で，半截竹管による爪形押引文が施されている。19～22は後期前葉の堀ノ内式土器である。19，20は口縁部片で，口縁部に平行沈線が巡り，LRの単節縄文が施文され，地文として，20は複節の縄文が施されている。21，22は体部片で，21はLRの単節縄文が施文され，22は沈線が施されている。23は晩期前葉の安行Ⅲa式土器の口縁部片で，三叉文，下向弧線文及び沈線が施され，部分的に縄文が施文されている。

## 第4節　まとめ

内路地台遺跡の今回の発掘調査では，竪穴住居跡2軒，土坑7基及び火葬墓2基が確認され，遺構から土師器及び須恵器，遺構外から縄文土器片が出土している。ここでは，遺構と遺物について，時期ごとに簡単にまとめてみたい。

### 1　縄文時代

この時期に該当する遺構は確認されていない。出土した縄文土器は，縄文時代早期中葉の三戸式及び田戸下層式，早期後葉の茅山下層式，前期前葉の黒浜式，前期後葉の浮島式及び諸磯式，後期前葉の堀之内式，晩期前葉の安行Ⅲ式と多時期にわたっているが，いずれも細片で極めて少量である。

縄文時代には，この地に住居を構えず，狩猟や採集の場として利用していたものと考えられる。

## 2　平安時代

この時期に該当する遺構は，住居跡２軒と火葬墓２基である。

### (1)　住居跡

住居跡２軒は，B2e₂区の南向きの台地縁辺部に位置し，谷を挟んで念代遺跡と対峙している。第２号住居跡を一回り大きく改築して，第１号住居跡が構築されている。第１号住居跡は東向き竈及び入口ピットをもち，第２号住居跡は北向き竈，貯蔵穴及び入口施設に伴うと思われるピットを持っている。東向き竈をもつ第１号住居跡に，第２号住居跡で使用されたと思われる北向き竈が取り壊されずに残っていたことから，第１号住居跡構築後も第２号住居跡の北向き竈が引き続き使用されていたものと考えられる。このことから，第１号住居跡と第２号住居跡は，北竈から東竈に竈を移し変える時期の重複した住居跡と考えられる。

時期は，第１号住居跡の東竈から，口縁部径に比して底部径が小さく，口縁部が外反する土師器の坏が出土していることから，10世紀前半に位置付けられる。

### (2)　火葬墓

第１号火葬墓はB2e₁区に位置し，長径1.40ｍ，短径1.25ｍの不整楕円形で，確認面からの深さは37㎝である。火葬骨の入った須恵器の甕は正位に置かれ，逆位の土師器の片口鉢で蓋がされていた。蔵骨器として使用された須恵器の甕は，体部外面に縦方向の平行叩き目が施され，蓋として使用された土師器の片口鉢は，内面を横方向にヘラ磨きされ黒色処理されている。甕は，形状や調整手法から９世紀前半のものである。

第２号火葬墓はB1c₇区に位置する。推定径１ｍ余りの円形と思われる。表土が薄く確認の段階ですでに底面近くまで木や篠竹の根による撹乱を受けている。遺物は須恵器の甕と小骨片が出土した。甕は，形状や調製手法から９世紀前半のものである。

参考文献

古沢　悟　『茨城県における古代火葬墓の地域性－土浦市立博物館保管の蔵骨器の資料紹介および県内事例の修正から－』　土浦市立博物館紀要第６号　1995年３月

国立歴史民族博物館　『葬墓制と他界観』　国立歴史民族博物館研究報告第49集　1993年３月

# 第5章　念　代　遺　跡

## 第1節　遺跡の概要

念代遺跡は，霞ヶ浦の西方約3.2kmのところにあり，霞ヶ浦に流れ込む花室川の右岸，標高15～20mの台地縁辺上に位置し，調査面積は4,756m²で，現況は畑及び山林である。

今回の調査では，古墳時代の竪穴住居跡1軒，平安時代の竪穴住居跡19軒，竪穴状遺構2基，その他に土坑82基，溝4条，地下式壙4基，道路跡1条を確認した。

遺物は，土師器（坏，高坏，甕，甑，高台付坏，鉢），須恵器（硯，坏，高台付坏，盤，甕，蓋），土師質土器（皿，内耳鍋，擂鉢），土製品（土玉，管状土錘，紡錘車），石製品（砥石），金属製品（鈴帯，刀子，鎌，釘），陶磁器片及び古銭が出土している。

## 第2節　基本層序

調査区内（$C1i_8$区）にテストピットを設定し，第22図に示すような土層の堆積状況を確認した。

なお，表土除去により耕作土等は取り除かれている。

第1層は，15～30cmの厚さで，褐色のソフトローム上層である。

第2層は，25～30cmの厚さで，粘性がやや強く締まりの強い明褐色のハードローム層である。

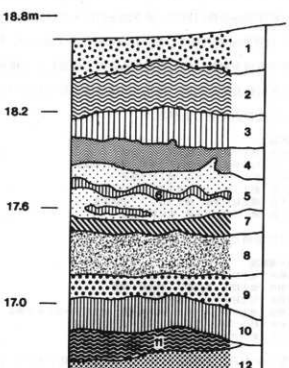
第3層は，10～25cmの厚さで，鈍い褐色の粘土層である。

第4層は，15～20cmの厚さで，粘性，締まりともに強く，砂粒を少量含む鈍い褐色の粘土層である。

第5層は，20～45cmの厚さで，粘性，締まりともに強く，砂粒を中量含む鈍い褐色の粘土層である。

第6層は，5cm前後の厚さで，締まりの強い橙色の砂層である。

第7層は，10～15cmの厚さで，締まりが強く粘土を少量含む橙色の砂層である。



第22図　基本土層図

第8層は，25～30cmの厚さで，小礫を少量含む褐色の砂層である。

第9層は，10～30cmの厚さで，指で押すと砂粒が崩れる明褐色の砂層である。

第10層は，15～25cmの厚さで，赤みを帯びた褐色の砂層である。

第11層は，0～20cmの厚さで，粘土を少量含む鈍い橙色の砂層である。

第12層は，10～20cmの厚さで，締まりのある鈍い橙色の砂層である。

住居跡等の遺構は，第1層上面で確認した。

## 第3節　遺構と遺物

### 1　竪穴住居跡

当遺跡では，古墳時代の竪穴住居跡1軒，平安時代の竪穴住居跡19軒を確認している。住居跡は南側に入り込んだ谷に向けて傾斜するなだらかな斜面上に立地している。

#### 第1号住居跡（第24図）

**位置**　調査区の北部，A3i6区。

**重複関係**　本跡は，第1号竪穴状遺構を人為的に埋めて構築している。

**規模と平面形**　一辺が3.72mの隅丸方形である。

**主軸方向**　N－34°－E

**壁**　壁高は15～20cmで，緩やかに外傾しながら立ち上がる。

**床**　平坦で，踏み固めは弱い。

**ピット**　7か所（$P_1$～$P_7$）。$P_1$～$P_4$は径25～35cmの円形で，深さが15～20cmの主柱穴である。$P_5$は長径45cm，短径35cmの楕円形で，深さ20cmの出入り口施設に伴うピットである。$P_6$は径25cmの円形で，深さ32cm，$P_7$は径30cmの円形で，深さ46cmのピットであるが，性格は不明である。

**竈**　北壁中央部を壁外に15cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は長さ90cm，幅140cmである。袖部は比較的良好な状態で残り，火床部は平坦でわずかに焼土ブロックが堆積している。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

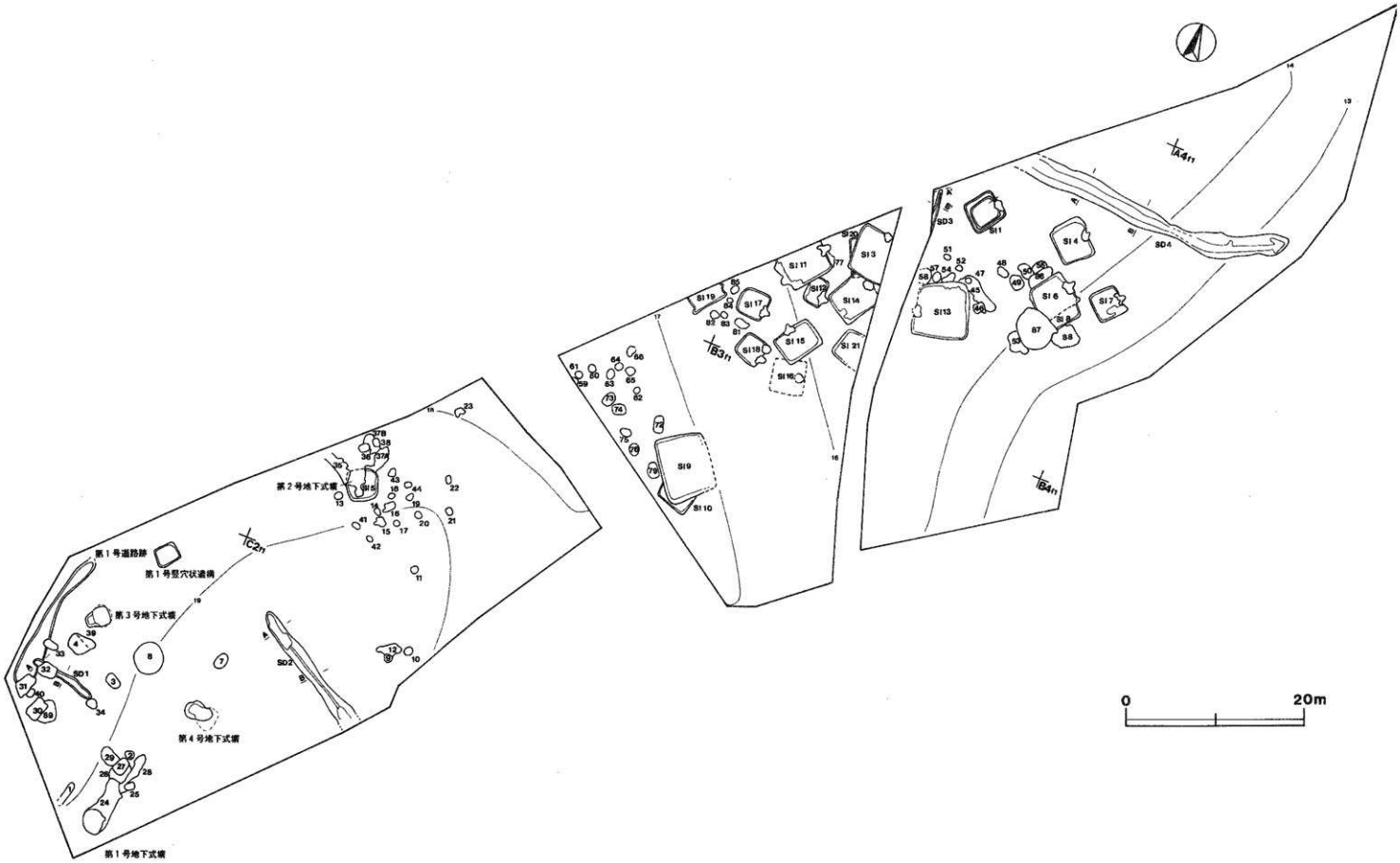
竈土層解説
1　暗褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量
2　褐　色　山砂中量，粘土ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　色　粘土ブロック・山砂少量，焼土粒子微量
5　暗赤色　焼土粒子多量，粘土ブロック・山砂少量
6　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量

**覆土**　自然堆積と思われる。

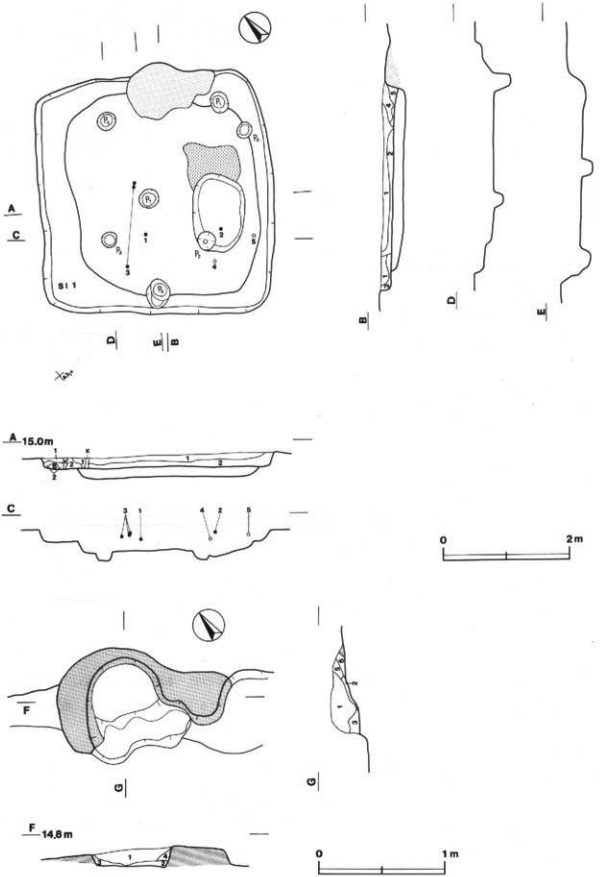
住居跡土層解説
1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　暗褐色　炭化粒子・ローム粒子微量
4　暗褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片150点，須恵器片80点及び土玉2点が出土している。主に，中・上層から出土している。

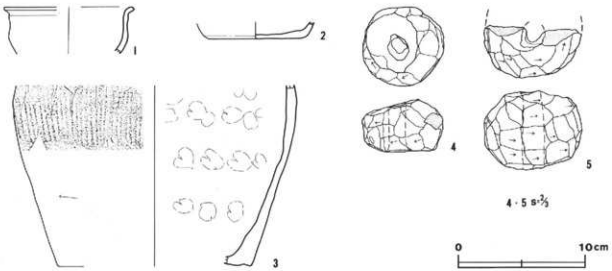
**所見**　本跡は，出土した遺物から，平安時代の住居跡と考えられる。




第23図　念代遺跡全体図




第24図　第１号住居跡実測図




第25図　第１号住居跡出土遺物実測図

第１号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第25図1 | 小型壺 土師器 | A(10.3) B(3.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 赤色 普通 | P１ 覆土中層 15% |
| 2 | 坏 須恵器 | B(1.4) C(7.5) | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。底部内面がわずかに窪む。 | 体部外面ヘラ削り後ナデ。底部外面回転ヘラ切り後ヘラナデ。 | 長石・石英・雲母 砂粒 灰色 普通 | P２ 覆土中層 30% |
| 3 | 甕 須恵器 | B(14.4) C〔15.2〕 | 体部片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。 | 体部外面上位平行叩き，下位横方向のヘラナデ。体部内面指頭圧痕。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P３ 覆土中層 20% |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 径(cm) | 計測値 高さ(cm) | 計測値 孔径(cm) | 計測値 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第25図4 | 土玉 | (3.2) | (2.0) | (0.8) | (19.4) | 覆土中層 | DP１ |
| 5 | 土玉 | (3.8) | (3.2) | (0.8) | (21.4) | 覆土中層 | DP２ |

## 第３号住居跡（第26図）

**位置**　調査区の中央部，B3a₄区。

**重複関係**　本跡は，第14号住居跡及び第20号住居跡を掘り込んでいるので，本跡の方が新しい。

**規模と平面形**　東側は調査区外（道路）に延びていて，全体は確認できないが，長軸5.47m，短軸〔3.73〕mと推定される。北西及び南西コーナーは隅丸である。

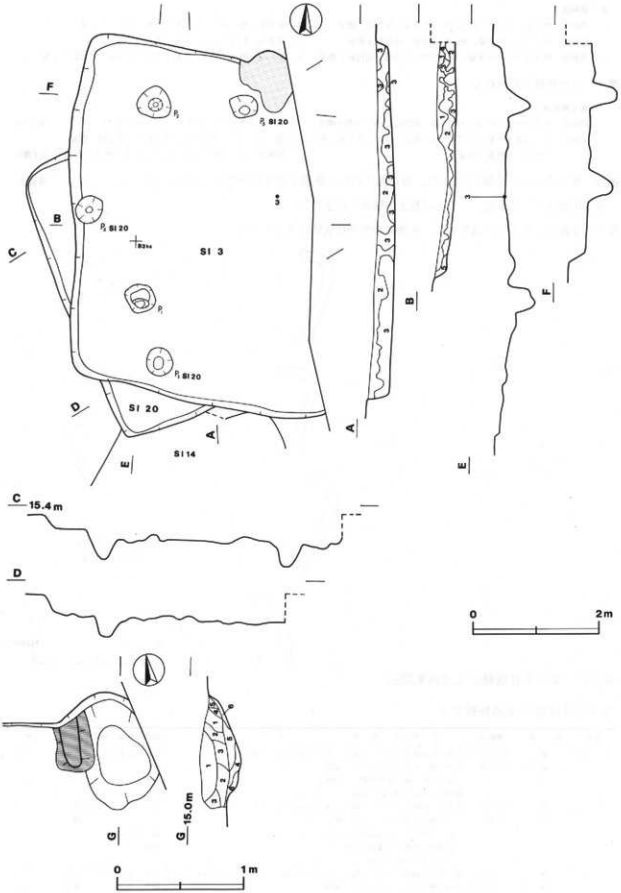
**主軸方向**　N－6°－E

**壁**　壁高は20～35cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　凸凹。ロームに黒色土が混じった土で貼り床がされ，全体が硬く踏み固められている。

**ピット**　２か所（P₁，P₂）。P₁，P₂は径50cm前後の円形で，深さが35～40cmの主柱穴である。

**竈**　北壁中央部を壁外に60cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は長さ95cm，幅105cmである。竈に向かって右袖部は，一部調査区外へ延びている。火床部は約15cm掘り込まれ，赤変硬化した焼土が薄く堆積している。煙道は，火床面から緩い傾斜で立ち上がる。




第26図　第3・20号住居跡実測図

**覆土層解説**

1　黒褐色　焼土小ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　焼土小ブロック多量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック少量
5　暗赤色　粘土ブロック多量，焼土粒子微量
6　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量

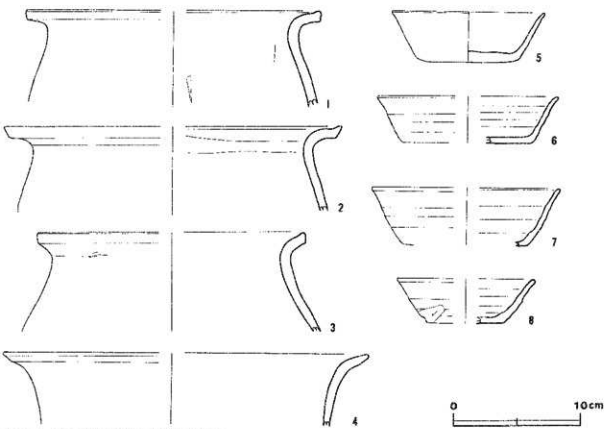
**覆土**　自然堆積と思われる。

**住居跡土層解説**

1　暗褐色　粘土小ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土中ブロック・粘土粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片293点，須恵器片83点，鉄鏃1点及び陶器片4点が出土している。3の土師器の甕は床面から，3を除く1～8は覆土下層から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，8世紀後半の住居跡と考えられる。




第27図　第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第27図 1 | 甕 土師器 | A(23.0) B(7.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部で水平方向に強く折れて開く。口縁端部はつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 橙色 普通 | P6 覆土 | 5% |
| 2 | 甕 土師器 | A(25.6) B(6.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部で強く外反する。口縁部は斜め上方に直線的に外傾し，端部も斜め上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 淡い橙色 普通 | P7 覆土 | 5% |
| 3 | 甕 土師器 | A(21.0) B(7.9) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部で緩やかに外反する。口縁端部は斜め上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 砂粒・スコリア 橙色 普通 | P8 床面 | 5% |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 粘土・色調・焼成 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第27図 4 | 壺 土師器 | A[28.8] B( 5.7) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部上位はわずかに内彎しながらさち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は斜め上方に外傾する。口縁部中位に稜を持つ。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 黄い黄橙色 普通 | P 9 覆土 | 5% |
| 5 | 坏 須恵器 | A[12.0] B 4.0 C 6.4 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。底部調整ヘラ切り後ナデ。 | 長石・石英・雲母 灰白色 普通 | P 10 覆土 | 80% |
| 6 | 坏 須恵器 | A[14.2] B 3.7 C[10.0] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。 | 長石・雲母 灰白色 普通 | P 11 覆土 | 30% |
| 7 | 坏 須恵器 | A[14.8] B 4.6 C[ 9.8] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 雲母・砂粒 灰黄色 普通 | P 12 覆上 | 10% |
| 8 | 坏 須恵器 | A[10.8] B 3.6 C[ 6.0] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英 黄灰色 普通 | P 13 覆土 | 20% |

## 第20号住居跡（第26図）

**位置**　調査区の中央部，B3b4区。

**重複関係**　本跡の大部分は第3号住居跡及び第14号住居跡に掘り込まれており，本跡の方が古い。

**規模と平面形**　長軸4.65m，（短軸未確認）。全体は重複のために確認できない。北西コーナー及び南西コーナーは隅丸である。

**長軸方向**　N－0°

**壁**　壁高は約25cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

**床**　平坦。

**ピット**　3か所（$P_1$～$P_3$）。$P_1$～$P_3$は径40cmの円形で，深さ29～42cmの主柱穴である。

**遺物**　覆土中から，土師器片7点が出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，平安時代の住居跡と考えられる。重複のために竈は確認されていない。

## 第4号住居跡（第28図）

**位置**　調査区の北部，A3i5区。

**規模と平面形**　長軸4.70m，短軸4.10mの隅丸長方形である。北コーナーは，粘土採掘坑と思われる掘り込みにより撹乱を受けている。

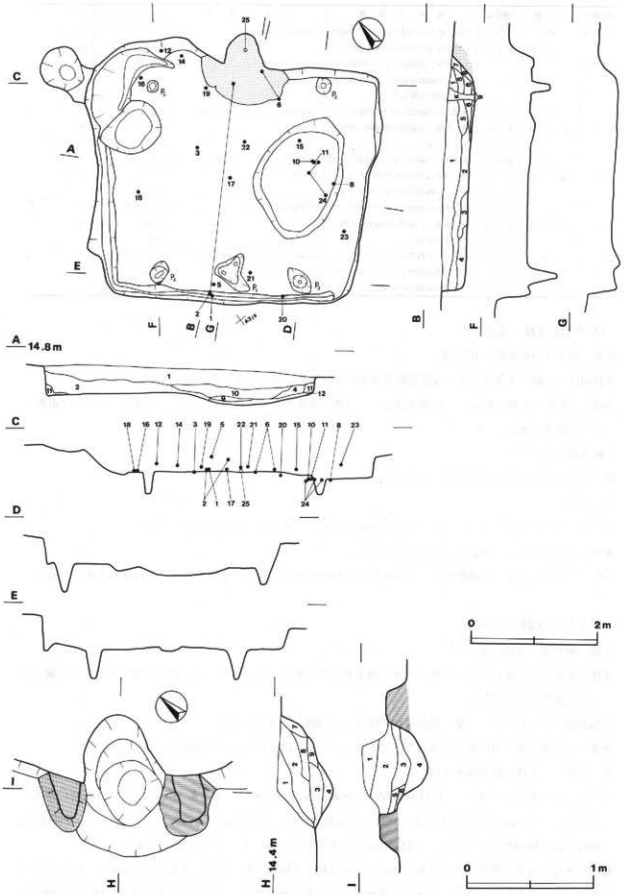
**主軸方向**　N－42°－E　**壁**　壁高は40～60cmで，外傾して立ち上がる。

**壁溝**　北西壁下及び南西壁下で確認でき，上端5～10cm，深さ約5cmで，断面はV字形である。

**床**　平坦で，全体に踏み固めは弱い。

**ピット**　5か所（$P_1$～$P_5$）。$P_1$は長軸60cm，短軸50cmの不定形で，深さ約20cmの出入り口施設に伴うピットである。$P_2$は径30cmの円形で深さ31cm，$P_3$は長径50cm，短径30cmの楕円形で深さ48cm，$P_4$は長径35cm，短径25cmの楕円形で深さ43cm，$P_5$は径20cmの円形で深さ33cm。$P_2$～$P_5$は主柱穴である。

**竈**　北東壁中央部を壁外に50cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は長さ110cm，幅140cmである。両袖とも良好な状態で残り，火床部は床面から15cm程皿状に窪み，その表面は火を強く受けて赤変硬化した焼土の凹凸面となっている。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がる。




第28図　第４号住居跡実測図

**覆土層解説**

1 褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量
2 褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，粘土粒子微量
3 暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
4 褐　色　粘土ブロック多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5 赤褐色　焼土ブロック多量，山砂少量
6 鈍い褐色　粘土ブロック多量，焼土小ブロック・山砂少量
7 暗褐色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子・山砂微量
8 暗褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・山砂少量，炭化粒子微量
9 褐　色　粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

**覆土**　自然堆積と考えられる。

**住居跡土層解説**

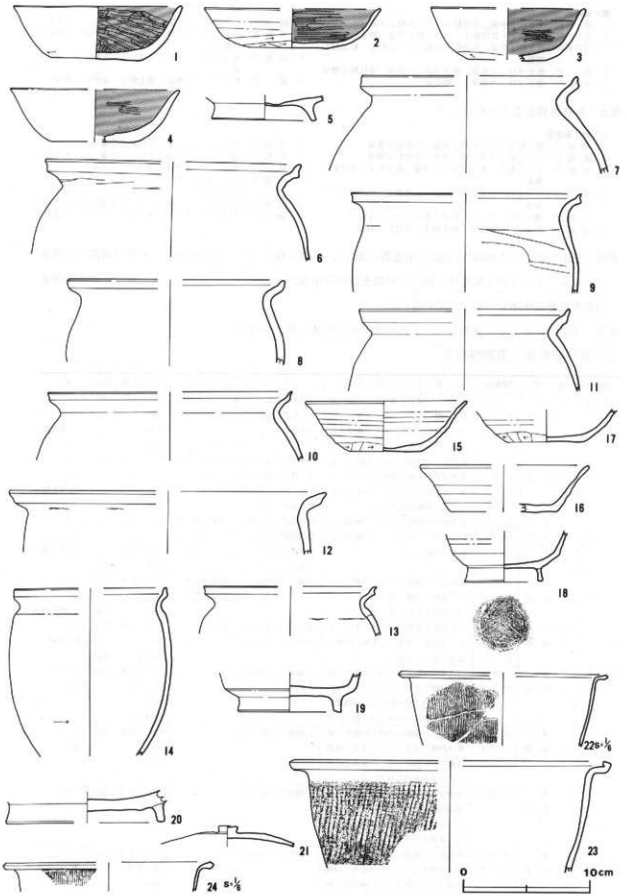
1 暗褐色　焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色　ローム粒子・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック少量
5 黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量
6 暗褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
8 灰褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
9 鈍い褐色　粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
10 暗褐色　ローム粒子・粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
11 暗褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
12 鈍い褐色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片593点，須恵器片261点，土製支脚片1点，不明鉄製品3点及び陶器片7点が出土している。1～3の土師器坏，16，17の須恵器坏は床面から出土している。6，8，10，11の土師器甕，24の須恵器甕は床面から出土している。

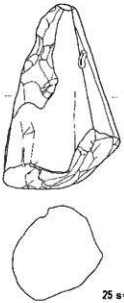
**所見**　本跡は，出土した遺物から，9世紀後半の住居跡と考えられる。

## 第4号住居跡出土遺物観察表

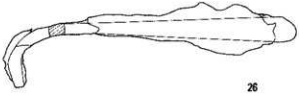
| 図版番号 | 器種 | 器高(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第29図 1 | 坏 土師器 | A 13.3<br>B 4.5<br>C 7.0 | 体部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，中位から後端的に外傾する。口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き，底部内面へラ磨き，外面回転糸切り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>淡黄色<br>普通 | P23　80%<br>床面<br>内面黑色処理 |
| 2 | 坏 土師器 | A(14.0)<br>B 3.3<br>C 5.6 | 底部から口縁部にかけての破片。丸味を帯びた平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。比較的器高が低い。 | 口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き。体部外面下位手持ちヘラ削り後ナデ。底部内面へラ磨き，外面へラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色<br>普通 | P24　65%<br>床面<br>内面黑色処理 |
| 3 | 坏 土師器 | A(12.2)<br>B 4.2<br>C(6.2) | 底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き。体部外面下端手持ちヘラ削り後ナデ，内面へラ磨き。 | 長石・石英・スコリア<br>鈍い黄褐色<br>普通 | P25　25%<br>床面<br>内面黑色処理 |
| 4 | 坏 土師器 | A(13.4)<br>B 4.2<br>C(6.4) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面横方向のヘラ磨き。底部内面へラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>淡黄色　普通 | P26　20%<br>覆土<br>内面黑色処理 |
| 5 | 高台付坏 土師器 | A(2.0)<br>B 1.4<br>C 7.9 | 高台部から底部にかけての破片。平底。付高台。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。 | 高台部内・外面ナデ。底部回転ヘラ切り後，一部ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>砂粒<br>灰白色　普通 | P27　40%<br>覆土中層 |
| 6 | 甕 土師器 | A(20.2)<br>B(7.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁端部は斜め上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色<br>普通 | P14　5%<br>床面 |
| 7 | 甕 土師器 | A(16.8)<br>B(7.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。口縁端部は真上につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>微色<br>普通 | P15　10%<br>覆土 |
| 8 | 甕 土師器 | A(16.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁端部につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通 | P16　5%<br>床面 |
| 9 | 甕 土師器 | A(18.2)<br>B(7.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。口縁端部は鋭くつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P17　5%<br>覆土 |




第29図　第４号住居跡出土遺物実測図(1)



25 s·1/4



26

27

0 5cm

第30図　第4号住居跡出土遺物実測図(2)

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第29図 10 | 甕 上部器 | A(19.2)<br>B(5.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部は「く」の字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色<br>普通 | P18 床面 5% |
| 11 | 甕 土師器 | A(16.8)<br>B(6.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部は「く」の字状に折れる。口縁端部は斜め上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色<br>普通 | P19 床面 5% |
| 12 | 甕 土師器 | A(24.8)<br>B(4.9) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部は緩やかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>鈍い褐色　普通 | P20 覆土下層 5% |
| 13 | 甕 土師器 | A(13.4)<br>B(3.9) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部で「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部、体部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P21 覆土 5% |
| 14 | 甕 土師器 | A(11.8)<br>B(13.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は不明瞭な稜を持ち緩やかに外反する。口縁部は外傾し、端部は真上につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下位横方向のヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い赤褐色<br>普通 | P22 覆土下層 30% |
| 15 | 坏 須恵器 | A 12.7<br>B 4.0<br>C 6.0 | 体部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部下端回転ヘラ削り後ナデ。底部外面回転ヘラ切り後ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>灰色<br>普通 | P28 覆土下層 80% |
| 16 | 坏 須恵器 | A(13.4)<br>B 3.7<br>C(8.6) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>灰色<br>普通 | P29 床面 40% |
| 17 | 坏 須恵器 | B(2.5)<br>C 6.0 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。 | 体部下端回転ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>灰白色<br>普通 | P30 床面 30% |
| 18 | 高台付坏 須恵器 | B(4.0)<br>D 6.2<br>E 1.1 | 高台部から体部にかけての破片。平底。付高台。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。 | 高台部内・外面ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。 | 長石<br>オリーブ色<br>普通 | P31 床面<br>底部外面ヘラ記号 60% |
| 19 | 高台付坏 須恵器 | B(3.1)<br>D 8.0<br>E 1.2 | 高台部から体部にかけての破片。平底。付高台。高台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。 | 高台部内・外面ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。 | 長石・石英<br>黄灰色<br>普通 | P32 覆土下層 30% |
| 20 | 円面硯 須恵器 | A(12.5)<br>B(2.4) | 硯部片。 | 硯面回転ヘラ切り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黄灰色　普通 | P33 床面　転用硯 30% |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第29図 21 | 壺 須恵器 | B(1.7) F 1.6 G 0.6 | 天井部片。天井部は，中央部が平坦で径が小さく中央のやや盛んだつまみをもち，口縁端部に向かってなだらかに下降する。比較的器肉が薄い。 | つまみ部ナデ。天井部内・外面ナデ。外面一部へラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母 砂粒・スコリア 鈍い橙色 普通 | P34 60% 覆土下層 |
| 22 | 壺 須恵器 | A(32.6) B(11.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，頸部は直角に近い角度で外に折れる。口縁端部は上下につまみ出されている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ。外面平行叩き。 | 長石・雲母・砂粒 灰白色 普通 | P35 10% 覆土下層 |
| 23 | 壺 須恵器 | A(25.6) B(8.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾し，端部は中央に細い沈線が巡る。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ。外面平行叩き。 | 長石・石英・雲母 オリーブ色 普通 | P36 5% 覆土中層 |
| 24 | 壺 須恵器 | A(32.4) B(4.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾しながら立ち上がり，頸部は直角に外に折れる。口縁端部は上下につまみ出されている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ。外面平行叩き。 | 長石・石英・雲母 灰白色 普通 | P37 5% 床面 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 高さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第30図25 | 土製支脚 | — | (12.3) | (19.8) | … | (1537.3) | 床面 | DP5 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第30図26 | 不明鉄製品 | 15.4 | 2.9 | 0.8 | 64.7 | 鉄 | 覆土 | M1 |
| 27 | 不明鉄製品 | (8.2) | 3.1 | 0.4 | (30.0) | 鉄 | 覆土 | M2 |

## 第5号住居跡（第31図）

**位置**　調査区の南部，C2c₃区。

**重複関係**　本跡を第2号地下式壙が掘り込んでいるので，本跡の方が古い。

**規模と平面形**　長軸3.43m，短軸3.35mの隅丸方形である。

**主軸方向**　N－28°－W

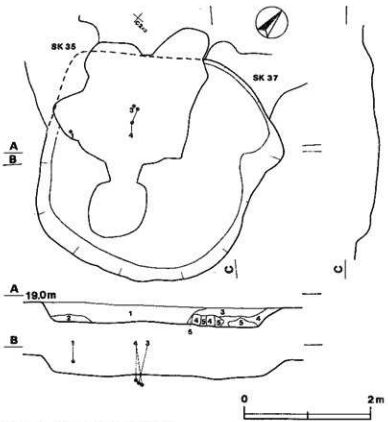
**壁**　壁高は20～25cmで，緩やかに立ち上がる。

**床**　平坦。全体に踏み固めは見られない。

**覆土**　ローム・ブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

住居跡土層解説

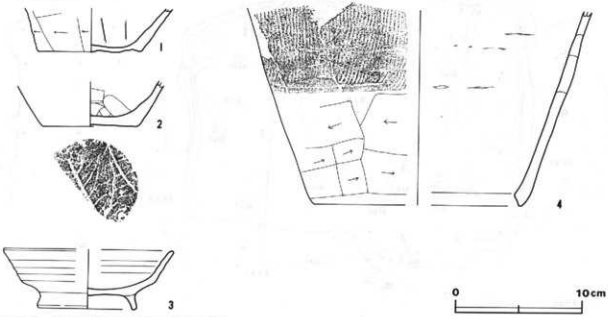
1　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量




第31図　第5号住居跡実測図

**遺物**　覆土中から，土師器片261点及び須恵器片184点が出土している。3の須恵器高台付坏と須恵器甑は床面から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，平安時代の住居跡と考えられる。竈は第2号地下式壙に掘り込まれたものと思われる。




第32図　第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第32図<br>1 | 甕<br>土師器 | B〔3.4〕<br>C　8.3 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 体部外面ヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>純い橙色　普通 | P38　10%<br>覆土中層 |
| 2 | 甕<br>土師器 | B〔3.6〕<br>C〔7.4〕 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色　普通 | P39　10%<br>覆土<br>底部木葉痕 |
| 3 | 高台付坏<br>須恵器 | A〔13.4〕<br>B　4.7<br>D〔7.9〕<br>E　1.1 | 高台部から口縁部にかけての破片。平底。付高台。高台部は直線的に「ハ」の字状に開く。体部はわずかに外反しながら立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。高台部内・外面ナデ。底部回転ヘラ切り。 | 長石・石英・雲母<br>灰オリーブ色<br>普通 | P40　40%<br>床面 |
| 4 | 甑<br>須恵器 | B〔15.5〕<br>C〔16.6〕 | 体部片。体部は直線的に外傾する。 | 体部外面上位平行叩き。下位横方向のヘラ削り。孔数不明。 | 長石・石英・雲母<br>純い黄色　普通 | P41　10%<br>床面 |

## 第6号住居跡（第33図）

**位置**　調査区の中央部，B3a₉区。

**重複関係**　本跡は，第8号住居跡及び第86号土坑を掘り込み，第87号土坑に掘り込まれている。

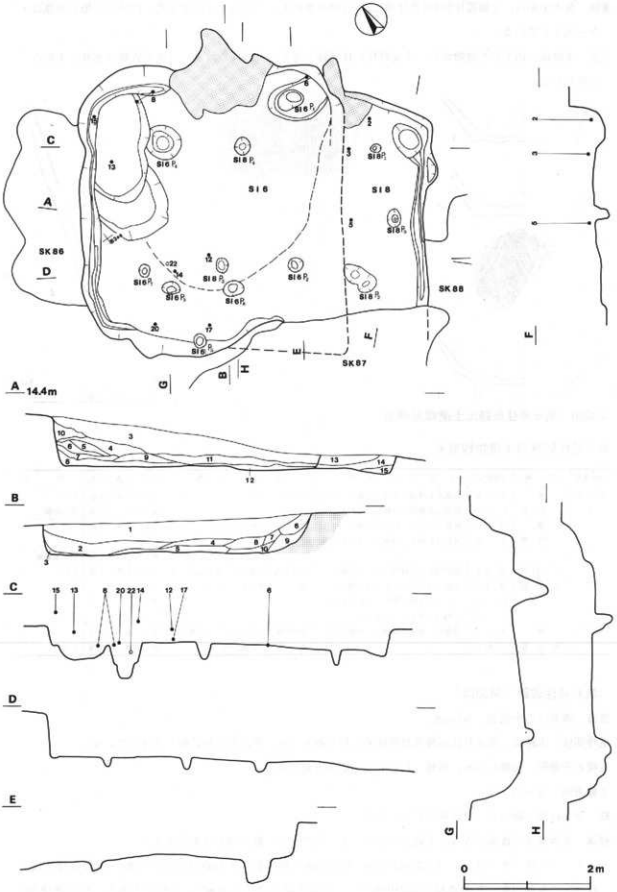
**規模と平面形**　長軸4.20m，短軸〔4.15〕mの隅丸方形である。

**主軸方向**　N－37°－E

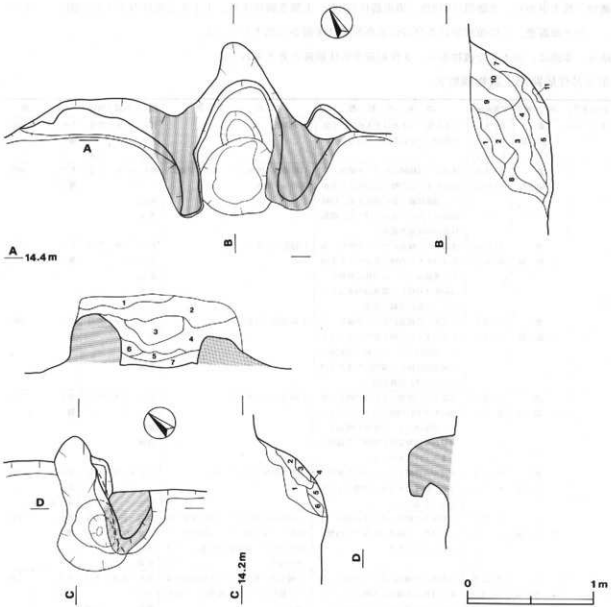
**壁**　壁高は55～60cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

**壁溝**　北西壁下で確認できる。上端15～20cm，深さ約5cmで，断面はU字形である。

**ピット**　7か所（$P_1$～$P_7$）。$P_1$は長径50cm，短径35cmの楕円形，$P_2$は直径25cmの円形，$P_3$は長径50cm，短径20cmの長楕円形，$P_4$は直径55cmの円形で，いずれも深さは15～20cmで，主柱穴である。$P_5$は直径20cmの円形で，深さは18cmの出入口施設に伴うピットである。$P_6$，$P_7$は性格不明である。




第33図　第６・８号住居跡実測図




第34図　第6・8号住居跡竈実測図

**竈**　北東壁中央部を壁外へ50cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は長さ140cm，幅160cmである。両袖が良好な状態で残り，火床部は凹状に10cm掘り込まれ，赤変硬化した焼土が多量に堆積している。煙道は，火床面から緩やかに立ち上がり，壁を掘り込むあたりから約70度で外傾する。

**竈土層解説**

1　暗褐色　炭化物・粘土ブロック少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　粘土ブロック少量，山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　粘土ブロック中量，山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子・山砂少量
5　暗赤色　焼土ブロック多量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　焼土ブロック多量，粘土ブロック少量
7　黒褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　色　粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　色　焼土粒子中量，粘土大ブロック・粘土中ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量
10　褐　色　粘土大ブロック・粘土粒子多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
11　褐　色　粘土ブロック多量

**覆土**　多量の粘土ブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

**住居跡土層解説**

1　暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量
2　暗褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　粘土ブロック・山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　粘土ブロック中量，山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・山砂微量
7　褐　色　粘土ブロック多量，山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　色　つき固めた粘土層
10　暗褐色　炭化物・粘土ブロック・山砂少量，焼土粒子微量
11　暗褐色　焼土粒子・粘土ブロック・山砂少量，炭化粒子微量
12　暗褐色　粘土ブロック中量，山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量

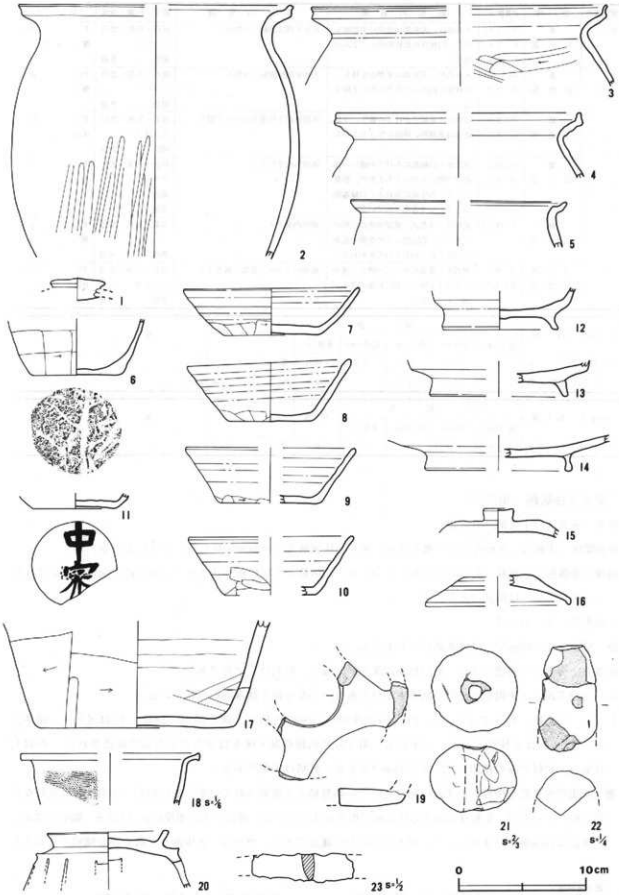
遺物　覆土中から，土師器片712点，須恵器片378点，土製支脚片１点，土玉１点及び刀子１点が出土している。

６の土師器甕，８の須恵器坏及び17の須恵器甕は床面から出土している。

所見　本跡は，出土した遺物から，９世紀前半の住居跡と考えられる。

第６号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第35図 1 | 甕 土師器 | B( 1.7) G 0.7 F 4.4 | つまみ部。つまみは大きめで，上面中央がわずかに突出している。 | ナデ調整。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P47 10% 覆土 |
| 2 | 甕 土師器 | A[21.6] B(20.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。口縁端部は上方につまみ上げられ，端部外面には沈線が巡る。 | 口縁部内・外面ナデ。体部下位縦方向のヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P42 40% 覆土 |
| 3 | 甕 土師器 | A[23.3] B( 6.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾し，端部はつまみ上げられ，中央に沈線が巡る。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P43 5% 覆土 |
| 4 | 甕 土師器 | A[19.4] B( 5.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾し，端部はつまみ上げられ，中央に沈線が巡る。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P44 10% 覆土 |
| 5 | 甕 土師器 | A[27.2] B( 3.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は内彎気味に外傾し，端部はつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P45 5% 覆土 |
| 6 | 甕 土師器 | B( 4.4) C 7.0 | 底部から体部下位にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。 | 体部外面縦方向のヘラ削り。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P46 10% 床面 底部水煮痕 |
| 7 | 坏 須恵器 | A 13.7 B 3.8 C 7.4 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下位回転ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P48 70% 覆土 |
| 8 | 坏 須恵器 | A 12.8 B 4.9 C 6.6 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P49 70% 床面 |
| 9 | 坏 須恵器 | A[13.2] B 4.4 C[ 7.6] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P50 25% 覆土 |
| 10 | 坏 須恵器 | A[13.0] B 4.6 C[ 7.0] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P51 20% 覆土 |
| 11 | 坏 須恵器 | B( 1.3) C[ 6.5] | 底部片。 | 底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P203 10% 覆土 墨書「中家」 |
| 12 | 高台付坏 須恵器 | B( 3.2) D 9.2 E 1.7 | 高台部から体部下位にかけての破片。平底。付高台。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。 | 底部外面回転ヘラ切り。高台部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P52 60% 覆土中層 |
| 13 | 高台付坏 須恵器 | B( 2.8) D[10.9] E 1.3 | 高台部から体部にかけての破片。平底。付高台。高台は先端に向け薄くなり，「ハ」の字状に開く。 | 高台部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P53 30% 覆土中層 |
| 14 | 鉢 須恵器 | B( 2.9) D[11.4] E 1.5 | 高台部から底部にかけての破片。付高台。高台は先端が肥厚して「ハ」の字状にわずかに開く。 | 底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P54 20% 覆土上層 |




第35図　第６号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第35図 15 | 壺 須恵器 | H (2.4) F 2.4 G 0.9 | 天井部片。天井部は中央に平坦面を持ち，円柱状の比較的高いつまみが付く。 | 天井平坦部周縁へラ削り。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P55 覆土上層 70% |
| 16 | 壺 須恵器 | A (11.2) B 2.3 | 天井部片。天井部は平坦面を持ち，口縁部に向かってなだらかに下降する。 | 天井平坦部周縁へラ削り。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P56 覆土 30% |
| 17 | 甕 須恵器 | B (8.5) C 15.5 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外開して立ち上がる。 | 体部外面下位横方向のヘラ削り。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P57 床面 20% |
| 18 | 甕 須恵器 | A (28.2) B (8.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部で「く」の字状に折れる。口縁端部は下方につまみ出されている。 | 体部外面平行叩き。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P58 覆土 5% |
| 19 | 甑 須恵器 | C (14.6) | 底部片。5孔式。底部中央に円形の孔が1つ，周辺部に木の葉形の孔が4つ巡たていたものと思われる。 | 底部内面ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P59 覆土 5% |
| 20 | 円面硯 須恵器 | A 9.5 B (4.5) | 脚部から底部にかけての破片。透かし窓は4か所で，間に16条の線みが施されている。 | 硯面ヘラナデ。硯部，脚部ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 褐色 普通 | P60 床面 50% |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 高さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第35図21 | 土玉 | 径 | 3.4 | 2.7 | 0.5 | 26.0 | 覆土 | DP7 |
| 22 | 土製支脚 | — | (6.2) | (11.3) | — | 212.9 | 床面 | DP6 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第35図23 | 刀子 | (5.4) | (1.6) | (0.6) | (7.3) | 鉄 | 覆土 | M3 |

## 第8号住居跡（第33図）

**位置**　調査区の中央部，B3a9区。

**重複関係**　本跡は，第88号土坑を掘り込み，第6号住居跡及び第87号土坑に掘り込まれている。

**規模と平面形**　主軸長（3.52）m，幅〔1.52〕m。住居跡と土坑に掘り込まれているため，全体は確認できない。東コーナーは隅丸である。

**主軸方向**　N－41°－E

**壁**　壁高は0～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

**壁溝**　南東壁下で確認できる。幅約15cm，深さ約5cmで，断面はU字形である。

**床**　ほぼ平坦で，黒褐色土で厚く貼り床がしてあり，かなり硬く踏み固められている。

**ピット**　5か所（$P_1$～$P_5$）。$P_1$，$P_3$，$P_4$は径20～25cmの円形で，深さが14～28cm，$P_2$は径15cm，深さ26cm。$P_1$～$P_4$は主柱穴である。いずれも，第6号住居跡の貼り床をはがしたその面で確認された。$P_5$は長径30cm，短径20cmの楕円形で，深さ25cmであるが，性格は不明である。

**竈**　北東壁中央部を壁外へわずかに掘り込んで，砂質粘土で構築されている。竈に向かって右袖部は良好な状態で残っているが，左袖部は第6号住居跡に掘り込まれている。確認できる規模は長さ110cm，幅80cmである。火床部は18cm掘り込まれていて，焼土がわずかに確認できる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

**竈土層解説**

1 褐　色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・山砂少量
2 褐　色　粘土ブロック・焼土ブロック中量，山砂少量，炭化粒子微量
3 暗褐色　炭化物中量，粘土ブロック少量，焼土粒子微量
4 暗褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子微量
5 黄い褐色　粘土ブロック，山砂多量
6 暗褐色　焼土ブロック中量，山砂少量，炭化粒子微量

**覆土**　土層図中13～15が本跡の覆土である。粘土ブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

住居跡土層解説
13　黒褐色　粘土ブロック・山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　暗褐色　焼土小ブロック・粘土ブロック・山砂少量，焼土粒子微量
15　黒褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片78点，須恵器片19点及び流れ込みと思われる縄文土器片１点が出土している。２の土師器坏及び３の須恵器坏は覆土下層から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，８世紀前半の住居跡と考えられる。

**第36図　第８号住居跡出土遺物実測図**

第８号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第36図 1 | 坏 土師器 | A(11.1) B 3.6 C 5.0 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り。 | 長石・石英・雲母 スコリア 純い橙色　普通 | P71 覆土 | 60% |
| 2 | 坏 土師器 | A 13.6 B 3.4 C 9.1 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 体部外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 純い黄橙色 普通 | P72 覆土下層 | 60% |
| 3 | 坏 須恵器 | A[14.8] B 5.1 C 9.3 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り後ヘラナデ。 | 長石・石英・雲母 灰黄色 普通 | P73 覆土下層 | 60% |
| 4 | 坏 須恵器 | B( 2.1) C 7.7 | 底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 底部外面ヘラ削り。 | 長石・石英 黄灰色 普通 | P74 覆土 | 40% |
| 5 | 短頸壺 須恵器 | A[11.0] B[20.0] D[12.6] E 1.0 | 体部から口縁部にかけての破片。平底。付高台。体部は直線的に立ち上がって肩が張り，頸部で上方に折れる。口縁部は短く垂直に立ち上がる。 | 内・外面ナデ。体部上端から肩部にかけて自然釉がかかる。 | 長石・石英 灰色 (釉)灰オリーブ色 普通 | P75 覆土下層 | 20% |

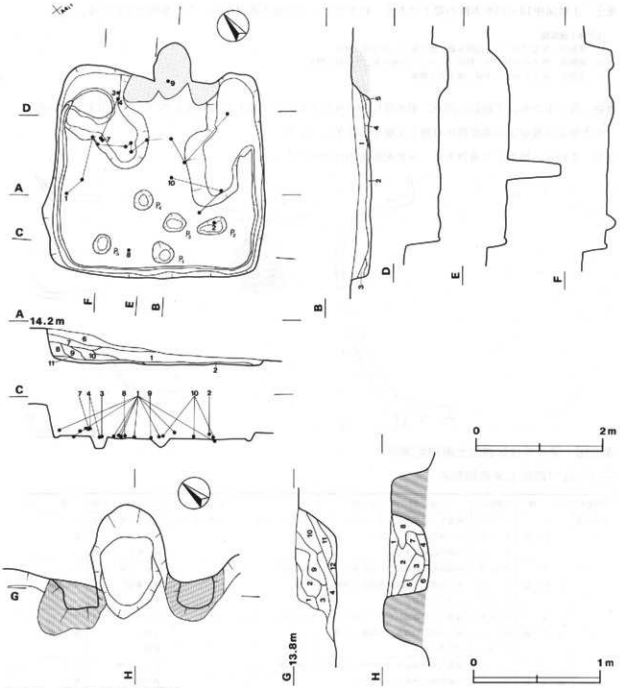
## 第７号住居跡（第37図）

**位置**　調査区の北部，A3j₀区。

**規模と平面形**　長軸3.45ｍ，短軸3.35ｍの隅丸方形である。　**主軸方向**　N－48°－E

**壁**　壁高は20～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

**壁溝**　東コーナーが根により撹乱を受けているが，竈付近を除き全周している。上端15～20cm，深さ約５cmで，




第37図　第７号住居跡実測図

断面はＵ字形である。

床　平坦で，中央部はやや踏み固めが見られるが，他の部分は硬化面が見られない。

ピット　５か所（$P_1$～$P_5$）。$P_1$は長径35㎝，短径30㎝の出入り口施設に伴うピットである。$P_2$は長径50㎝，短径25㎝の楕円形で，深さ７㎝，$P_3$～$P_5$は径が30－35㎝の円形で，深さ11～83㎝である。$P_2$～$P_5$は性格不明である。

竈　北東壁中央部を壁外へ60㎝程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は長さ90㎝，幅140㎝である。両袖とも良好な状態で残り，火床部は平坦で焼土ブロックが比較的多く確認できる。煙道は，火床面から約50度で立ち上がる。

竈土層解説

1 褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量
2 褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
3 暗赤褐色　焼土大ブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量
4 暗褐色　焼土粒子少量，焼土大ブロック・ローム粒子微量
5 暗褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
6 黒褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
7 暗褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・山砂少量
8 暗褐色　粘土ブロック多量，山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9 褐　色　粘土ブロック多量，山砂少量，炭化粒子微量
10 暗褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック・山砂少量，炭化粒子微量
11 黒褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・山砂少量
12 暗褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子・山砂少量，炭化粒子微量

**覆土**　多量の粘土ブロックの存在から，人為堆積と考えられる。

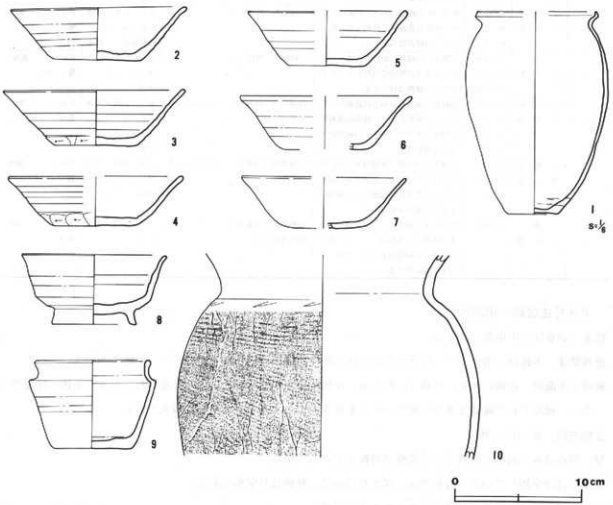
住居跡土層解説

1 黒褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
2 褐　色　粘土ブロック中量，山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・山砂微量
4 暗褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子・山砂微量
5 黒褐色　焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量
6 暗褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック・山砂少量，炭化粒子微量
7 暗褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色　山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗褐色　粘土ブロック・山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10 暗褐色　粘土ブロック中量，山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11 黒褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片215点及び須恵器片162点が出土している。9の小形壺は竈内から出土している。

1の土師器甕は覆土下層からの出土で，比較的広い範囲で接合している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，9世紀後半の住居跡と考えられる。




第38図　第7号住居跡出土遺物実測図

第７号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第38図<br>1 | 甕<br>土師器 | A[18.9]<br>B 32.2<br>C 8.5 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がり，肩部は緩やかに外反する。口縁部は外傾し，端部は内彎気味につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い赤褐色<br>普通 | P61<br>床面 | 70% |
| 2 | 坏<br>須恵器 | A 13.8<br>B 4.4<br>C 6.8 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P62<br>覆土下層 | 85% |
| 3 | 坏<br>須恵器 | A 14.4<br>B 4.5<br>C 6.5 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り後ナデ。底部外面回転ヘラ削り後ヘラナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>明褐色<br>普通 | P63<br>床面 | 70% |
| 4 | 坏<br>須恵器 | A[13.7]<br>B 3.9<br>C 6.3 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部外面ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>砂粒・スコリア<br>鈍い黄橙色　普通 | P64<br>床面 | 60% |
| 5 | 坏<br>須恵器 | A[12.6]<br>B 4.4<br>C 6.0 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黄色<br>普通 | P65<br>覆土 | 50% |
| 6 | 坏<br>須恵器 | A[13.5]<br>B 4.2<br>C[7.0] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>砂粒・スコリア<br>灰黄褐色　普通 | P66<br>覆土 | 30% |
| 7 | 坏<br>須恵器 | A[13.0]<br>B 4.1<br>C[7.0] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>灰オリーブ色<br>普通 | P67<br>覆土下層 | 30% |
| 8 | 高台付坏<br>須恵器 | A 11.4<br>B 5.5<br>D 7.6<br>E 1.2 | 口縁部一部欠損。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。高台部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>小石<br>暗灰黄色<br>普通 | P68<br>床面 | 95% |
| 9 | 小形壺<br>須恵器 | A 8.9<br>B 7.1<br>C 6.2 | 口縁部一部欠損。体部はわずかに外反して立ち上がる。肩部から口縁部にかけてU字状に屈曲し，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。底部外面丁寧なヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黄灰色<br>普通 | P69<br>竈内 | 95% |
| 10 | 甕<br>須恵器 | B(16.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部はわずかに外反して斜め上方に伸びる。 | 口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面平行叩き。 | 長石・石英・雲母<br>灰色<br>普通 | P70<br>床面 | 30% |

## 第９号住居跡（第39図）

**位置**　調査区の中央部，B3i₁区。

**重複関係**　本跡は，南コーナー付近に第10号住居跡の貼床が確認されているので，本跡の方が古い。

**規模と平面形**　長軸7.20ｍ，短軸〔5.85〕ｍ。住居跡の北東壁は耕作により撹乱されており，全体は確認できない。撹乱されて確認できない東コーナーを除き，他のコーナーはすべて隅丸である。

**主軸方向**　N－45°－W

**壁**　壁高は０～34cmで，残っている壁は外傾して立ち上がる。

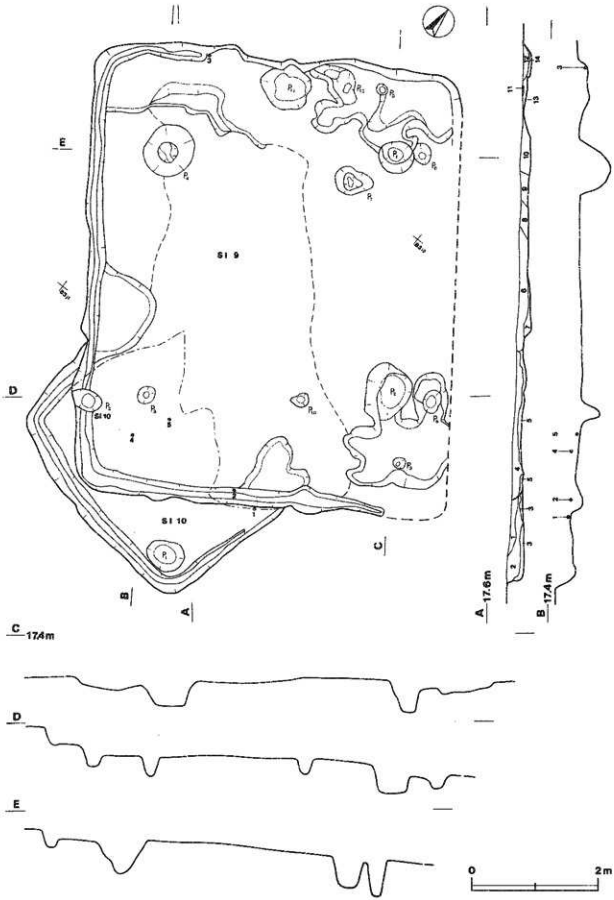
**壁溝**　ほぼ全周している。幅約25cm，深さ約15cmで，断面はＵ字形である。

**床**　ほぼ平坦で，中央部は踏み固められて非常に硬い。

**ピット**　12か所（$P_1$～$P_{12}$）。$P_1$～$P_4$は径30～80cmの円形で，深さが34～53cmの主柱穴である。

$P_5$～$P_{12}$は性格不明である。

**覆土**　土層図中４～14が本跡の覆土で，自然堆積と思われる。



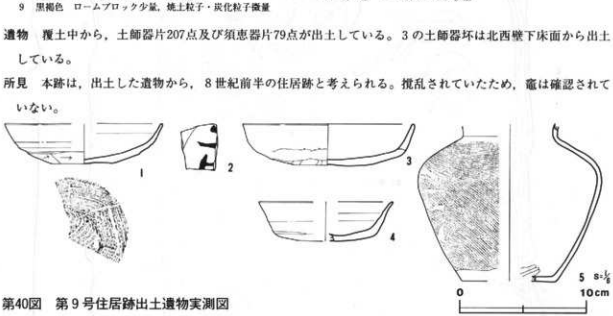

第39図　第９・10号住居跡実測図

住居跡土層解説

4　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
9　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　褐　色　ローム中ブロック多量

**遺物**　覆土中から，土師器片207点及び須恵器片79点が出土している。3の土師器坏は北西壁下床面から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，8世紀前半の住居跡と考えられる。撹乱されていたため，竈は確認されていない。




**第40図　第9号住居跡出土遺物実測図**

**第9号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第40図 1 | 坏 土師器 | A[12.4] B 3.3 C[4.7] | 底部から口縁部にかけての破片。丸味を帯びた平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 体部外面下端から底部にかけて横方向のヘラ削り。 | 長石・石英・スコリア 黄橙色　普通 | P76　50% 床面 底部外面ヘラ記号 |
| 2 | 坏 土師器 | C[7.6] | 底部片。 | 底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母 鈍い黄橙色 普通 | P77　5% 覆土中層 内面黒色処理 墨書『太部』か |
| 3 | 坏 土師器 | A 13.6 B 3.4 C 4.6 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・スコリア 鈍い橙色　普通 | P78　90% 床面 |
| 4 | 坏 須恵器 | A[10.5] B 3.1 C[7.9] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・雲母 褐灰色 普通 | P79　30% 覆土下層 |
| 5 | 甕 須恵器 | B(25.0) C[15.2] | 底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，胴部から述「く」の字状に内傾する。口縁部は直線的に外傾する。 | 体部外面胴上部横方向の平行叩き。体部中・下位斜め方向の平行叩き。 | 長石・石英・小石 灰色 普通 | P80　40% 床面 |

## 第10号住居跡（第39図）

**位置**　調査区の中央部，B3j₁区。

**重複関係**　本跡は，北側半分を第9号住居跡上に構築しているので，本跡の方が新しい。

**規模と平面形**　長軸3.90m，（短軸未確認）。第9号住居跡との重複により，全体は確認できない。南東コーナー及び南西コーナーは隅丸である。

**長軸方向**　N－77°－W

**壁**　壁高は0～30cmで，残っている部分はほぼ垂直に立ち上がる。

**壁溝**　住居跡の南側壁下は周回している。幅約10cm，深さ約5cmで，断面はU字形である。

**床**　ほぼ平坦で，踏み固めは弱い。

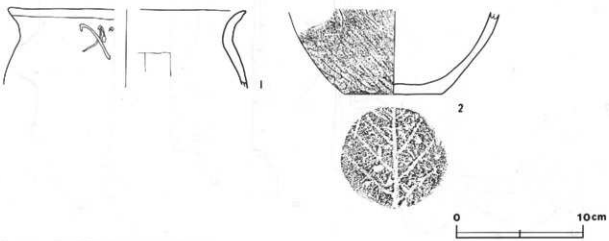
**ピット**　2か所（$P_1$，$P_2$）。$P_1$は長径60cm，短径50cmの楕円形で，深さは27cm。$P_2$は径約25cmの円形で，深さは20cm。ともに性格は不明である。

**覆土**　土層図中1～3が本跡の覆土で，自然堆積と思われる。

住居跡土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片126点及び須恵器片30点が出土している。1の土師器甕は床面から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，平安時代の住居跡と考えられる。竈は後世の耕作等により削平されたものと思われる。




第41図　第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第41図 1 | 甕 土師器 | A(18.7) B(6.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は外反する。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 純い褐色　普通 | P81　5% 覆土 頸部外面ヘラ記号 |
| 2 | 甕 土師器 | B(6.6) C 7.7 | 底部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。 | 体部外面下位ヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母 純い褐色 普通 | P82　10% 覆土 底部木葉痕 |

## 第11号住居跡（第42図）

**位置**　調査区の中央部，B3c₂区。

**重複関係**　本跡は，東部で第12号住居跡に掘り込まれているので，本跡の方が古い。

**規模と平面形**　長軸5.30m，（短軸未確認）。住居跡の北西部は調査区外に延びていて，全体は確認できない。南東コーナー及び南西コーナーは隅丸である。

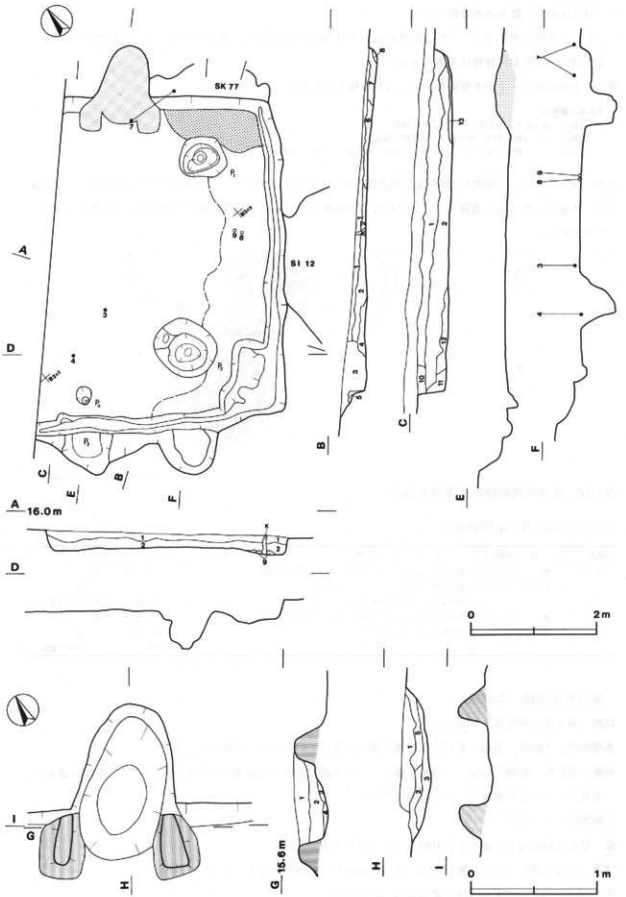
**主軸方向**　N－57°－E

**壁**　壁高は約85cmで，緩やかに外傾しながら立ち上がる。

**壁溝**　ほぼ全周している。幅約20cm，深さ約10cmで，断面はU字形である。

**床**　ほぼ平坦で，中央部は硬く踏み固められている。

**ピット**　4か所（$P_1$～$P_4$）。$P_1$は径60cmの円形で，深さ46cm，$P_2$は径90cmの円形で，深さ59cmの主柱穴で




第42図　第11号住居跡実測図

ある。P3は長径30cm，短径25cmの楕円形，P4は径50cmの円形で，深さ約60cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**竈**　北東壁中央部を壁外に80cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。現模は長さ125cm，幅130cmである。両袖が良好な状態で残り，火床部には赤変硬化した焼土が薄く堆積している。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

**竈土層解説**

1　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子・山砂微量
2　暗褐色　焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量
3　褐　色　粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　焼土粒子・粘土小ブロック少量，炭化粒子微量

**覆土**　多量のロームブロックや粘土ブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

**住居跡土層解説**

1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・山砂微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・山砂微量
3　暗褐色　ローム粒子・山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
6　暗褐色　粘土ブロック中量，山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒褐色　焼土粒子・山砂少量，炭化粒子微量
8　黒褐色　焼土粒子・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
11　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　暗褐色　焼土粒子・粘土ブロック少量，炭化粒子・山砂微量
13　暗褐色　粘土ブロック中量，山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量

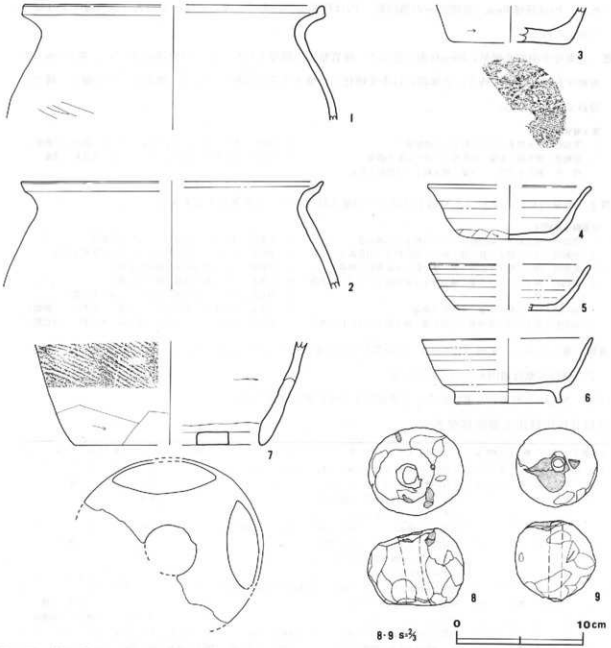
**遺物**　覆土中から，土師器片480点，須恵器片207点及び土玉2点が出土している。4の須恵器坏は床面から，7の須恵器甑は竈内から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，8世紀後半の住居跡と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第43図 1 | 甕 土師器 | A[23.6] B(9.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は垂直につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 橙色 普通 | P83 5% 覆土 |
| 2 | 甕 上師器 | A[23.8] B(8.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は外反する。口縁端部は斜め上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横方向のナデ。 | 長石・石英・雲母 淡い褐色 普通 | P84 5% 覆土 |
| 3 | 甕 土師器 | B(3.0) C[9.0] | 底部から体部下段にかけての破片。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。 | 体部下位外面横方向のヘラ削り。 | 長石・石英・雲母 スコリア 淡い褐色 普通 | P85 10% 覆土下層 底部木葉痕 |
| 4 | 坏 須恵器 | A[12.9] B 4.3 C 7.5 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部下位回転ヘラ削り。底部外面ヘラ削り。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通 | P86 70% 床面 |
| 5 | 坏 須恵器 | A[12.7] B 3.7 C[8.0] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部外面ヘラ削り。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 石英・雲母・小石 灰黄色 普通 | P87 40% 覆土 |
| 6 | 高台付坏 須恵器 | A[13.5] B 5.1 D 8.5 E 1.0 | 高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は直線的にわずかに開く。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母 小石 明灰色 普通 | P88 60% 覆土 |
| 7 | 甑 須恵器 | B(8.2) C[15.0] | 底部から体部にかけての破片。5孔式。底部中央に円孔1。周辺部に本の素形孔4。体部は外傾して立ち上がる。 | 体部外面中位斜め方向の平行叩き。体部下位横方向のヘラ削り。 | 長石・石英・雲母 灰オリーブ色 普通 | P89 30% 覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 径(cm) | 高さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第43図 8 | 土玉 | (3.8) | (3.1) | 0.9 | (38.6) | 床面 | DP8 |
| 9 | 土玉 | (3.2) | (3.2) | 0.6 | (29.3) | 床面 | DP9 |




第43図　第11号住居跡出土遺物実測図

### 第12号住居跡（第44図）

**位置**　調査区の中央部，B3c₃区。

**重複関係**　本跡の北西コーナーは，第11号住居跡を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

**規模と平面形**　長軸3.08m，短軸1.97mの不整長方形である。

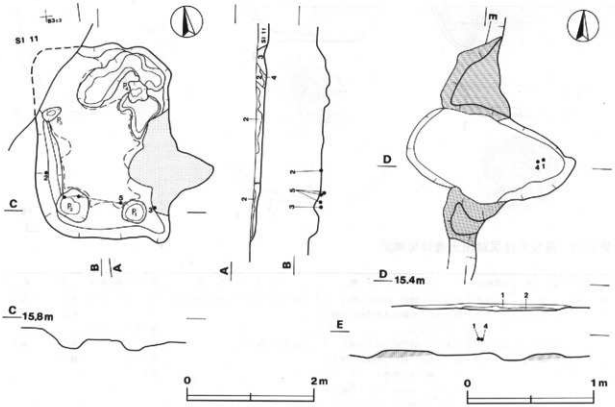
**主軸方向**　N－90°－E

**壁**　壁高は15～20cmで，緩やかに外傾しながら立ち上がる。

**壁溝**　西壁下で確認できる。

**床**　平坦で，全体的に硬く踏み固められている。

**ピット**　4か所（$P_1$～$P_4$）。$P_1$は径35cmの円形で，深さ12cm，$P_2$は径50cmの円形で，深さが16cm，$P_3$は長径30cm，短径20cmの楕円形で，深さ15cm，$P_4$は長径50cm，短径40cmの楕円形で，深さは16cm。$P_1$～$P_4$




第44図　第12号住居跡実測図

はいずれも主柱穴である。

**竈**　東壁やや南寄りを壁外に45㎝程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は長さ130㎝，幅170㎝である。両袖とも上部を耕作により削られている。火床部には赤変硬化した焼土がわずかに確認できる。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

**竈土層解説**
1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

**覆土**　自然堆積と思われる。

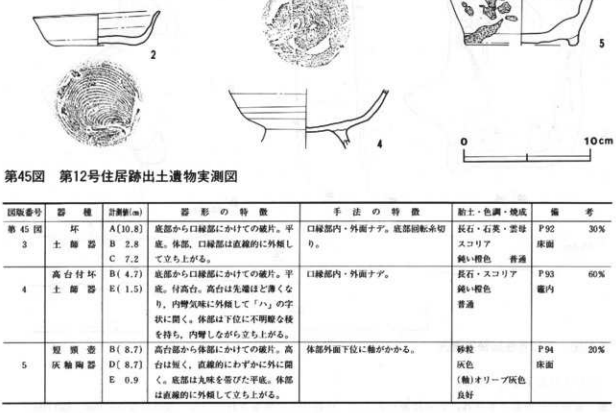
**住居跡土層解説**
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，粘土粒子少量

**遺物**　覆土中から，土師器片95点及び須恵器片15点が出土している。1の土師器坏及び4の高台付坏は竈内から出土し，2及び3の土師器坏，5の須恵器短頸壺は床面から出土している。

**所見**　本跡は，竈内出土の遺物や底部回転糸切痕の残る坏などから，10世紀中頃の住居跡と考えられる。

第12号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第45図<br>1 | 坏<br>土師器 | A[14.3]<br>B[ 3.9] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。比較的器高が低い。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>純い黄褐色<br>普通 | P90　50%<br>竈内<br>内面黒色処理 |
| 2 | 坏<br>土師器 | A 10.0<br>B 2.7<br>C 6.4 | 口縁部一部欠損。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り。 | 長石・石英・雲母<br>浅黄橙色<br>普通 | P91　95%<br>床面 |




第45図　第12号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第45図 3 | 坏 土師器 | A(10.8) B 2.8 C 7.2 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り。 | 長石・石英・雲母 スコリア 純い橙色　普通 | P92 床面 30% |
| 4 | 高台付坏 土師器 | B( 4.7) E( 1.5) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。付高台。高台は先端ほど薄くなり，内弯気味に外傾して「ハ」の字状に開く。体部は下位に不明瞭な稜を持ち，内弯しながら立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・スコリア 純い橙色 普通 | P93 覆土内 60% |
| 5 | 短頸壺 灰釉陶器 | B( 8.7) D( 8.7) E 0.9 | 高台部から体部にかけての破片。高台は短く，直線的にわずかに外に開く。底部は丸味を帯びた平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 体部外面下位に釉がかかる。 | 砂粒 灰色 (釉)オリーブ灰色 良好 | P94 床面 20% |

## 第13号住居跡（第46図）

**位置**　調査区の中央部，B3b6区。

**規模と平面形**　長軸6.10m，短軸5.85mの方形である。

**主軸方向**　N－110°－W

**壁**　壁高は40～50cmで，外傾して立ち上がる。

**壁溝**　東壁下と西壁下で確認でき，幅約15cm，深さ約5cmで，断面はU字形である。

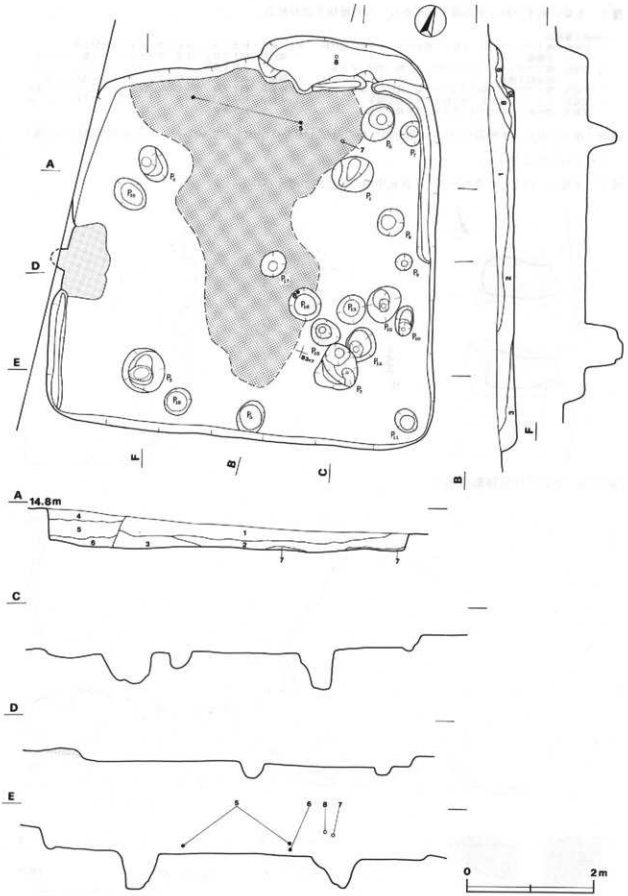
**床**　平坦で，壁際を除いた部分は硬く踏み固められている。また，北壁から南壁にむけての広い範囲に焼土が堆積し，東壁際にはかまぼこ状の焼土の塊が確認されている。

**ピット**　19か所（$P_1$～$P_{19}$）。$P_1$～$P_4$は径60～70cmの円形もしくは楕円形で，深さが46～67cmの主柱穴である。$P_5$は径50cmの円形で，深さは21cmの出入り口施設に伴うピットである。$P_6$～$P_{19}$は径30～60cm，深さ11～58cmのピットで，性格は不明である。

**竈**　西壁中央部を壁外に20cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。煙道部先端が調査区外へ延びているが，確認できる規模は長さ105cm，幅115cmである。両袖とも良好な状態で残り，火床部には赤変硬化した焼土が厚く堆積し，両袖部内面も焼土ブロックが覆っている。わずかに残る煙道は，火床面から段をもって緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　純い橙色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・山砂少量
2　茶　褐　色　焼土ブロック・山砂中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量
4　黒　褐　色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック多量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子・山砂少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　焼土ブロック・山砂少量
8　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
11　暗　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量




第46図　第13号住居跡実測図

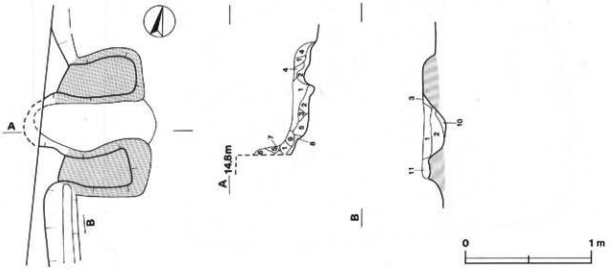
**覆土**　多量の粘土ブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

**住居跡土層解説**

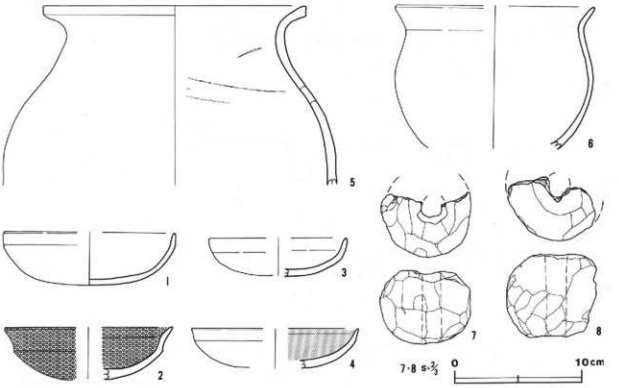
1　黒褐色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　焼土ブロック・ローム小ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　焼土粒子・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
6　黒褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　色　粘土ブロック中量，黒色土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗褐色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
10　暗褐色　粘土ブロック中量，焼土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片516点，須恵器片45点及び土玉２点が出土している。５及び６の土師器甕は覆土下層から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，７世紀中頃の住居跡と考えられる。




第47図　第13号住居跡竈実測図




第48図　第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第48図 1 | 坏 上師器 | A(13.5) B 4.2 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。 | 口縁部内・外面横方向のナデ。底部外面へら削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 橙色 普通 | P95 20% 覆土 |
| 2 | 坏 上師器 | A(13.2) B(4.1) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。体部と口縁部境に不明瞭な稜を持つ。 | 口縁部内・外面横方向の強いナデ。体部外面から底部にかけてへら削り後ナデ。 | 長石・雲母 赤褐色 普通 | P96 20% 覆土 内外面赤彩 |
| 3 | 坏 上師器 | A(10.8) B 3.0 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。 | 口縁部内・外面強い横方向のナデ。底部外面へら削り後ナデ。 | 長石・雲母・スコリア 橙色 普通 | P97 20% 覆土 |
| 4 | 坏 上師器 | A(13.2) B(3.1) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面強い横方向のナデ。底部外面へら削り後ナデ。 | 長石・雲母・スコリア 橙色 普通 | P98 15% 覆土 内面黒色処理 |
| 5 | 甕 上師器 | A 20.6 B(14.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は球状に立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横方向のナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 橙色 普通 | P99 30% 覆土下層 |
| 6 | 甕 土師器 | A(15.6) B(11.4) | 体部から口縁部にかけての破片。球状の体部は，頸部で緩やかに外反し，口縁部は斜め上方に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 礫 黄い赤褐色 普通 | P100 30% 覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 径(cm) | 高さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第48図7 | 土玉 | (3.5) | (2.9) | 0.8 | (30.9) | 覆土上層 | DP10 |
| 8 | 土玉 | (3.5) | (2.3) | (0.9) | (23.2) | 覆土上層 | DP11 |

## 第14号住居跡（第49図）

**位置**　調査区の中央部，B3c₄区。

**重複関係**　本跡の北壁は第20号住居跡を掘り込んでおり，北コーナーは第3号住居跡に掘り込まれている。

**規模と平面形**　長軸（4.60）m，短軸4.20mで，短軸がわずかに短い隅丸方形である。

**主軸方向**　N－29°－E

**壁**　壁高は約18cmで，外傾して立ち上がる。

**壁溝**　ほぼ全周している。幅10～20cm，深さ5～10cmで，断面はじ字形である。

**床**　ほぼ平坦で，壁際を除いた部分は硬く踏み固められている。

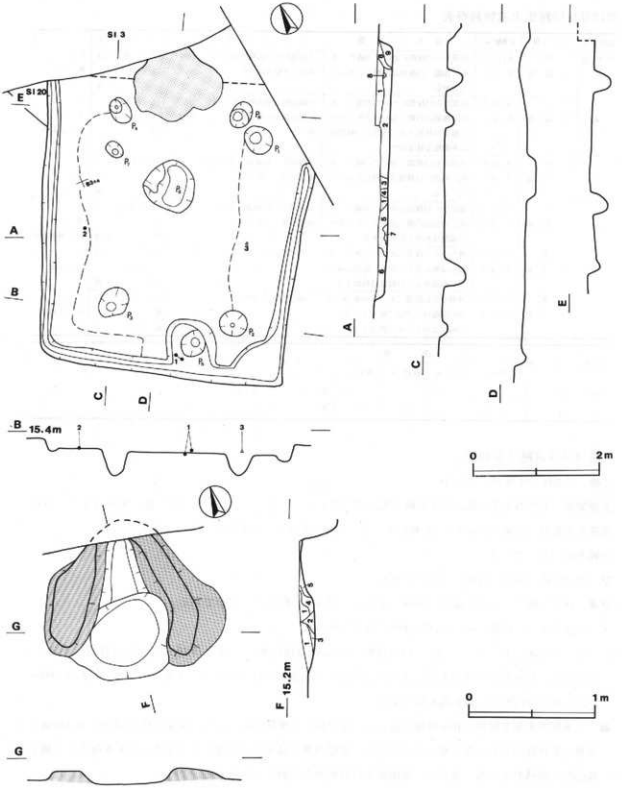
**ピット**　8か所（$P_1$～$P_8$）。$P_1$～$P_4$は径30～50cmのほぼ円形で，深さは26～43cmの主柱穴である。$P_5$は長径50cm，短径40cmの楕円形で，深さ24cmの出入り口施設に伴うピットである。$P_6$～$P_8$は径30～80cm，深さ20～30cmの円形で，性格は不明である。

**竈**　北東壁中央部を壁外に40cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は長さ130cm，幅140cmである。両袖とも耕作のため上部を削られているが，袖部内側と皿状に浅く窪んだ火床部には赤変硬化した焼土が比較的厚く堆積している。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

**竈土層解説**

1　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　粘土粒子多量
3　鈍い赤褐色　焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子中量
4　鈍い赤褐色　焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

**覆土**　自然堆積と思われる。

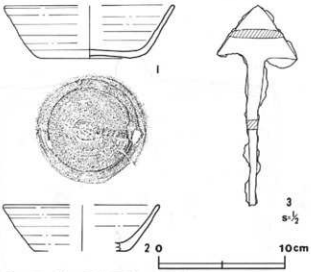



第49図　第14号住居跡実測図

住居跡土層解説
1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・粘土中ブロック微量
3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
5 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
6 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
8 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
9 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

**遺物** 覆土中から，土師器片235点，須恵器片87点及び鉄鏃1点が出土している。1及び2の須恵器坏は床面から出土している。

**所見** 本跡は，出土した遺物から，8世紀後半の住居跡と考えられる。




第50図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第50図 1 | 坏<br>須恵器 | A(13.5)<br>B 4.3<br>C 8.3 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。底部中央1本のヘラ描線。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>灰色<br>普通 | P101 70%<br>床面 |
| 2 | 坏<br>須恵器 | A(12.3)<br>B 3.7 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>暗灰黄色<br>普通 | P102 20%<br>床面 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第50図3 | 鉄鏃 | 10.6 | 4.4 | 0.6 | 15.2 | 鉄 | 床面 | M4 |

## 第15号住居跡（第51図）

**位置** 調査区の中央部，B3e$_3$区。

**重複関係** 本跡の南コーナーは，第16号住居跡に掘り込まれているので，本跡の方が古い。

**規模と平面形** 長軸4.64m，短軸3.42mの隅丸長方形である。

**主軸方向** N－59°－E

**壁** 壁高は35～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

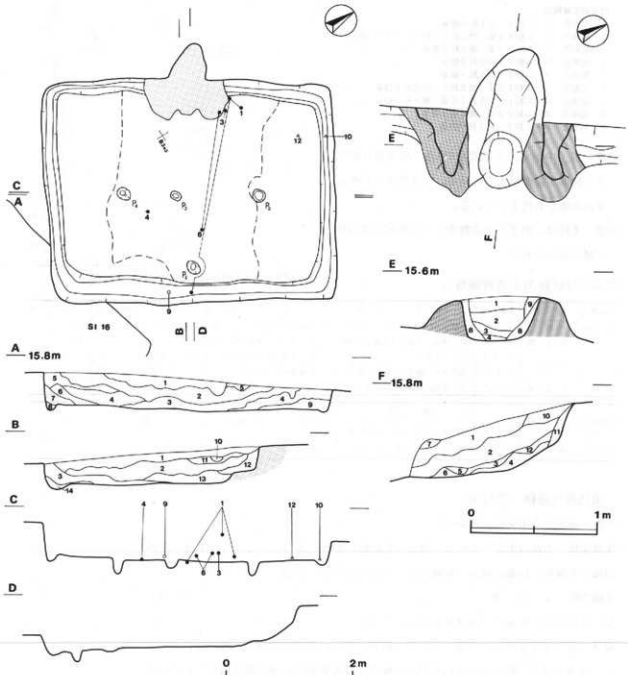
**壁溝** 竈の部分を除き，全周している。幅10～20cm，深さ約10cmで，断面はU字形である。

**床** ほぼ平坦で，竈と出入り口を結ぶ主軸線上付近を中心に硬く踏み固められている。

**ピット** 4か所（$P_1$～$P_4$）。$P_1$は長径20cm，短径15cmの楕円形で，深さが21cmの出入り口施設に伴うピットである。$P_2$は径20cmの円形で，深さ20cm，$P_3$は長径20cm，短径15cmの楕円形で，深さ14cm，$P_4$は長径25cm，短径18cmの楕円形で，深さ25cmのピットである。$P_2$～$P_4$は性格不明である。

**竈** 北西壁中央部を壁外に60cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は長さ115cm，幅130cmである。両袖とも良好な状態で残り，火床部はほぼ平坦で赤変硬化した焼土が比較的厚く堆積している。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1 暗褐色 粘土小ブロック・山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 山砂少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
3 暗褐色 焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
6 暗褐色 ロームブロック中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
7 鈍い褐色 粘土ブロック多量
8 黒褐色 焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
9 暗褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10 暗褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11 褐色 ローム小ブロック少量，炭化粒子・山砂微量
12 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量




**第51図　第15号住居跡実測図**

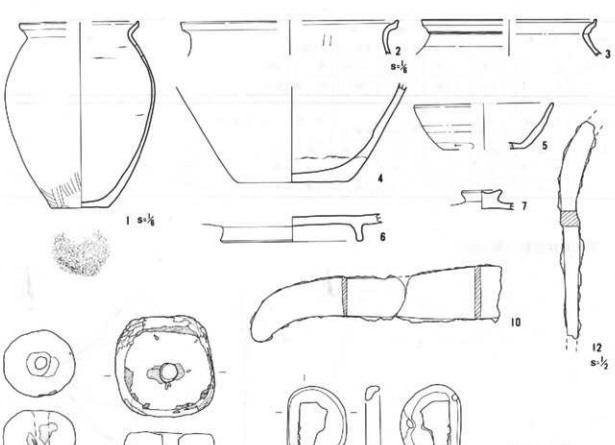
**覆土**　ロームブロックや粘土ブロックの混入状況から，下層は人為堆積で，上層は自然堆積と思われる。

**住居跡土層解説**

1　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム粒子多量，山砂少量
9　暗褐色　炭化物・ローム粒子少量，炭化粒子微量
10　黒褐色　ローム大ブロック中量，ローム粒子少量
11　暗褐色　ローム粒子・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　暗褐色　ローム小ブロック・山砂少量，炭化粒子微量
13　暗褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
14　暗褐色　粘土小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片342点，須恵器片228点，土玉２点，鉄製鎌１点及び金属製銙帯１点が出土している。４の土師器甕は床面から，他はいずれも覆土下層から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，８世紀前半の住居跡と考えられる。




第52図　第15号住居跡出土遺物実測図

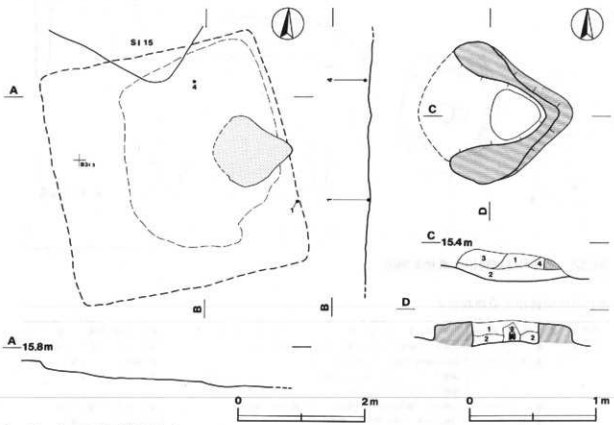
第15号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第52図<br>1 | 甕<br>土師器 | A[18.6]<br>B 29.6<br>C 9.2 | 底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，頸部で「く」の字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>純い橙色<br>普通 | P 103<br>覆土<br>40% |
| 2 | 甕<br>土師器 | A[34.2]<br>B( 5.5) | 口縁部片。頸部は緩やかに外反し，口縁部は水平方向に伸びる。端部は上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>純い黄橙色　普通 | P 104<br>覆土<br>5% |
| 3 | 甕<br>土師器 | A[27.6]<br>B( 5.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁端部は斜め上方につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>純い黄橙色<br>普通 | P 105<br>覆土下層<br>5% |
| 4 | 甕<br>土師器 | B( 7.9)<br>C 9.0 | 底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 体部外面縦方向のヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>純い赤褐色　普通 | P 106<br>床面<br>20% |
| 5 | 坏<br>須恵器 | A[11.0]<br>B 3.7<br>C[ 6.4] | 底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>暗灰黄色<br>普通 | P 107<br>覆土<br>30% |
| 6 | 壺<br>土師器 | B( 2.1)<br>D 11.3<br>E 1.3 | 高台部から底部にかけての破片。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。 | 底部回転ヘラ切り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>暗灰色<br>普通 | P 108<br>覆土下層<br>30% |
| 7 | 蓋<br>須恵器 | B( 1.6)<br>F 3.2<br>G 0.9 | つまみ片。つまみは偏平で，上端に比して下端の径が小さく，上面は中央に向かって下降し，中心部は突起している。 | 外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黄灰色<br>普通 | P 109<br>覆土<br>10% |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 径(cm) | 高さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 第52図8 | 土玉 | (2.8) | (2.2) | 0.5 | (13.9) | 覆土 | DP12 |
| 9 | 土玉 | (2.7) | (3.9) | 0.7 | (58.8) | 床面 | DP13 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第52図10 | 鎌 | (20.0) | 4.7 | 0.6 | (90.9) | 鉄 | 床面 | M5 |
| 11 | 鈴帯 | 3.2 | 2.0 | 0.6 | 5.5 | 銅 | 覆土 | M6 |
| 12 | 釘 | 11.5 | 1.2 | 0.9 | 34.9 | 鉄 | 床面 | M7 |

## 第16号住居跡（第53図）




第53図　第16号住居跡実測図

**位置**　調査区の中央部，B3f₃区。

**重複関係**　本跡北壁の一部分が第15号住居跡を掘り込りこんでいるので，本跡の方が新しい。

**確認状況**　斜面上の黒色土の中に構築された住居跡で，覆土がほとんど流され，竈とわずかな覆土及び床の硬化面が確認されただけである。

**規模と平面形**　長軸〔3.76〕m，短軸〔3.71〕mで，隅丸方形と思われる。

**主軸方向**　N－76°－E

**壁**　壁高は0－15cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，中央部が硬く踏み固められている。

**竈**　耕作による撹乱のため明確でないが，東壁中央部に構築されていたものと思われる。推定規模は長さ120

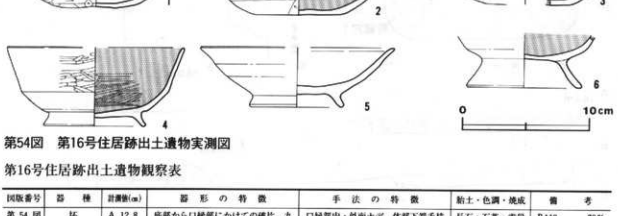
cm，幅110cmである。両袖がわずかに残り，火床部は浅く掘り込まれて焼土が薄く堆積している。

**竈土層解説**

1　黒褐色　焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量
2　黒褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　焼土大ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・山砂微量
4　暗褐色　焼土粒子中量，山砂少量，炭化粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片160点及び須恵器片91点が出土している。1の土師器坏及び4の土師器高台付坏は床面から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，10世紀前半の住居跡と考えられる。




**第54図　第16号住居跡出土遺物実測図**

**第16号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第54図<br>1 | 坏<br>土師器 | A 12.8<br>B 4.0<br>C 6.1 | 底部から口縁部にかけての破片。丸味を帯びた平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い褐色<br>普通 | P 110　70%<br>床面<br>体部外面煤付着 |
| 2 | 坏<br>土師器 | A[14.4]<br>B 4.4<br>C 7.1 | 底部から口縁部にかけての破片。丸味を帯びた平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面横方向のヘラ磨き，外面下端ヘラ削り。底部外面ヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>灰褐色<br>普通 | P 111　50%<br>覆土<br>内面黒色処理 |
| 3 | 坏<br>土師器 | A[13.8]<br>B 3.5<br>C[7.0] | 底部から口縁部にかけての破片。丸味を帯びた平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>鈍い赤褐色　普通 | P 112　50%<br>覆土 |
| 4 | 高台付坏<br>土師器 | A[13.9]<br>B 6.4<br>D 8.1<br>E 1.1 | 高台部から口縁部にかけての破片。平底。付高台。高台は「ハ」の字状に大きく開く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内・外面丁寧なヘラ磨き。底部内面ヘラ磨き。高台部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通 | P 113　50%<br>床面<br>内面黒色処理<br>二次焼成痕 |
| 5 | 高台付坏<br>土師器 | A[15.1]<br>B 4.8<br>D 7.3<br>E 0.8 | 高台部から口縁部にかけての破片。平底。付高台。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石<br>鈍い橙色<br>普通 | P 114　40%<br>覆土 |
| 6 | 高台付坏<br>土師器 | B( 4.3)<br>D 9.0<br>E 2.3 | 高台部から体部にかけての破片。平底。付高台。高台は長く「ハ」の字状に外傾して開く。体部は内彎しながら立ち上がる。 | 体部外面下端ヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色<br>普通 | P 115　30%<br>覆土<br>内面黒色処理 |

## 第17号住居跡（第55図）

**位置**　調査区の中央部，B3d₁区。

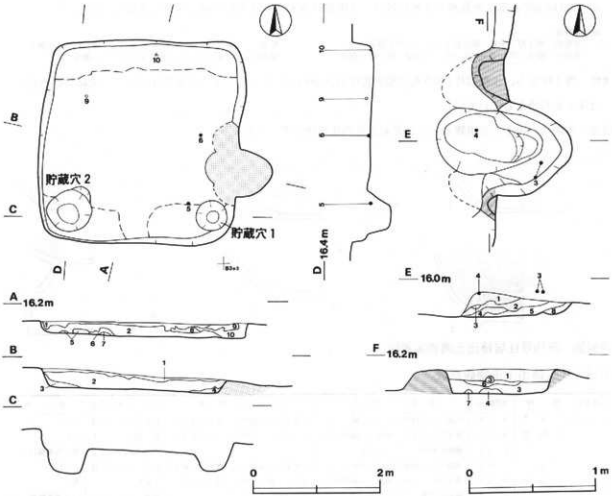
**規模と平面形**　長軸3.24m，短軸3.17mの隅丸方形である。

**主軸方向**　N－101°－E

**壁**　壁高は20～30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，壁際を除いて全体的に硬く踏み固められている。

**竈**　東壁やや南寄りを壁外に65cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は長さ110cm，幅130cmであ




第55図　第17号住居跡実測図

る。両袖とも耕作により削られている。火床部は皿状に10cm掘り込まれていて，炭化粒子が多量に確認されている。わずかに確認できる煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

**竈土層解説**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 褐　色 | ローム粒子多量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 褐　色 | ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐　色 | ローム中ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子微量 | 6 | 鈍い褐色 | 粘土粒子多量，炭化粒子・ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 3 | 黒　色 | 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 7 | 褐　色 | ローム粒子多量 |
| 4 | 黒　色 | 炭化粒子多量，焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 | 8 | 鈍い褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量 |

**貯蔵穴**　2か所。貯蔵穴1は径50cm，深さ27cmの円形で，南東コーナーに設置され，貯蔵穴2は径65cm，深さ40cmの円形で，南西コーナーに設置されている。底面はともに平坦である。

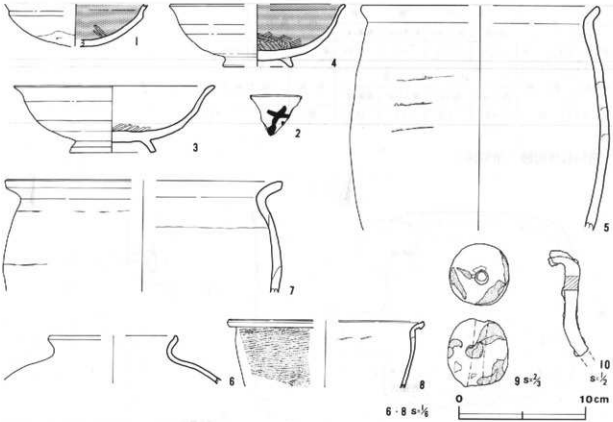
**覆土**　自然堆積と思われる。

**住居跡土層解説**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 | 6 | 褐　色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 | 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 | 褐　色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化物中量，焼土粒子微量 | 9 | 褐　色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量 |
| 5 | 褐　色 | ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 10 | 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |

**遺物**　覆土中から，土師器片127点，須恵器片66点及び土玉1点が出土している。3及び4の土師器高台付坏は竈内から，5及び6の土師器甕は床面から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，10世紀前半の住居跡と考えられる。




**第56図　第17号住居跡出土遺物実測図**

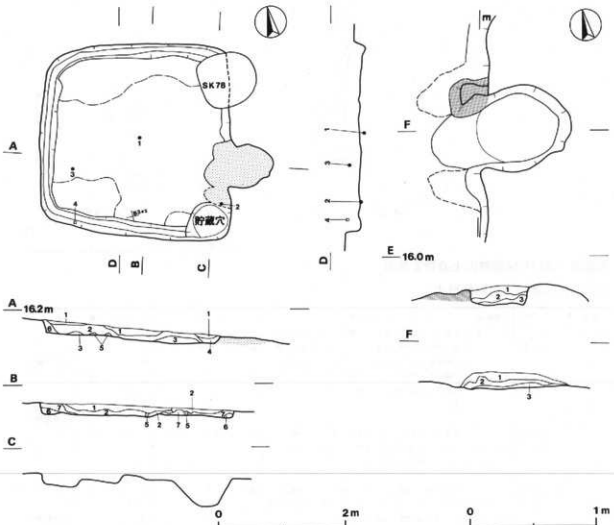
**第17号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第56図<br>1 | 坏<br>土師器 | B(3.4) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面横方向の強いナデ。体部内面下位縦方向のヘラ磨き。底部外面ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通 | P116　25%<br>覆土<br>内面黒色処理 |
| 2 | 坏<br>土師器 | | 口縁部から体部にかけての破片。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 体部内面ヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P117　10%<br>覆土<br>内面黒色処理<br>体部外面墨書 |
| 3 | 高台付坏<br>土師器 | A 16.0<br>B 5.4<br>D 6.8<br>E 1.0 | 底部から体部にかけての破片。平底。付高台。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>礫<br>橙色<br>普通 | P118　65%<br>覆土 |
| 4 | 高台付坏<br>土師器 | A(13.7)<br>B 5.0<br>D(5.5)<br>E 0.7 | 高台部から口縁部にかけての破片。平底。付高台。高台は低く，径は狭い。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い褐色<br>普通 | P119　60%<br>覆土<br>内面黒色処理 |
| 5 | 甕<br>土師器 | A(18.8)<br>B(17.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P120　30%<br>床面 |
| 6 | 甕<br>土師器 | A(20.0)<br>B(7.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は球状に膨み，頸部は緩やかに外反する。口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黒褐色<br>普通 | P121　5%<br>床面 |
| 7 | 甕<br>土師器 | A(21.8)<br>B(8.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P122　5%<br>覆土 |
| 8 | 甕<br>須恵器 | A(31.0)<br>B(10.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾し，端部は上下両方向に突出している。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面平行叩き。 | 長石・石英・雲母<br>礫<br>灰白色<br>普通 | P123　5%<br>覆土 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 径(cm) | 高さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 第56図9 | 土玉 | (2.4) | (2.7) | 0.4 | (13.6) | 床面 | DP14 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第56図10 | 釘 | (5.6) | 1.0 | 0.8 | (12.0) | 鉄 | 床面 | M8 |

## 第18号住居跡（第57図）




第57図　第18号住居跡実測図

**位置**　調査区の中央部，B3e₂区。

**重複関係**　本跡の東壁は，第78号土坑を掘り込んでいるので，本跡の方が新しい。

**規模と平面形**　長軸3.12m，短軸2.97mの隅丸方形である。

**主軸方向**　N－106°－E

**壁**　壁高は15～30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

**壁溝**　東壁を除き，全周している。幅約20cm，深さ約10cmで，断面はU字形である。

**床**　ほぼ平坦で，主軸線上付近を中心に硬く踏み固められている。

**竈**　東壁やや南寄りを壁外に70cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は長さ110cm，幅110cmであ

る。耕作のために両袖とも上部を削られているが，覆土中には黒色土に混じって多量の焼土が確認されている。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

**覆土層解説**
1　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量

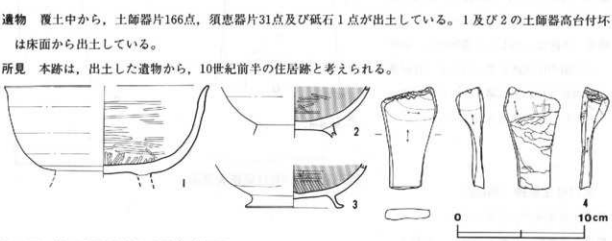
**貯蔵穴**　南東コーナーに付設されており，長径80cm，短径70cmの楕円形で，深さは12cmである。底部は平坦で，壁は緩やかに立ち上がる。

**覆土**　自然堆積と思われる。

**住居跡土層解説**
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量
6　褐　　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片166点，須恵器片31点及び砥石１点が出土している。１及び２の土師器高台付坏は床面から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，10世紀前半の住居跡と考えられる。




第58図　第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第58図 1 | 高台付坏<br>土師器 | A(16.0)<br>B( 7.4)<br>E( 0.4) | 底部から口縁部にかけての破片。丸味を帯びた平底。付高台。高台部大部分欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面横方向の回転ヘラ磨き。底部内面ヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>黄褐色<br>普通 | P124　50%<br>床面 |
| 2 | 高台付坏<br>土師器 | B( 4.1)<br>E( 1.1) | 高台部から体部にかけての破片。丸味を帯びた平底。付高台。高台は端部が細くなり，「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。 | 体部内面横方向のヘラ磨き。底部内面ヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>黄褐色<br>普通 | P125　50%<br>床面<br>内面黒色処理 |
| 3 | 高台付坏<br>土師器 | B( 3.5)<br>D 7.7<br>E 1.0 | 高台部から体部にかけての破片。丸底。付高台。高台は低く，先端部が横方向に突出している。体部は内彎しながら立ち上がる。 | 体部から底部内面にかけてヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。 | 雲母・スコリア<br>黄橙色<br>普通 | P126　50%<br>覆土中層<br>内面黒色処理 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第58図 4 | 砥石 | (8.1) | (4.4) | (2.1) | (62.3) | 凝灰岩 | 覆土中層 | Q1 |

## 第19号住居跡（第59図）

**位置**　調査区の中央部，B2d₀区。

**規模と平面形**　長軸4.20m，（短軸未確認）。住居跡の西側は調査区外に延びており，全体は確認できない。東コーナー及び南コーナーは隅丸である。

**長軸方向**　N－11°－E

**壁**　壁高は約9㎝で，緩やかに外傾しながら立ち上がる。

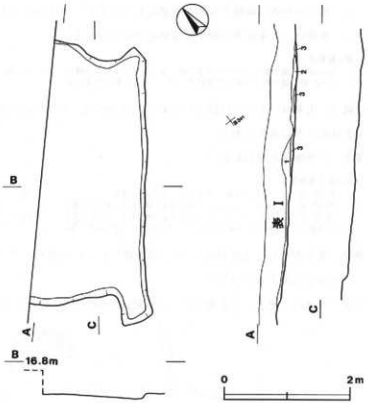
**床**　平坦で，黒色土が硬く踏み固められている。

**覆土**　自然堆積と思われる。

住居跡土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
3　明褐色　ローム粒子多量

**遺物**　覆土中から，土師器片10点及び須恵器片5点が出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，10世紀中頃の住居跡と考えられる。住居跡の西側半分以上が調査区外に延びているため，竈は確認されていない。




第59図　第19号住居跡実測図

## 第21号住居跡（第60図）

**位置**　調査区の中央部，B3d₄区。

**規模と平面形**　長軸3.28ｍ，（短軸未確認）。遺構の西側半分は調査区外へ延びており，全体は確認できない。北東コーナーは隅丸である。

**長軸方向**　N－10°－E

**壁**　壁高は約17㎝で，外傾して立ち上がる。

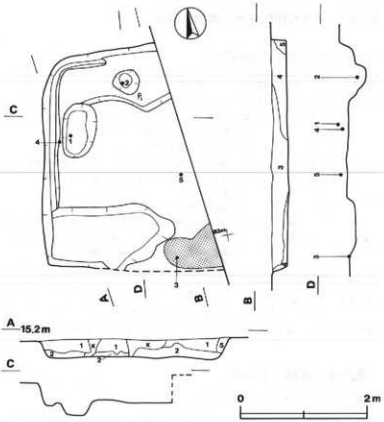
**床**　ほぼ平坦で，黒色土が硬く踏み固められている。南側の床面に焼土の塊が見られる。

**ピット**　径約40㎝の円形で，深さ20㎝の主柱穴である。

**覆土**　自然堆積と思われる。

住居跡土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
3　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　焼土小ブロック，焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　極暗褐色　焼土小ブロック・ローム粒子微量

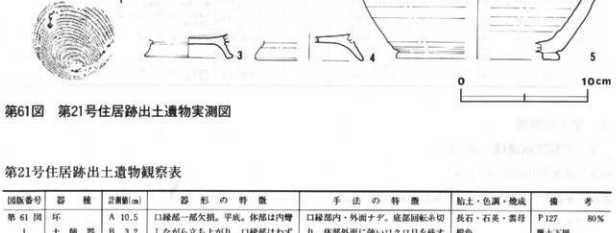
**遺物**　覆土中から，土師器片60点及び須恵器片16点が出土している。2及




第60図　第21号住居跡実測図

び3の土師器高台付坏は床面から，1の土師器坏及び4の土師器高台付坏は覆土下層から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，10世紀前半の住居跡と考えられる。重複のために竈は確認されていない。




**第61図　第21号住居跡出土遺物実測図**

## 第21号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第61図<br>1 | 坏<br>土師器 | A 10.5<br>B 3.2<br>C 6.8 | 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通 | P127　80%<br>覆土下層 |
| 2 | 高台付坏<br>土師器 | B(2.8)<br>D 7.6<br>E 1.4 | 高台部から体部にかけての破片。平底。付高台。高台は直線的に開き，体部は内彎しながら立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面横方向のヘラ磨き。底部内面ヘラ磨き，外面回転ヘラ切り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通 | P129　50%<br>床面<br>内面黒色処理 |
| 3 | 高台付坏<br>土師器 | B(1.3)<br>D 6.7<br>E 1.1 | 高台部片。平底。付高台。高台は外傾しながら開き，先端部が横方向に突出している。 | 底部内面ヘラ磨き。高台部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P130　30%<br>床面<br>内面黒色処理 |
| 4 | 高台付坏<br>土師器 | B(2.1)<br>D(8.2)<br>E 1.4 | 高台部片。平底。付高台。高台は直線的に外傾して開く。 | 底部内面ヘラ磨き。高台部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P131　10%<br>覆土下層 |
| 5 | 長頸壺<br>須恵器 | B(8.6)<br>D(13.0)<br>E 0.6 | 高台部から体部にかけての破片。平底。付高台。高台部は短い。体部は内彎しながら立ち上がる。 | 体部外面横方向のナデ。 | 長石・石英・雲母<br>灰<br>暗灰褐色　普通 | P132　10%<br>覆土下層 |

## 表6　念代遺跡住居跡一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向(長軸方向) | 平面形 | 規模(m)(長軸×短軸) | 壁高(cm) | 床面 | 内部施設 主柱穴 | 貯蔵穴 | ピット | 入口 | 竈 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | $A3i_6$ | N−34°−E | 隅丸方形 | 3.72 × 3.72 | 15~20 | 平坦 | 4 | − | 2 | 1 | 1 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕・蓋・鍋),土製品(土玉) | 第2号竪穴状遺構→本跡 |
| 3 | $B3a_8$ | N−6°−E | 不明 | 5.47 × (3.73) | 20~35 | 凸凹 | 2 | − | − | − | 1 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕),須恵器(坏・蓋・甕・鉢) | S120→S114→本跡 |
| 4 | $A3i_9$ | N−42°−E | 隅丸長方形 | 4.70 × 4.10 | 40~60 | 平坦 | 4 | − | − | 1 | 1 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕),須恵器(坏・高坏・高台付坏・蓋・鍋・甕・鉢),土製品(土玉・管状土錘・支脚) | |
| 5 | $C2c_3$ | N−28°−W | 隅丸方形 | 3.43 × 3.35 | 20~25 | 平坦 | − | − | − | − | 1 | 人為 | 土師器(坏・甕・高),須恵器(坏・高台付坏・甕・鉢) | 本跡→第2号通下式塚 |
| 6 | $B3a_8$ | N−37°−E | 隅丸方形 | 4.20 × [4.15] | 55~60 | 平坦 | 4 | − | 2 | 1 | 1 | 人為 | 土師器(坏・高台付坏・甕・蓋),須恵器(坏・高台付坏・甕・蓋・鉢・円面硯),土製品(土玉・支脚),鉄製品(刀子) | S686→本跡→S687→S18 |
| 7 | $A3j_0$ | N−48°−E | 隅丸方形 | 3.45 × 3.35 | 20~50 | 平坦 | − | − | 4 | 1 | 1 | 人為 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・高台付坏・甕・蓋・小鉢鉢) | |
| 8 | $B3a_9$ | N−41°−E | 不明 | (3.52)×(1.52) | 40 | 平坦 | 4 | − | 1 | − | 1 | 人為 | 土師器(坏・甕・蓋),須恵器(坏・高台付坏・甕・短頸壺) | S16→S688→本跡→S687 |
| 9 | $B3i_1$ | N−45°−W | 不明 | 7.20 ×(5.85) | 34 | 平坦 | 4 | − | 8 | − | 不明 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕),須恵器(坏・甕・鉢) | 本跡→S110 |
| 10 | $B3j_1$ | N−77°−W | 不明 | 3.90 ×(2.35) | 30 | 平坦 | − | − | 2 | − | 不明 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕),須恵器(坏・高台付坏・甕・蓋) | S19→本跡 |
| 11 | $B3c_2$ | N−57°−E | 不明 | 5.30 ×(3.82) | 85 | 平坦 | 2 | − | 1 | 1 | 1 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・高台付坏・甕・鍋・蓋) | 本跡→S112 |
| 12 | $B3c_3$ | N−90°−E | 不整長方形 | 3.08 × 1.97 | 15~20 | 平坦 | 4 | − | − | − | 1 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕・鉢),須恵器(坏・鍋・蓋・皿) | S111→本跡 |
| 13 | $B3b_6$ | N−110°−W | 方形 | 6.10 × 5.85 | 40~50 | 平坦 | 4 | − | 14 | 1 | 1 | 人為 | 土師器(坏・甕・鍋),須恵器(坏・甕・蓋・鍋・壺),土製品(土玉) | |
| 14 | $B3c_4$ | N−29°−E | 隅丸方形 | (4.60)× 4.20 | 18 | 平坦 | 4 | − | 3 | 1 | 1 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕),須恵器(坏・甕・蓋),鉄製品(鉄鏃) | S120→本跡→S13 |

| 番号 | 位置 | 主軸方向（長軸方向） | 平面形 | 規模（m）（長軸×短軸） | 壁高（cm） | 床面 | 内部施設 | | | | 竈 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係（古→新） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 柱穴 | 貯蔵穴 | ピット | 人工 | | | | |
| 15 | $B3e_3$ | N-59°-E | 隅丸長方形 | 4.64 × 3.42 | 35～50 | 平坦 | - | - | 3 | 1 | 1 | 自然 | 土師器(杯・甕・鉢)，須恵器(坏・高台付坏・蓋・壺・鉢・甕)，土製品(土玉・紡錘車)，金属製品(鉄釘・鉄・刀) | 本跡→S116 |
| 16 | $B3d_1$ | N-76°-E | 隅丸方形 | (3.76)×(3.71) | 15 | 平坦 | - | - | - | - | 1 | 自然 | 土師器(杯・高台付坏・甕)，須恵器(坏・蓋・鉢・甕) | S115→本跡 |
| 17 | $B3d_1$ | N-101°-E | 隅丸方形 | 3.24 × 3.17 | 20～30 | 平坦 | - | 2 | - | - | 1 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕)，須恵器(坏・蓋・鉢)，土製品(土玉)，鉄製品(刀) | |
| 18 | $B3e_2$ | N-106°-E | 隅丸方形 | 3.12 × 2.97 | 15～30 | 平坦 | - | 1 | - | - | 1 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕)，須恵器(坏・蓋)，石製品(砥石) | S878→本跡 |
| 19 | $B2d_4$ | N-11°-E | 不明 | 4.20 ×(1.65) | 9 | 平坦 | - | - | - | - | 不明 | 自然 | 土師器(坏・蓋)，須恵器(蓋) | |
| 20 | $B3e_4$ | N- 0° | 不明 | 4.65 ×(1.25) | 25 | 平坦 | 3 | - | - | - | 不明 | 自然 | 土師器(甕) | 本跡→S114→S13 |
| 21 | $B3d_4$ | N-102°-E | 不明 | 3.28 ×(2.65) | 17 | 平坦 | 1 | - | - | - | 不明 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕)，須恵器(坏・高台付坏・蓋) | |

## 2　竪穴状遺構

### 第１号竪穴状遺構（第62図）

**位置**　調査区中央部，C1g9区。

**規模と平面形**　長軸2.60m，短軸2.50mの方形である。

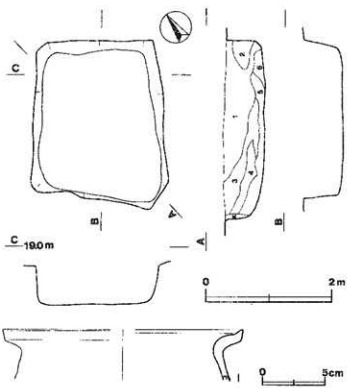
**長軸方向**　N－42°－E

**壁**　壁高は70cmで，垂直に立ち上がる。

**底面**　平坦で，炭化粒子や焼土粒子がわずかに散れている。硬化面は見られない。

**覆土**　ロームブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化物・ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム大ブロック中量，ローム粒子少量，炭化物微量
3　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム大ブロック微量
6　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量



第62図　第１号竪穴状遺構・出土遺物実測図

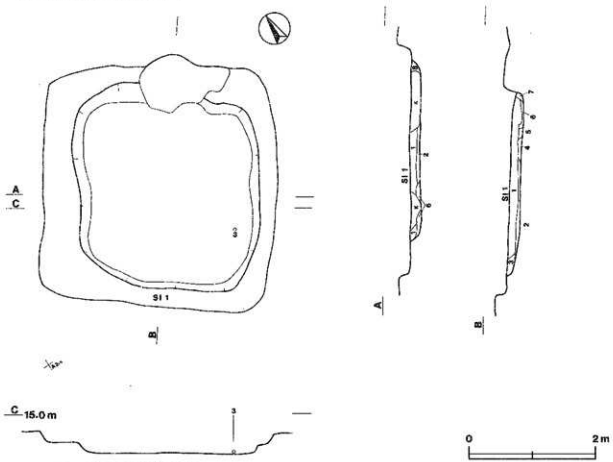
**遺物**　覆土中から，土師器片50点及び須恵器片50点が出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，平安時代の竪穴状遺構と考えられる。形状は住居跡と似ているが，規模が小さいことや竈，炉の痕跡が無いこと，さらに，人が住んで底面が踏み固められた様子が無いことなどから，住居跡ではないものと思われる。

第１号竪穴状遺構出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第62図 1 | 甕 上師器 | A(19.0) B(4.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ちあがり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 鈍い橙色 普通 | 5% P133 覆土 |

第２号竪穴状遺構（第63図）




第63図　第２号竪穴状遺構実測図

**位置**　調査区中央部，A3i₆区。

**重複関係**　本跡を人為的に埋めて，第１号住居跡が構築されている。

**規模と平面形**　長軸3.65ｍ，短軸3.25ｍの方形である。

**長軸方向**　N－35°－E

**壁**　壁高は15cmで，緩やかに立ち上がる。

**底面**　平坦で，炭化粒子や焼土粒子がわずかに散れている。硬化面は見られない。

**覆土**　各層に粘土ブロックが混入している状況から，人為堆積と思われる。

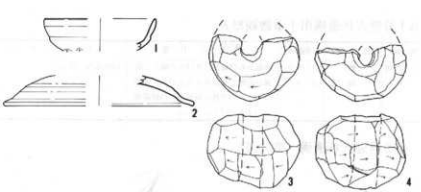
土層解説

1　暗褐色　粘土ブロック多量，ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　焼土粒子・粘土粒子微量
4　明褐色　粘土ブロック多量
5　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
8　褐　色　粘土ブロック中量，炭化粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片48点，須恵器片15点，土玉２点及び流れ込みと思われる縄文土器片２点が出土し

ている。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，平安時代の竪穴状遺構と考えられる。形状は住居跡とよく似ているが，規模が小さいことや竈，炉等内部施設の痕跡が無いこと，さらに，人が住んで底面が踏み固められた様子が無いことなどから，住居跡ではないものと思われる。




第64図　第２号竪穴状遺構出土遺物実測図

第２号竪穴状遺構出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第64図 1 | 坏 土師器 | A( 8.7) B( 2.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。体部と口縁部の境に稜を持つ。 | 口縁部内・外面横方向の強いナデ。底部外面ヘラ削り。 | 長石・スコリア 鈍い橙色 普通 | P 4 覆土 10% |
| 2 | 甕 須恵器 | A(14.8) B( 2.4) | 天井部・口縁部片。天井部は内彎する。口縁部はわずかに内彎する。 | 天井部外面回転ヘラ削り。口縁部内・外面ナデ。 | 長石・雲母・砂粒 黄灰色 普通 | P 5 覆土 10% |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 径(cm) | 高さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 第64図 3 | 土玉 | ( 3.6) | ( 2.9) | 0.8 | (23.6) | 底面 | BP 3 |
| 4 | 土玉 | ( 3.2) | ( 3.0) | 1.0 | (18.7) | 覆土 | BP 4 |

## 3　土坑

遺構確認の段階で，89号まで土坑番号を付けたが，風倒木痕の類を除いて，82基を土坑とした。出土遺物は少なく，その大部分も細片で，時期や性格について不明なものが多い。ここでは，19基の土坑について説明を加え，その他は一覧表にまとめ実測図を掲載する。

### 第１号土坑（第65図）

**位置**　調査区北部，D1d9区。

**規模と平面形**　長軸（2.14）m，短軸0.72mの長方形で，深さは0.54mである。遺構の南側は調査区外へ延びている。

**長軸方向**　N－18°－E

**壁面**　外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**覆土**　ロームブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，粘土粒子微量
3　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，粘土粒子微量

第65図　第１号土坑実測図

**遺物**　覆土中から土師器片10点及び床面から小刀１点が出土している。

**所見**　時期や性格等は不明である。

第66図　第１号土坑出土遺物実測図

第１号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第66図１ | 小刀 | (21.7) | 1.6 | 0.3 | (47.3) | 鉄 | 床面 | M９ |

## 第３号土坑（第67図）

**位置**　調査区北部，D1a9区。

**規模と平面形**　長軸1.82ｍ，短軸0.96ｍの長方形で，深さは0.47ｍである。

**長軸方向**　N－23°－E

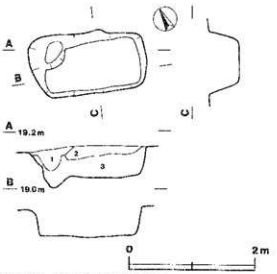
**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　平坦である。

**覆土**　ロームブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量，炭化物微量
2　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，炭化物微量
3　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，炭化物微量

**遺物**　覆土中から，土師器片13点及び須恵器片12点が出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，平安時代の土坑と考えられる。性格は不明である。




第67図　第３号土坑実測図

## 第４号土坑（第68図）

**位置**　調査区北部，C1j7区。

**規模と平面形**　長軸2.40ｍ，短軸1.50ｍの長方形で，深さは0.84ｍである。

**長軸方向**　N－65°－W

**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　平坦である。

**覆土**　ロームブロック，粘土ブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック多量，焼土粒子・炭化物・ローム大ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子多量，炭化物・ローム大ブロック微量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，炭化物・粘土大ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子多量，粘土大ブロック微量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化物・ローム大ブロック微量
6　灰褐色　粘土粒子多量，ローム中ブロック・ローム粒子中量

**遺物**　覆土中から，土師器片19点，須恵器片８点，土師質土器片１点（鉢），及び古銭１点が出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，平安時代の土坑と考えられる。性格は不明である。

第４号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第68図１ | 鉢 | A(31.0)<br>B 11.4<br>C(12.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁端部は左右両端が突出している。 | 口縁部内・外面横方向の強いナデ。体部下位指頭による斜方向の圧痕。 | 長石・石英<br>橙色<br>普通 | P134<br>覆土 | 20% |

| 図版番号 | 名　称 | 時　代 | 初鋳造年 | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第68図2 | 熙寧元寶 | 北　宋 | 1064 | 覆土中層 | M10 |

### 第39号土坑（第68図）

**位置**　調査区北部，C1j$_8$区。

**重複関係**　第４号土坑と重複している。新旧関係は不明である。

**規模と平面形**　長軸1.20ｍ，短軸（0.90）ｍの不定形で，深さは0.28ｍである。

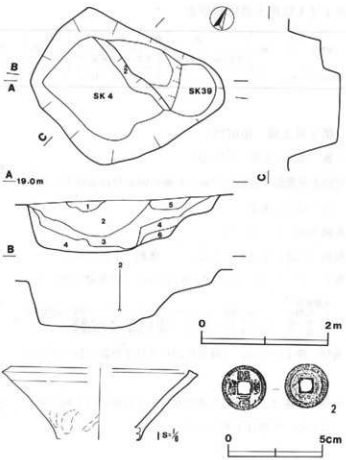
**長軸方向**　Ｎ－53°－Ｗ

**壁面**　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**遺物**　覆土中から，熙寧元寶１点が出土している。

**所見**　時期や性格は不明である。




第68図　第４・39号土坑・出土遺物実測・拓影図

### 第７号土坑（第69図）

**位置**　調査区北部，C2i$_1$区。

**規模と平面形**　長軸1.68ｍ，短軸1.20ｍの長方形で，深さは0.78ｍである。

**長軸方向**　Ｎ－10°－Ｗ

**壁面**　外傾して立ち上がる。

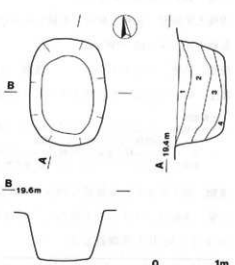
**底面**　平坦である。

**覆土**　ロームブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

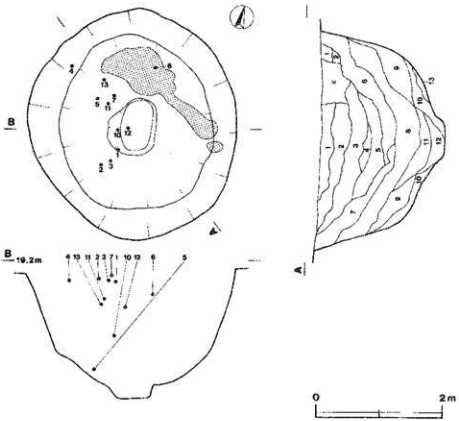
**遺物**　覆土中から，土師器片14点及び須恵器片２点が出土している。

**所見**　時期や性格等は不明である。




第69図　第７号土坑実測図

## 第8号土坑（第70図）




第70図　第8号土坑実測図

**位置**　調査区北部，C1j₃区。

**規模と平面形**　長径3.53m，短径3.25mのほぼ円形で，深さは2.20mである。

**長径方向**　N－42°－W

**壁面**　内彎しながら立ち上がる。

**底面**　最下部に平坦な窪みをもち，全体は球状である。

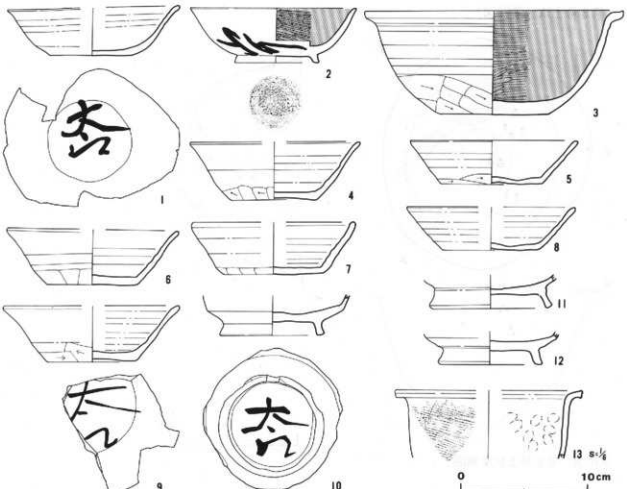
**覆土**　ロームブロックや粘土ブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
7　明褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗褐色　焼土小ブロック中量，炭化物・ローム小ブロック・粘土ブロック少量
10　明褐色　ローム中ブロック多量，ローム粒子・粘土ブロック少量
11　褐　色　炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
12　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　黒褐色　ローム小ブロック・粘土ブロック少量

**遺物**　覆土中から，土師器片107点及び須恵器片98点が出土している。5の須恵器坏は覆土下層から，10の須恵器高台付坏は覆土中層から，他は覆土上層から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，平安時代の土坑と考えられる。井戸あるいは貯水施設の可能性がある。




第71図　第８号土坑出土遺物実測図

第８号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第71図<br>1 | 坏<br>土師器 | A〔13.6〕<br>B 4.0<br>C 6.5 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部外面ヘラ削り。 | 長石・雲母・スコリア<br>鈍い黄橙色　普通 | P135　65%<br>覆土上層<br>墨書『太部』 |
| 2 | 高台付坏<br>土師器 | A 13.1<br>B 4.4<br>D 6.6<br>E 0.7 | 平底。高台は短く直線的に「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から体部内面横方向の丁寧なヘラ磨き。底部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。 | 長石・石英・スコリア<br>浅黄橙色<br>普通 | P136　100%<br>覆土上層<br>墨書『山万』<br>内面黒色処理 |
| 3 | 鉢<br>土師器 | A〔20.5〕<br>B 8.4<br>C 8.7 | 口縁部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横方向のナデ。口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き。体部外面下位横方向のヘラ削り。底部内面ヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P137　70%<br>覆土上層<br>内面黒色処理 |
| 4 | 坏<br>須恵器 | A〔13.4〕<br>B 4.6<br>C 6.6 | 口縁部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り，内面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>鈍い黄橙色　普通 | P138　70%<br>覆土上層 |
| 5 | 坏<br>須恵器 | A 13.1<br>B 3.5<br>C 8.0 | 口縁部から底部にかけての破片。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下位横方向のヘラ削り。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・雲母<br>褐灰色<br>普通 | P139　85%<br>覆土下層 |
| 6 | 坏<br>須恵器 | A〔13.5〕<br>B 4.4<br>C 7.2 | 口縁部から体部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>灰黄褐色<br>普通 | P140　70%<br>覆土中層 |

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第71図<br>7 | 坏<br>須恵器 | A〔12.8〕<br>B 4.2<br>C 7.9 | 底部から口縁部にかけての破片。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がり，端部はわずかに内彎する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。体部内面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>暗灰黄色<br>普通 | P141　50%<br>覆土上層 |
| 8 | 坏<br>須恵器 | A〔13.3〕<br>B 3.4<br>C 7.7 | 底部から口縁部にかけての破片。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>灰色<br>普通 | P142　50%<br>覆土 |
| 9 | 坏<br>須恵器 | A〔13.8〕<br>B 4.4<br>C〔7.0〕 | 底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>礫<br>灰黄褐色　普通 | P143　40%<br>覆土<br>墨書『大部』 |
| 10 | 高台付坏<br>須恵器 | B〔3.3〕<br>D 8.0<br>E 1.0 | 高台部から体部下端にかけての破片。平底。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 底部回転ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>灰色<br>普通 | P144　60%<br>覆土中層<br>墨書『大部』 |
| 11 | 高台付坏<br>須恵器 | B〔2.7〕<br>D 9.6<br>E 1.6 | 高台部から底部にかけての破片。平底。付高台。高台は外傾して「ハ」の字状に開く。 | 底部外面ヘラ削り後ナデ。高台部内・外面横ナデ。 | 長石・石英<br>黄灰色<br>普通 | P145　40%<br>覆土中層 |
| 12 | 高台付坏<br>須恵器 | B〔2.6〕<br>D 8.2<br>E 1.3 | 高台部から底部にかけての破片。平底。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。 | 底部回転ヘラ切り。 | 長石・石英<br>灰色<br>普通 | P146　40%<br>覆土中層 |
| 13 | 甕<br>須恵器 | A〔30.0〕<br>B〔10.8〕 | 体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾し，頸部は緩やかに外反する。口縁部は水平方向に伸び，端部は下方に突出している。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面平行叩き。体部内面指頭圧痕。 | 長石・石英・雲母<br>灰黄色<br>普通 | P147　5%<br>覆土中層 |

## 第15号土坑（第72図）

**位置**　調査区北部，C2d$_4$区。

**規模と平面形**　長径1.36m，短径0.96mの楕円形で，深さは0.16mである。

**長径方向**　N－37°－E

**壁面**　外傾して立ち上がる。

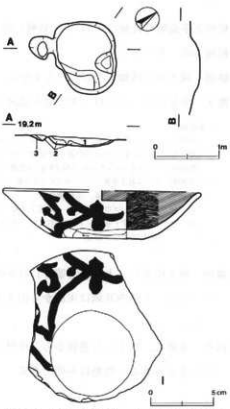
**底面**　皿状である。

**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量
3　黒褐色　ローム粒子少量

**遺物**　覆土中から，土師器片2点が出土している。

**所見**　時期や性格等は不明である。




第72図　第15号土坑・出土遺物実測図

第15号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器　形　の　特　徴 | 手　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第72図<br>1 | 坏<br>土師器 | A〔15.8〕<br>B 3.8<br>C 6.8 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。比較的器高が低い。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から体部内面丁寧なヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>純い黄橙色<br>普通 | P148　30%<br>覆土<br>内面黒色処理<br>墨書『大部』 |

## 第16号土坑（第73図）

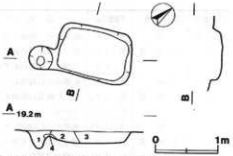
**位置**　調査区北部，C2c₄区。

**規模と平面形**　長軸1.13ｍ，短軸0.84ｍの長方形で，深さは0.15ｍである。

**長軸方向**　N－46°－E

**壁面**　垂直に立ち上がる。　**底面**　皿状である。

**覆土**　ロームブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。




第73図　第16号土坑実測図

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム大ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量

**遺物**　覆土中から，土師器片16点及び須恵器片11点が出土している。

**所見**　時期や性格等は不明である。

## 第24号土坑（第75図）

**位置**　調査区北部，D1d₀区。

**重複関係**　本跡の南側は第１号地下式壙に，北側は第26号土坑と28号土坑に掘り込まれており，本跡の方が古い。

**規模と平面形**　長軸（2.54）ｍ，短軸1.68ｍの不定形で，深さは0.20ｍである。

**長軸方向**　N－8°－E

**壁面**　緩やかに外傾しながら立ち上がる。　**底面**　平坦である。

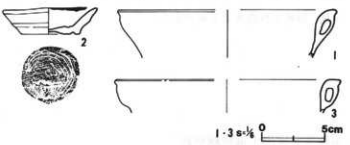
**覆土**　多量のロームブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化粒子少量
2　褐　色　ローム中ブロック中量，炭化物・ローム大ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化物・ローム大ブロック微量
4　黒褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック微量
5　明褐色　ローム粒子多量，炭化物微量
6　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子多量，炭化物少量
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化物・ローム大ブロック微量
8　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，ローム中ブロック微量
9　褐　色　ローム粒子中量
10　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子多量
11　褐　色　ローム粒子多量
12　褐　色　ローム粒子多量，ロ－ム中ブロック中量，炭化物微量
13　暗褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック微量
14　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師質土器片13点が出土している。１の内耳鍋は床面から出土している。

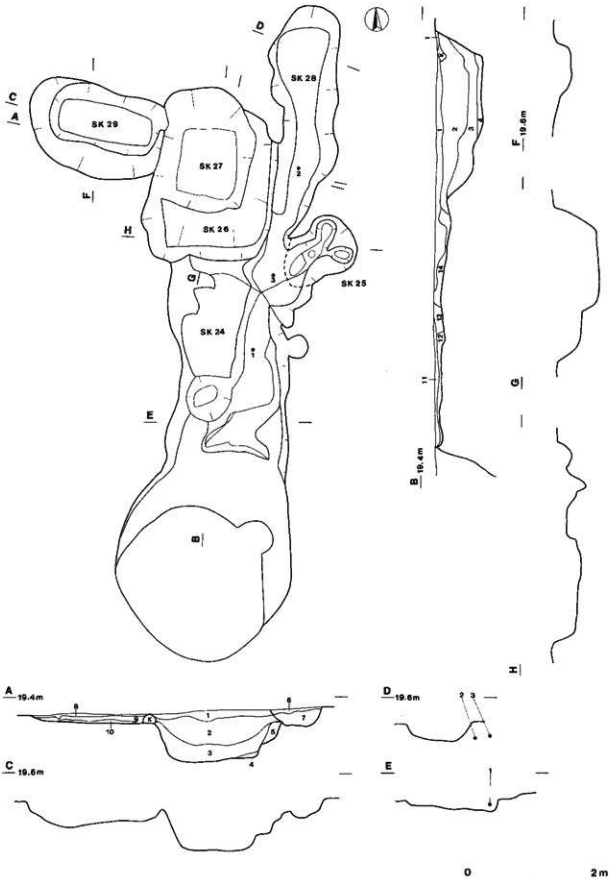
**所見**　本跡は，出土した遺物から，中世の土坑と考えられる。性格は不明である。




第74図　第24・28号土坑出土遺物実測図

第24号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第74図 1 | 内耳鍋 土師質土器 | A[34.5] B(7.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部，口縁部はわずかに内彎する。口縁端部は内側に突出している。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 鈍い赤褐色 普通 | P149　5％ 覆土中層 体部外面煤付着 |




第75図　第24～29号土坑実測図

### 第25号土坑（第75図）

**位置**　調査区北部，D1co区。

**重複関係**　本跡は，第28号土坑を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

**規模と平面形**　長軸（1.14）m，短軸0.94mの不定形で，深さは0.35mである。

**長軸方向**　N－51°－E

**壁面**　緩やかに外傾しながら立ち上がる。　**底面**　凸凹がある。

**遺物**　出土していない。

**所見**　時期や性格等は不明である。

### 第26号土坑（第75図）

**位置**　調査区北部，D1co区。

**重複関係**　本跡は，第24号土坑と第28号土坑を掘り込んで，第27号土坑に掘り込まれている。

**規模と平面形**　長軸（2.27）m，短軸1.90mの不定形で，深さは0.40mである。

**長軸方向**　N－13°－E

**壁面**　緩やかに外傾しながら立ち上がる。　**底面**　平坦である。

**遺物**　出土していない。

**所見**　時期や性格等は不明である。

### 第27号土坑（第75図）

**位置**　調査区北部，D1co区。

**重複関係**　本跡は，第26号土坑と第29号土坑を掘り込んでいるので，本跡の方が新しい。

**規模と平面形**　長軸1.98m，短軸1.44mの不整長方形で，深さは0.71mである。

**長軸方向**　N－14°－E

**壁面**　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**遺物**　覆土中から，土師器片8点，須恵器片2点及び縄文土器片1点が出土している。

**所見**　時期や性格等は不明である。

### 第28号土坑（第75図）

**位置**　調査区北部，D1co 区。

**重複関係**　本跡は，第24号土坑，第25号土坑及び第26号土坑に掘り込まれており，本跡の方が古い。

**規模と平面形**　長軸4.50m，短軸1.60mの不定形で，深さは0.40mである。

**長軸方向**　N－15°－E

**壁面**　緩やかに外傾しながら立ち上がる。　**底面**　平坦である。

**遺物**　覆土中から，土師質土器片7点，土師器片8点及び陶器片1点が出土している。2の土師質皿及び3の内耳鍋は床面から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から中世の土坑と考えられる。性格は不明である。

第28号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第74図 2 | 皿<br>土師質土器 | A 7.5<br>B 2.1<br>C 4.6 | 口縁部一部欠損。平底。底部は突出気味。体部，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り。 | 長石・石英・スコリア<br>橙色　普通 | P150　95%<br>床面　灯明皿<br>口縁部油煙付着 |
| 3 | 内耳鍋<br>土師質土器 | A[35.9]<br>B 5.3 | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，口縁部は肥厚して端部は内側水平方向に突出している。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色　普通 | P151　5%<br>床面<br>体部外面煤付着 |

## 第29号土坑（第75図）

**位置**　調査区北部，D1c$_9$区。

**重複関係**　本跡は，第27号土坑に掘り込まれており，本跡の方が古い。

**規模と平面形**　長軸2.18m，短軸1.38mの不定形で，深さは0.30mである。

**長軸方向**　N－70°－W

**壁面**　緩やかに外傾しながら立ち上がる。　**底面**　平坦である。

**遺物**　覆土中から，土師器片12点が出土している。

**所見**　時期や性格等は不明である。

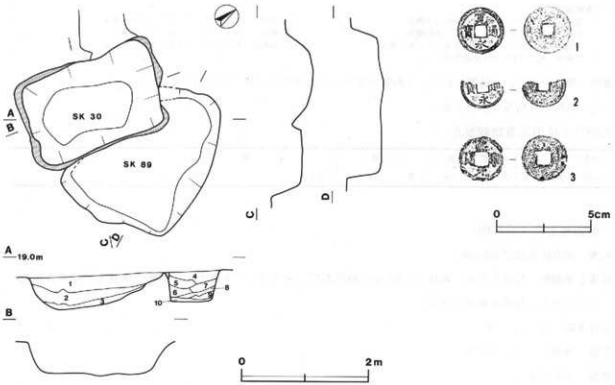
## 第30号土坑（第76図）

**位置**　調査区北部，D1b$_7$区。

**重複関係**　本跡は，第89号土坑を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

**規模と平面形**　長軸2.16m，短軸1.37mの長方形で，深さは0.56mである。

**長軸方向**　N－18°－E




第76図　第30・89号土坑実測・出土遺物拓影図

**壁面**　外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**覆土**　ロームブロックや粘土ブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
3　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量

**遺物**　覆土中から，寛永通寶２点が出土している。

**所見**　本跡は，長方形の箱の形に粘土が貼られている（粘土貼り土坑）ことや，古銭（寛永通寶）が出土していることから，近世の墓壙の可能性がある。

第30号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 名　称 | 時　代 | 初鋳造年 | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第76図1 | 寛永通寶 | 江　戸 | 1636 | 覆　土 | M14 |
| 2 | 寛永通寶 | 江　戸 | 1636 | 覆　土 | M15 |

## 第89号土坑（第76図）

**位置**　調査区北部，D1b7区。

**重複関係**　本跡は，第30号土坑に掘り込まれており，本跡の方が古い。

**規模と平面形**　長軸2.32ｍ，短軸1.98ｍの長方形で深さは0.47ｍである。

**長軸方向**　Ｎ－30°－Ｗ

**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　平坦である。

**覆土**　粘土ブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
4　黒褐色　粘土ブロック中量，炭化粒子微量
5　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子・砂粒微量
6　黒褐色　粘土ブロック・山砂少量，炭化粒子微量
7　黒褐色　粘土ブロック・山砂少量
8　黒褐色　粘土ブロック少量，炭化粒子微量
9　褐色　粘土ブロック中量，山砂少量
10　暗褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片13点，土師質土器片８点及び照寧元寶１点が出土している。

**所見**　時期や性格等は不明である。

第89号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 名　称 | 時　代 | 初鋳造年 | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第76図3 | 照寧元寶 | 北　宋 | 1068 | 覆　土 | M11 |

## 第58号土坑（第77図）

**位置**　調査区北部，B3a8区。

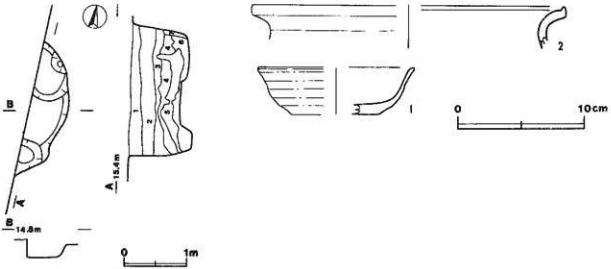
**規模と平面形**　長径2.20ｍ，短径（0.60）ｍの楕円形で，深さは0.45ｍである。遺構の東側半分は調査区外へ延びており，規模は確認できない。

**長径方向**　Ｎ－61°－Ｗ

**壁面**　外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**覆土**　自然堆積と思われる。




第77図　第58号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
3　黒 褐 色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　粘土ブロック中量，山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒 褐 色　粘土ブロック・山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　粘土ブロック中量，山砂少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　浅黄橙色　粘土粒子多量

遺物　覆土中から，土師器片236点，須恵器片58点及び瓦質の擂鉢片３点が出土している。

所見　本跡は，出土した遺物から，平安時代の土坑と考えられる。性格は不明である。

第58号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 器形の特徴 | | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第77図 1 | 坏 土師器 | A〔12.2〕<br>B 4.9<br>C 6.8 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P156<br>覆土<br>20% |
| 2 | 甕 土師器 | A〔24.7〕<br>B〔3.5〕 | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頂部は緩やかに外反する。口縁端部は真上につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・スコリア<br>明赤褐色<br>普通 | P157<br>覆土<br>5% |

## 第86号土坑（第78図）

位置　調査区北部，A3j$_8$区。

重複関係　本跡は，第55号土坑を掘り込んで，第６号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸2.93ｍ，短軸（1.22）ｍの不定形で，深さは0.43ｍである。

長軸方向　Ｎ－37°－Ｗ

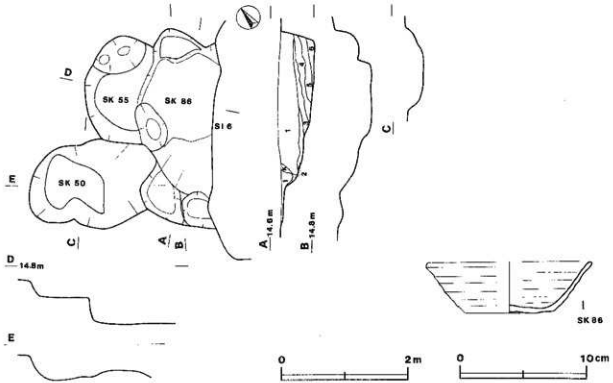
壁面　外傾して立ち上がる。　底面　凸凹がある。

覆土　粘土ブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗 褐 色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　粘土ブロック少量，炭化粒子微量
3　鈍い褐色　粘土ブロック多量，炭化粒子微量
4　暗褐色　粘土ブロック中量，炭化粒子微量
5　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　粘土ブロック中量，炭化粒子微量

遺物　覆土中から，土師器片99点及び須恵器片54点が出土している。

所見　本跡は，出土した遺物から，平安時代の土坑と考えられる。粘土採取の痕跡から，粘土採掘坑の可能性がある。




第78図　第50・55・86号土坑・出土遺物実測図

第86号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第78図 1 | 坏<br>須恵器 | A[13.0]<br>B 4.1<br>C[7.0] | 底部から口縁部にかけての破片。体部，口縁部は直線的に外側して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>灰色<br>普通 | P159　45%<br>覆土 |

第87号土坑（第79図）

**位置**　調査区北部，B3b9区。

**重複関係**　本跡は，第53号土坑，第88号土坑，第6号住居跡及び第8号住居跡を掘り込んでいるので，本跡の方が新しい。

**規模と平面形**　長軸4.61m，短軸〔3.82〕mの不定形，深さは0.27mである。

**長軸方向**　N－54°－W

**壁面**　緩やかに立ち上がる。

**底面**　凸凹がある。

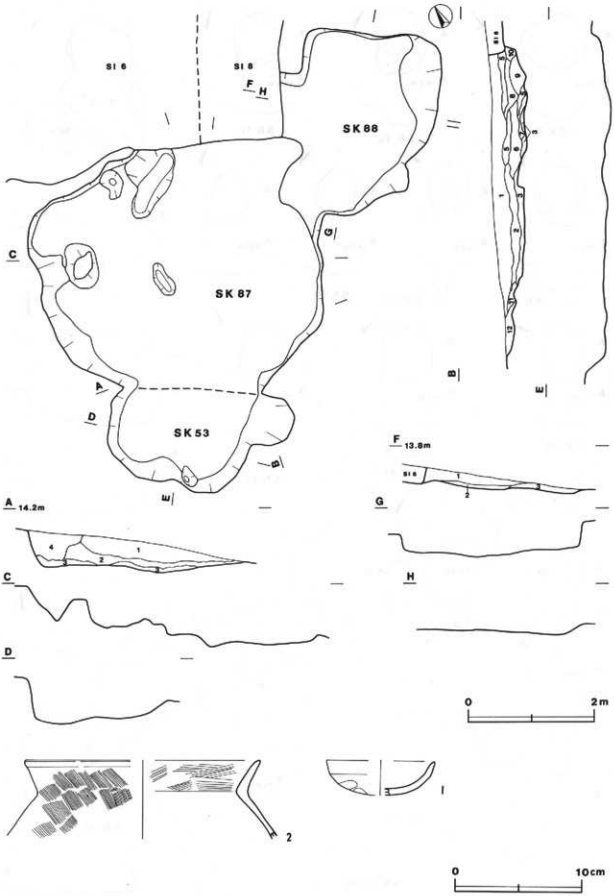
**覆土**　粘土ブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

土層解説

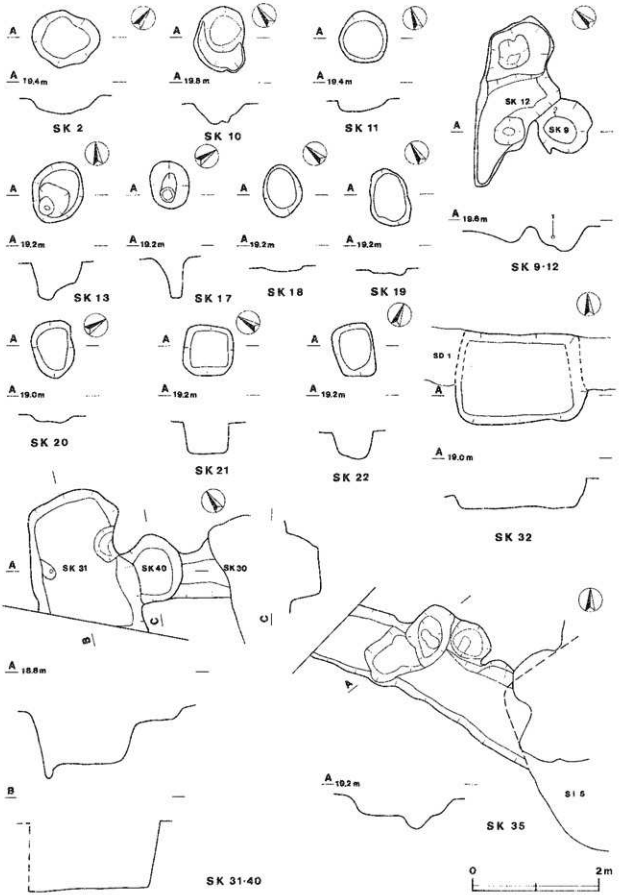
1　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子・砂粒微量
2　黒褐色　粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
3　暗褐色　山砂中量，粘土ブロック少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　粘土ブロック中量，炭化粒子微量
5　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子・砂粒微量
6　黒褐色　粘土ブロック・山砂少量，炭化粒子微量
7　黒褐色　粘土ブロック・山砂少量
8　黒褐色　粘土ブロック少量，炭化粒子微量
9　褐　色　粘土ブロック中量，山砂少量
10　暗褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子微量
11　褐　色　ローム粒子中量
12　褐　色　ローム粒子多量

**遺物**　覆土中から，土師器片187点，須恵器片7点及び土玉1点が出土している。

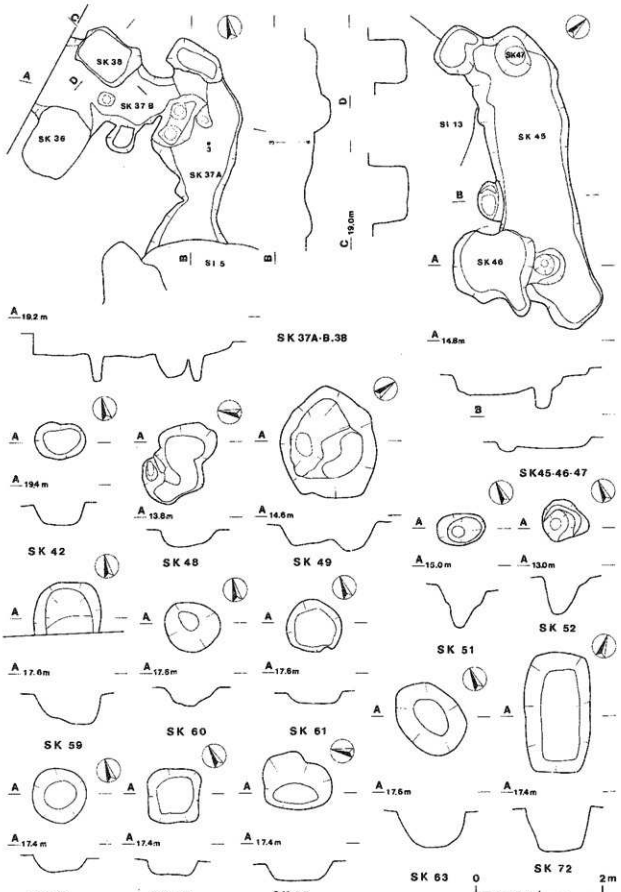
**所見**　本跡は，出土した遺物から，平安時代の土坑と考えられる。粘土採取の痕跡から，粘土採掘坑の可能性がある。



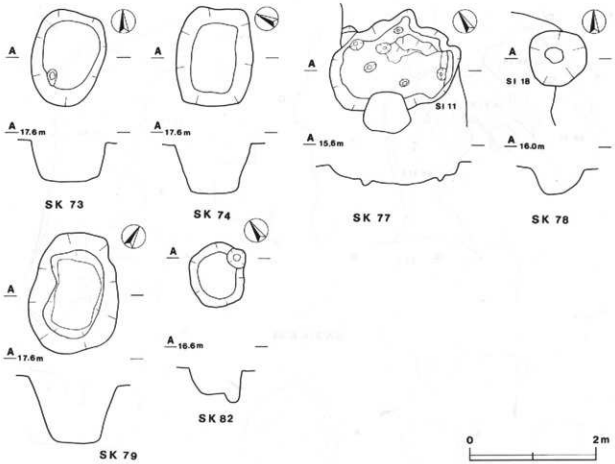

第79図　第53・87・88号土坑・出土遺物実測図



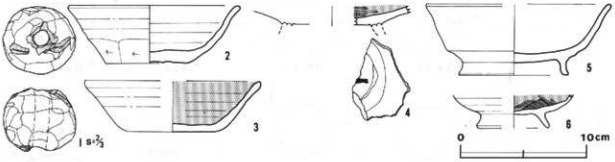

第80図　第2・9～13・17～22・31・32・35・40号土坑実測図




第81図　第37A・B・38・42・45～49・51・52・59～61・63～66・72号土坑実測図




第82図　第73・74・77～79・82号土坑実測図




第83図　第９・35・37Ａ・38・48・73号土坑出土遺物実測図

第87号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第79図1 | 坏<br>土師器 | A[8.6]<br>B 2.8 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面横方向の強いナデ。底部外面ヘラ削り。 | 長石・雲母・スコリア<br>橙色　普通 | P160<br>覆土　20% |
| 2 | 甕<br>土師器 | A[18.6]<br>B(6.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内面及び口縁部から体部上位外面には刷毛目が施されている。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P161<br>覆土　5% |

第９号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値 径(cm) | 計測値 高さ(cm) | 計測値 孔径(cm) | 計測値 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第83図1 | 土玉 | (2.9) | (2.6) | 0.6 | (15.3) | 覆土 | DP15 |

## 第35号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第83図 2 | 坏<br>須恵器 | A 13.5<br>B 4.6<br>C 6.5 | 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部外面ヘラ削り。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>灰白色<br>普通 | P152 95%<br>覆土 |

## 第37A号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第83図 3 | 坏<br>土師器 | A(13.8)<br>B 4.0<br>C(6.8) | 底部から口縁部にかけての破片。体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>赤<br>純い黄褐色　普通 | P153 40%<br>覆土<br>内面黑色処理 |

## 第38号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第83図 4 | 高台付坏<br>土師器 | B(1.7) | 底部片。平底。付高台。高台部欠損。 | 底部内面ヘラ磨き。 | 長石・雲母<br>純い黄橙色<br>普通 | P154 10%<br>覆土<br>内面黑色処理<br>墨書「太部」か |

## 第48号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第83図 5 | 高台付坏<br>須恵器 | A(14.5)<br>B 5.6<br>D 8.6<br>E 1.0 | 高台部から口縁部にかけての破片。平底。付高台。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>灰黃色<br>普通 | P155 60%<br>覆土 |

## 第73号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第83図 6 | 高台付坏<br>土師器 | B(2.7)<br>D(5.5)<br>E 1.1 | 高台部から底部にかけての破片。平底。付高台。高台は直線的に外に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。 | 底部内面ヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>純い橙色<br>普通 | P158 40%<br>覆土<br>内面黑色処理 |

## 表7　念代遺跡土坑一覧表

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規模 長径×短径(m) | 規模 深さ(cm) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | D1d₅ | N-18°-E | 長方形 | (2.14)×0.72 | 54 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器(坏・甕),鉄製品(刀子) | |
| 2 | D1b₅ | N-50°-E | 不整円形 | 1.07×0.90 | 26 | 緩傾 | 凹状 | 自然 | | |
| 3 | D1a₅ | N-23°-E | 不整長方形 | 1.82×0.56 | 47 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕) | |
| 4 | C1j₅ | N-65°-W | 隅丸長方形 | 2.40×1.50 | 84 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器(坏,高台付坏,甕鉢),須恵器(坏,高台付坏,甕),古銭(開元通宝) | SK30と重複(新旧不明) |
| 7 | C2i₄ | N-10°-W | 長方形 | 1.68×1.20 | 78 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕) | |
| 8 | C1g₅ | N-42°-W | 不整円形 | 3.53×3.25 | 220 | 外傾 | 球状 | 人為 | 土師器(坏・高台付坏・甕・鉢),須恵器(坏・高台付坏・甕) | |
| 9 | C2g₅ | N-41°-W | 不整円形 | 0.85×0.84 | 38 | 外傾 | 凸凹 | 自然 | 土師器(甕),土製品(土玉) | SK12と重複(新旧不明) |
| 10 | C2g₅ | N-44°-E | 不整楕円形 | 1.05×0.81 | 27 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏),須恵器(甕) | |
| 11 | C2e₅ | N-20°-E | 円形 | 0.81×0.78 | 19 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕),須恵器(坏・甕) | |
| 12 | C2g₅ | N-64°-E | 不定形 | 2.80×1.40 | 24 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕) | SK9と重複(新旧不明) |
| 13 | C2c₂ | N-40°-E | 楕円形 | 0.98×0.83 | 57 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕) | |
| 14 | C2c₄ | N-51°-W | 楕円形 | 0.91×0.66 | 36 | 外傾 | 皿状 | 自然 | | |
| 15 | C2d₄ | N-37°-E | 楕円形 | 1.36×0.96 | 16 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏) | |
| 16 | C2c₄ | N-46°-E | 不整長方形 | 1.13×0.84 | 15 | 垂直 | 平坦 | 人為 | 土師器(坏),須恵器(坏・甕・甑) | |
| 17 | C2d₄ | N-64°-W | 楕円形 | 0.76×0.62 | 64 | 垂直 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏),須恵器(甕) | |

| 番号 | 位置 | 長軸方向 | 平面形 | 規模 長径×短径(m) | 深さ(cm) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | C2c4 | N−42°−E | 楕円形 | 0.83 × 0.62 | 80 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏) | |
| 19 | C2c4 | N−20°−E | 不整楕円形 | 0.92 × 0.60 | 10 | 緩傾 | 凸凹 | 自然 | 土師器(甕),須恵器(甕) | |
| 20 | C2c5 | N−62°−E | 不整楕円形 | 0.92 × 0.67 | 11 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 21 | C2c5 | N−32°−W | 隅丸方形 | 0.80 × 0.78 | 50 | 垂直 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・高台付坏・甕) | |
| 22 | C2b5 | N−36°−E | 不整長方形 | 0.86 × 0.64 | 44 | 垂直 | 皿状 | 自然 | 土師器(甕) | |
| 23 | B2j5 | N−51°−W | 不定形 | 1.10 × 0.96 | 17 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | | |
| 24 | B1d6 | N−8°−E | 不定形 | (2.54)× 1.68 | 20 | 緩傾 | 平坦 | 人為 | 土師質土器(内耳鍋) | 本跡→第1号地下式壙,本跡→SK28→SK26 |
| 25 | B1c6 | N−51°−E | 不定形 | (1.14)× 0.94 | 35 | 緩傾 | 凸凹 | 自然 | | SK28→本跡 |
| 26 | B1c6 | N−13°−E | 不定形 | (2.27)× 1.90 | 40 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | | SK24→SK29→本跡→SK27 |
| 27 | B1c6 | N−14°−E | 不整長方形 | 1.98 × 1.44 | 71 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(蓋) | SK29→SK26→本跡 |
| 28 | B1c6 | N−15°−E | 不定形 | 4.50 × 1.06 | 40 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・甕・鉢),土師質土器(内耳鍋・皿),陶器(壺) | SK24→本跡→SK26,本跡→SK25 |
| 29 | B1c5 | N−70°−W | 不定形 | 2.18 × 1.38 | 30 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・甕) | 本跡→SK27 |
| 30 | B1b7 | N−18°−E | 長方形 | 2.16 × 1.37 | 56 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 古銭(寛永通寶) | SK39→本跡 |
| 31 | B1b6 | N−54°−E | 不整長方形 | (2.08)× 1.35 | 108 | 垂直 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・甕) | SK40と重複(新旧不明) |
| 32 | B1a7 | N−5°−E | 長方形 | 2.08 × 1.40 | 25 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 須恵器(坏),陶器片 | SD1→本跡 |
| 33 | C1j7 | N−82°−W | 楕円形 | 1.61 × 0.97 | 51 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 34 | B1a6 | N−39°−W | 不整円形 | 1.30 × 1.20 | 15 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 35 | C2c7 | N−52°−E | 不定形 | (3.70)× 1.10 | 50 | 緩傾 | 凸凹 | 自然 | 土師器(甕),須恵器(坏) | SI5→本跡 |
| 36 | C2b3 | N−45°−E | 長方形 | 1.15 × 0.85 | 65 | 垂直 | 平坦 | 自然 | | SK37B→本跡 |
| 37-A | C2b3 | N−12°−E | 不定形 | (3.20)× 1.34 | 40 | 緩傾 | 凸凹 | 自然 | 土師器(甕),須恵器(坏・甕) | SK37B→本跡 |
| 37-B | C2b3 | N−66°−W | 不定形 | (1.94)× 0.94 | 65 | 緩傾 | 凸凹 | 自然 | | 本跡→SK36,SK37A→SK37 |
| 38 | C2b3 | N−32°−W | 不整長方形 | 0.95 × 0.66 | 55 | 垂直 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕・鍋) | SK37B→本跡 |
| 39 | C1j5 | N−53°−W | 不定形 | 1.20 ×(0.90) | 28 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | | SK41と重複(新旧不明) |
| 40 | B1b7 | N−29°−E | 不整円形 | 1.07 ×(0.74) | 50 | 垂直 | 平坦 | 自然 | | SK38と重複(新旧不明) |
| 41 | C2d3 | N−63°−W | 楕円形 | 1.05 × 0.71 | 20 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 42 | C2d4 | N−76°−W | 楕円形 | 0.81 × 0.56 | 35 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(甕),須恵器(坏) | |
| 43 | C2b4 | N−7°−W | 不整楕円形 | 1.05 × 0.56 | 66 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 44 | C2b4 | N−45°−E | 不整楕円形 | 0.78 × 0.58 | 50 | 垂直 | 皿状 | 自然 | | |
| 45 | B3a7 | N−62°−W | 不整長方形 | 4.92 × 1.25 | 10 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・蓋) | SI13→本跡,本跡→SK46,本跡→SK47 |
| 46 | B3b7 | N−82°−W | 不定形 | 1.58 × 1.40 | 48 | 垂直 | 皿状 | 自然 | 土師器(甕) | SK45→本跡 |
| 47 | B3a7 | N−58°−W | 楕円形 | 0.65 × 0.51 | 82 | 垂直 | 皿状 | 自然 | | SK45→本跡 |
| 48 | B3a7 | N−58°−W | 不定形 | 1.37 × 0.95 | 28 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・高台付坏) | |
| 49 | B3a6 | N−57°−W | 不整楕円形 | 1.75 × 1.50 | 47 | 緩傾 | 凸凹 | 自然 | 土師器(甕),須恵器(坏・蓋) | |
| 50 | A3j6 | N−59°−W | 不定形 | 1.76 × 1.26 | 27 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕) | SK55→本跡→SK56 |
| 51 | B3a6 | N−68°−W | 楕円形 | 0.75 × 0.53 | 63 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(甕),須恵器(坏) | |
| 52 | B3a6 | N−60°−W | 不整円形 | 0.75 × 0.68 | 60 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕・壺) | |
| 53 | B3b6 | N−48°−W | 不定形 | 2.27 ×[1.62] | 65 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | | 本跡→SK57 |
| 54 | B3a6 | N−24°−W | 不定形 | 1.00 × 0.63 | 262 | 外傾 | 皿状 | 自然 | | |
| 55 | A3j6 | N−39°−W | 不定形 | 1.67 ×(0.89) | 27 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | 須恵器(坏) | 本跡→SK50→SK56 |
| 57 | B3a5 | N−15°−W | 楕円形 | 1.30 × 1.00 | 42 | 外傾 | 皿状 | 自然 | | |
| 58 | B3a5 | N−61°−W | 楕円形 | 2.20 × 0.60 | 45 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕),須恵器(坏・長頸瓶),土師質土器(鍋) | |
| 59 | B2h7 | N−25°−W | 楕円形 | 1.06 × 0.81 | 48 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(甕),須恵器(坏・甕) | |
| 60 | B2ga | N−57°−W | 長楕円形 | 1.88 × 0.76 | 30 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(甕),須恵器(甕) | |

| 番号 | 位置 | 長径方向 | 平面形 | 規模 長径×短径(m) | 規模 深さ(m) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 61 | B2b7 | N－24°－W | 円形 | 0.87 × 0.84 | 16 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・甕) | |
| 62 | B2g9 | N－21°－W | 不整楕円形 | 0.83 × 0.70 | 28 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 63 | B2g4 | N－25°－W | 楕円形 | 1.56 × 0.92 | 56 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・甕) | |
| 64 | B2g4 | － | 円形 | 0.85 × 0.85 | 27 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏) | |
| 65 | B2g9 | N－59°－W | 方形 | 0.85 × 0.80 | 22 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | 須恵器(坏) | |
| 66 | B2g6 | N－10°－W | 不整楕円形 | 1.07 × 0.90 | 34 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(甕) | |
| 72 | B2h0 | N－30°－W | 長方形 | 1.90 × 1.03 | 68 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・蓋) | |
| 73 | B2h4 | N－17°－W | 隅丸長方形 | 1.52 × 1.14 | 65 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(高台付坏・甕),須恵器(甕) | |
| 74 | B2h9 | N－70°－W | 長方形 | 1.53 × 1.21 | 78 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕・蓋),土師質土器(内耳鍋) | |
| 75 | B2i9 | N－55°－W | 楕円形 | 1.30 × 0.97 | 70 | 垂直 | 皿状 | 自然 | | |
| 76 | B2i4 | N－27°－W | 隅丸長方形 | 1.36 × 1.00 | 78 | 垂直 | 平坦 | 自然 | | |
| 77 | B3b1 | N－56°－W | 不定形 | 2.00 × 1.20 | 34 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(甕),須恵器(甕) | SI11と重複(新旧不明) |
| 78 | B3e3 | N－25°－W | 円形 | 0.90 × 0.89 | 42 | 緩傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・甕) | SI18→本跡 |
| 79 | B2i0 | N－31°－W | 不整楕円形 | 1.88 × 1.40 | 101 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(甕) | |
| 81 | B3c1 | N－75°－W | 不整楕円形 | 1.64 × 0.88 | 12 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 82 | B2e6 | N－28°－W | 不整楕円形 | 1.01 × 0.84 | 42 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(甕) | |
| 83 | B3e1 | N－60°－W | 楕円形 | 0.90 × 0.68 | 170 | 垂直 | 平坦 | 自然 | | |
| 84 | B2d1 | N－25°－W | 隅丸方形 | 0.62 × 0.62 | 90 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | | |
| 85 | B3d1 | N－34°－W | 不整楕円形 | 0.88 × 0.72 | 90 | 垂直 | 平坦 | 自然 | | |
| 86 | A3j4 | N－37°－W | 不定形 | 2.93 × 1.22 | 43 | 外傾 | 凸凹 | 人為 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕・蓋・壺) | SK55→SK50→本跡→SI6 |
| 87 | B3b5 | N－54°－W | 不定形 | 4.61 ×(3.82) | 27 | 緩傾 | 凸凹 | 人為 | 土師器(器台・坏・甕),須恵器(坏・甕),土製品(土玉) | SK89→SI8→SI6→本跡, SK55→本跡 |
| 88 | B3b4 | N－42°－W | 不定形 | 2.91 ×(2.56) | 30 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕),須恵器(坏) | 本跡→SI8→SK87 |
| 89 | D1b7 | N－30°－W | 長方形 | 2.32 × 1.98 | 47 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器(坏・甕),土師質土器(内耳鍋),古銭(熙寧元寶) | 本跡→SK30 |

## 4 溝

### 第1号溝（第23・84図）

第84図 第1号溝断面図

**位置** 調査区の南部，D1区。

**重複関係** 本跡は，第32号土坑に掘り込まれており，本跡の方が古い。

**規模と形状** 上幅0.75～0.95m，下幅0.50～0.85m，深さ0.10～0.40mで，断面はU字形で，壁は65度～80度の傾斜で外傾して立ち上がる。 D1a6区からD1a8区にかけて，ほぼ直線的に約6m延びる。

**方向** ほぼ東西を向く。

**覆土** 自然堆積と思われる。

土層解説
1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

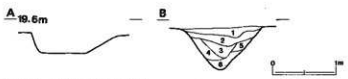
**遺物** 覆土中から，土師器片23点，須恵器片8点及び瓦質の擂鉢片3点が出土している。

**所見** 本跡は，出土した遺物から，平安時代の溝と考えられる。性格は不明である。

## 第２号溝（第23・85図）

**位置**　調査区の南部，Ｃ２区。

**規模と形状**　上幅1.15～2.20ｍ，下幅0.20～0.30ｍ，深さ0.20～1.35ｍで，断面はＵ字形である。壁は約50度の傾斜で立ち上がり，C2gz区～C2is区にかけて，ほぼ直線的に約16ｍ延びる。



第85図　第２号溝断面図

**方向**　北西から南東へ延びている。

**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

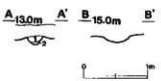
**遺物**　覆土中から，土師器片156点，須恵器片17点，土師質土器の内耳鍋片１点及び陶器片４点が出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，平安時代の溝と考えられる。性格は不明である。

## 第３号溝（第23・86図）

**位置**　調査区の北部，Ａ３区。

**規模と形状**　上幅0.20～0.50ｍ，下幅0.10～0.30ｍ，深さ約0.10ｍで，断面はＵ字形である。壁はわずかに内彎しながら立ち上がり，A3is区からA3js区にかけて直線的に約５ｍ延びる。両端とも調査区外へ続いている。



第86図　第３号溝断面図

**方向**　ほぼ南北を向く。

**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子少量

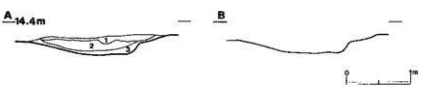
**遺物**　出土していない。

**所見**　時期や性格等は不明である。

## 第４号溝（第23・87図）

**位置**　調査区の北端，Ａ３区及びＡ４区。

**規模と形状**　上幅0.65～1.50ｍ，下幅0.10～0.20ｍ，深さ約0.40ｍで，断面はＵ字形で，壁はわずかに内彎しながら立ち上がる。A3gz区（境界）から直線的にA4hz区まで約20ｍ延び，A4hz区で幅が狭くなるとともに向きを北寄りに変えて，直線的に約10ｍ進んで，A4g4区で谷への傾斜面で消えている。



第87図　第４号溝断面図

**方向**　ほぼ東西を向く。

**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　炭化粒子・ローム粒子微量
2　褐　色　砂粒多量，粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量

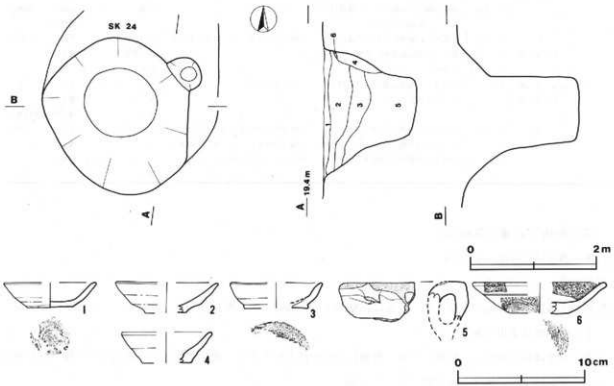
**遺物**　覆土中から，土師器片118点及び須恵器片66点が出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から平安時代の遺構と考えられる。本跡を挟んで南側には集落が形成され，北側には住居跡が1軒も確認されていないことから，住居区域を区画する溝と思われる。

## 5　地下式壙

当遺跡で確認した地下式壙4基のうち，3基は台地の南側縁辺部に，1基は台地中央部に位置している。3基は遺存状態が良いが，1基は壁の崩落が激しい。いずれの地下式壙も遺物のほとんどが細片で量も少ない。

### 第1号地下式壙（第88図）




第88図　第1号地下式壙・出土遺物実測図

**位置**　調査区の南部，D1ao区。

**重複関係**　第24号土坑を掘り込んでいるので，本跡の方が新しい。

**主軸方向**　N－39°－W

**竪坑**　上端は長径60cm，短径40cmの楕円形。底面は径35cmの円形で，深さは1.55mである。

**主室**　上部壁面の崩落が激しい。底面は平坦で，長軸1.15m，短軸1.10mの円形である。

**壁面**　底面から垂直に立ち上がる。上部は崩落のために外傾する。

**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化粒子少量
2 褐　色　ローム中ブロック中量，炭化物・ローム大ブロック微量
3 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化物・ローム大ブロック微量
4 黒褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック微量
5 明褐色　ローム粒子多量，炭化物微量
6 褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子多量，炭化物少量

遺物　覆土中から，土師器片30点，須恵器片12点，土師質土器片32点，陶器片1点及び縄文土器片1点が出土している。

所見　本跡は，土師質土器片が出土していることから，中世の遺構と考えられる。性格は不明である。

第1号地下式壙出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第88図 1 | 皿 土師質土器 | A〔7.2〕 B 2.0 C〔3.5〕 | 底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り。 | 長石 橙色 普通 | P162 覆土 60% |
| 2 | 皿 土師質土器 | A〔8.1〕 B 2.5 C〔3.2〕 | 底部から口縁部にかけての破片。体部，口縁部は直線的に外傾して立ちあがる。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り。 | 雲母・砂粒 橙色 普通 | P163 覆土 20% |
| 3 | 皿 土師質土器 | A〔7.2〕 B 2.1 C〔4.9〕 | 底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。口縁部径に比して，底部径が大きい。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り。 | 長石・雲母 鈍い黄橙色 普通 | P164 覆土 口縁部内・外面油煙付着 40% |
| 4 | 椀 土師質土器 | A〔7.0〕 B 2.5 C〔3.9〕 | 底部から口縁部にかけての破片。体部，口縁部は直線的に外傾して立ちあがる。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り。 | 雲母・砂粒 鈍い黄橙色 普通 | P165 覆土 20% |
| 5 | 内耳鍋 土師質土器 | B〔3.1〕 | 口縁部片。端部は肥厚して内傾水平方向に突出している。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 鈍い褐色 普通 | P167 覆土 体部外面煤付着 5% |
| 6 | 甕 瀬戸焼 | A〔10.4〕 B 2.4 C〔4.6〕 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面及び体部内面上位に灰釉が施されている。体部下端槽方向のナデ。底部回転糸切り。 | 砂粒 灰白色 (釉)灰オリーブ色 普通 | ?166 覆土 緑釉皿 30% |

第2号地下式壙（第89図）

位置　調査区の南部，C2c3区。

主軸方向　N－32°－W

竪坑　上端は一辺90cmの不整方形。底面は長軸80cm，短軸60cmの不整長方形で，確認面からの深さは1.35mである。底面は平坦である。

主室　底面は緩く傾斜し，長軸1.50m，短軸1.20mの長方形である。確認面から主室底面までの深さは1.30mで，竪坑は主室に比べ5cm程低くなっている。

壁面　竪坑は垂直に立ち上がる。主室は北面が外傾して立ち上がり，他の3面は垂直に立ち上がる。

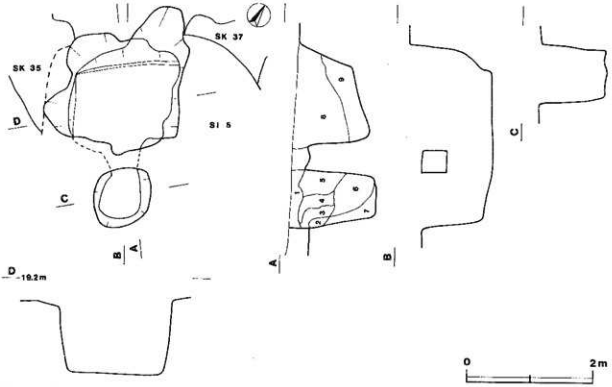
覆土　自然堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
4 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5 黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量
6 黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
8 暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
9 褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
第9層は主室入井部が崩落した層と思われる。

遺物　覆土中から，土師器片9点，須恵器片4点及び陶器片2点が出土している。

所見　中世の遺構で，性格等は不明である。




第89図　第２号地下式壙実測図

### 第３号地下式壙（第90図）

**位置**　調査区の南端部，C1i₈区。　**主軸方向**　N－43°－E

**竪坑**　長径1.70ｍ，短径1.05ｍの半楕円形で，深さは1.85ｍである。底面は平坦で，長軸75㎝，短軸60㎝の長方形である。主室底面より約30㎝高い。

**主室**　底面は平坦で，長軸，短軸ともに約1.95ｍの不整方形で，深さは2.15ｍである。

**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説

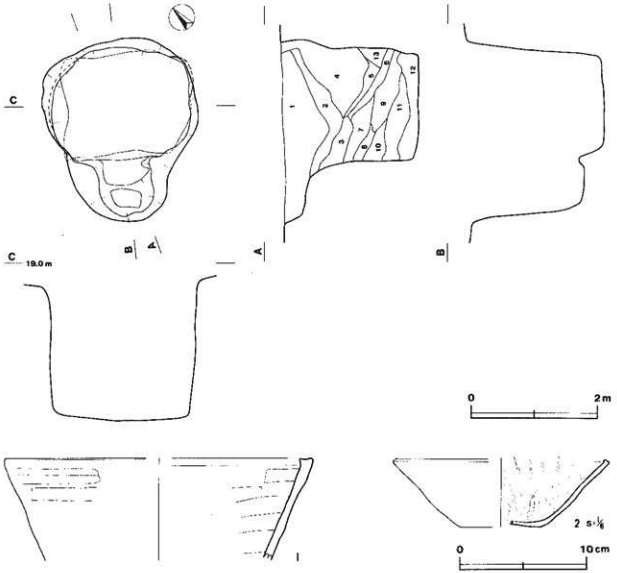
1　暗褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
4　明褐色　ローム粒子多量
5　褐　色　ローム粒子多量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
7　褐　色　ローム大ブロック多量，ローム粒子・砂粒少量
8　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子少量，砂粒微量
9　明褐色　ローム大ブロック多量
10　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
11　明褐色　ローム大ブロック多量
12　灰褐色　粘土小ブロック多量
13　鈍い橙色　粘土小ブロック多量
第11層は主室天井部が崩落した層と思われる。

**遺物**　覆土中から，土師器片16点，須恵器片９点，土師質土器片10点及び陶器片１点が出土している。

**所見**　本跡は，主室底面から土師質土器の擂鉢が出土していることから，中世の遺構と考えられる。性格は不明である。

### 第３号地下式壙出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第90図 1 | 内耳鍋 土師質土器 | A〔24.2〕 B〔 8.1〕 | 体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾し，口縁部は肥厚して，端部は内側水平方向に突出している。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面横方向のヘラナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 鈍い褐色　普通 | P160　10% 覆土 外面煤付着 |
| 2 | 擂鉢 土師質土器 | A〔33.0〕 B 10.9 C〔12.0〕 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外反する。端部は内側につまみ出されている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面上位ナデ。体部から底部内面に櫛目が施されている。 | 長石・石英・雲母 スコリア 鈍い褐色　普通 | P170　40% 覆土 表面著しい摩耗 |




第90図　第３号地下式壙・出土遺物実測図

### 第４号地下式壙（第91図）

**位置**　調査区の南部，D2a₁区。

**主軸方向**　N－63°－W

**竪坑**　長径2.25ｍ，短径1.75ｍの半楕円形で，深さは2.40ｍである。底面は平坦で，長軸1.05ｍ，短軸0.80ｍの長方形である。

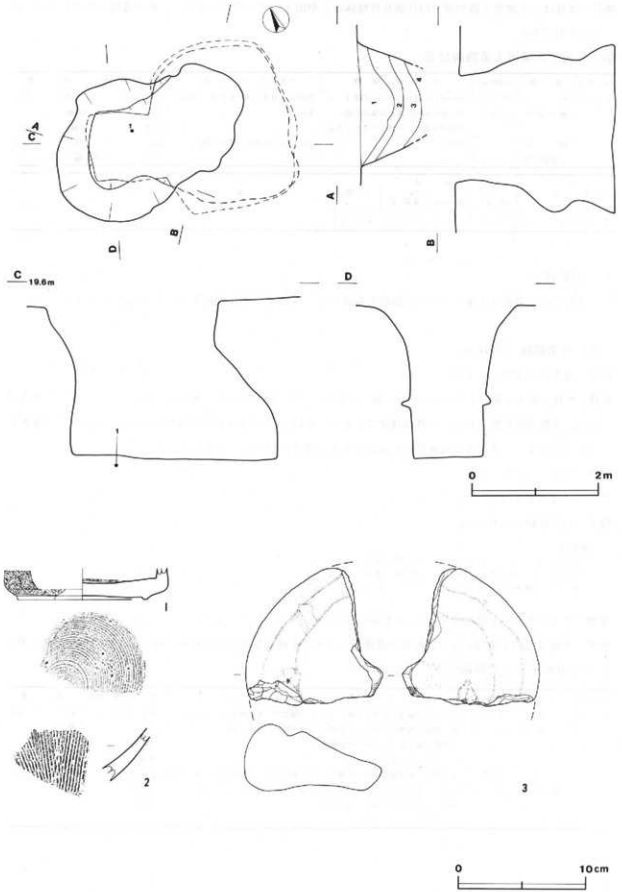
**主室**　上端は長径2.50ｍ，短径1.55ｍの不整楕円形，底面は長軸2.65ｍ，短軸1.95ｍの長方形で，深さは2.40ｍである。

**壁**　竪坑は底面から垂直に立ち上がり，約1.50ｍから上は外傾する。主室は垂直に立ち上がる。

**覆土**　崩落の危険があるため，上位４層のみの観察にとどまった。

土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム大ブロック中量，焼土粒子・ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　炭化粒子・ローム粒子微量

**遺物**　覆土中から，土師器片84点，須恵器片21点，土師質土器片23点，石皿１点及び陶器片１点が出土している。




第91図　第４号地下式壙・出土遺物実測・拓影図

所見　本跡は，土師質土器の皿や内耳鍋及び擂鉢などが出土していることから，中世の遺構と考えられる。性格は不明である。

第4号地下式横穴出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第91図 1 | 甕　子<br>瀬戸・美濃 | B 2.5<br>C 10.2 | 高台部から底部にかけての破片。平底。削り高台。高台は極めて低い。外部は直線的に内傾して立ち上がる。 | 底部内・外面に薄く釉付着。底部回転糸切り。 | 長石・砂粒<br>灰黄色<br>良好 | P171　10%<br>床面<br>(釉)オリーブ灰色 |
| 2 | 擂　鉢<br>上総質土器 | | 体部片。 | 体部には10本原反の櫛目が施されている。 | 長石<br>褐色　普通 | TP1　5%<br>覆土 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | 石質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 径(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 第91図3 | 石　臼 | (24.2) | (5.3) | (730.2) | 安山石 | Q2 |

## 6　道路跡

当遺跡では，調査区南端で1条の道路跡を確認した。西側は，崖土の崩落のために確認できない。

### 第1号道路跡（第92図）

**位置**　調査区の南端，C1区。

**規模と形状**　最大上幅（1.60）m，最大下幅（1.45）m，深さ約0.40mで，断面は皿状である。谷へ落ちる急斜面に西側が削り取られて，全体は確認できない。C1g7区から南南西に直線的に5mほど延びて，向きを南北方向に変え，そのまま直線的に15mほど進んで調査区外（崖）に消えている。

**壁面**　外傾して立ち上がる。

**方向**　ほぼ南北を向く。

**覆土**　自然堆積と思われる。

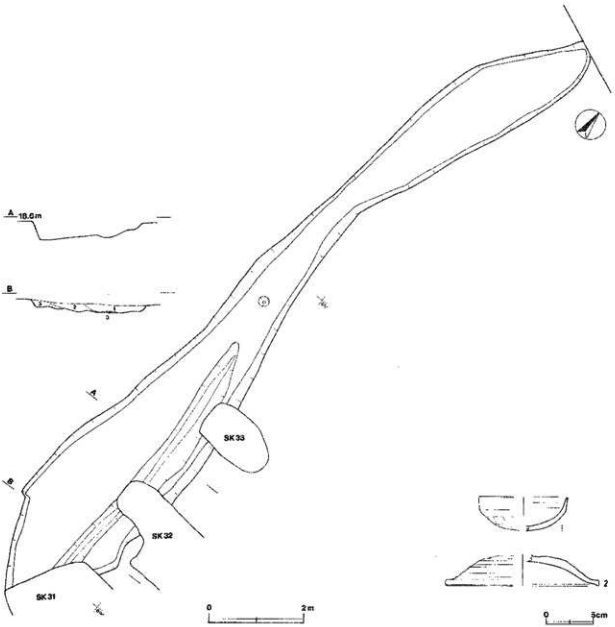
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　小礫多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量

**遺物**　覆土中から，土師器片530点，須恵器片300点及び縄文土器片3点が出土している。

**所見**　本跡は，出土遺物から平安時代の遺構で，底面の小礫の堆積状況や硬化の様子から道路跡と考えられる。

第1号道路跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第92図 1 | 坏<br>土師器 | A(9.3)<br>B(3.6) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，不明瞭な稜を経て，口縁部は直線的に上方に立ち上がる。 | 口縁部内・外面横方向の強いナデ。体部外面下位ヘラ削り。 | 長石・石英・スコリア<br>明赤褐色<br>普通 | P172　30%<br>覆土 |
| 2 | 甕<br>須恵器 | A(16.2)<br>B(3.3) | 天井部片。天井部は中央から端部に向かってなだらかに下降し，端部は水平方向に伸びる。端部下面は下方向に突出する。 | 口縁部ナデ。口縁部内面に薄く自然釉，外面に強いハケロ目を残す。 | 長石・石英<br>灰色<br>普通 | P173　20%<br>覆土 |




第92図　第１号道路跡・出土遺物実測図

## 7　遺物包含層

遺物包含層は，調査区北部（Ｂ３区）の斜面上に形成されている。全面黒色土に覆われた斜面に，４ｍ毎に幅１ｍのトレンチを東西，南北に碁盤目状に設定し，掘り込んだ結果，黒色土中に平安時代の土師器の坏，甕及び須恵器の坏などが確認された。また，土層の堆積状況を見るため，B3i₂区にテストピットを設定して，約1.50ｍまで掘り下げた結果，土層は単一層で粘土を含む湿潤できめ細かな黒色土が上層から下層まで埋めていることが確認できた。遺物包含層は台地斜面の前方に広がる調査区外の低湿地にまで及んでいると推定されるが，はっきりした規模については確認できない。

以下，主な出土遺物の解説と実測図を掲載する。

**第93図　遺物包含層出土遺物実測図**

遺物包含層出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第93図<br>1 | 坏<br>土師器 | A〔10.2〕<br>B( 4.3) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁部下端に稜を持つ。 | 口縁部内・外面強い横ナデ。 | 長石・雲母・スコリア<br>橙色　普通 | P174　30% |
| 2 | 坏<br>土師器 | A〔15.0〕<br>B( 4.2) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は浅い角度で丸味をもって立ち上がり、口縁部は外反して開く。 | 口縁部内・外面ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通 | P175　30% |
| 3 | 坏<br>土師器 | A〔10.9〕<br>B( 3.6) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は不明瞭な稜を経て、直線的に立ち上がる。 | 口縁部外面強い横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。 | 長石・スコリア<br>鈍い褐色<br>普通 | P176　30% |
| 4 | 坏<br>土師器 | A〔12.4〕<br>B( 3.8) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は浅い角度で緩やかな丸味をもって立ち上がり、明瞭な稜を経て、口縁部は直線的に立ち上がる。 | 口縁部外面強い横ナデ。体部外面下端ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>明赤褐色<br>普通 | P177　30% |
| 5 | 坏<br>土師器 | A( 9.8)<br>B 3.3<br>C( 4.6) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り後ナデ。 | 砂粒・スコリア<br>鈍い橙色<br>普通 | P178　40% |

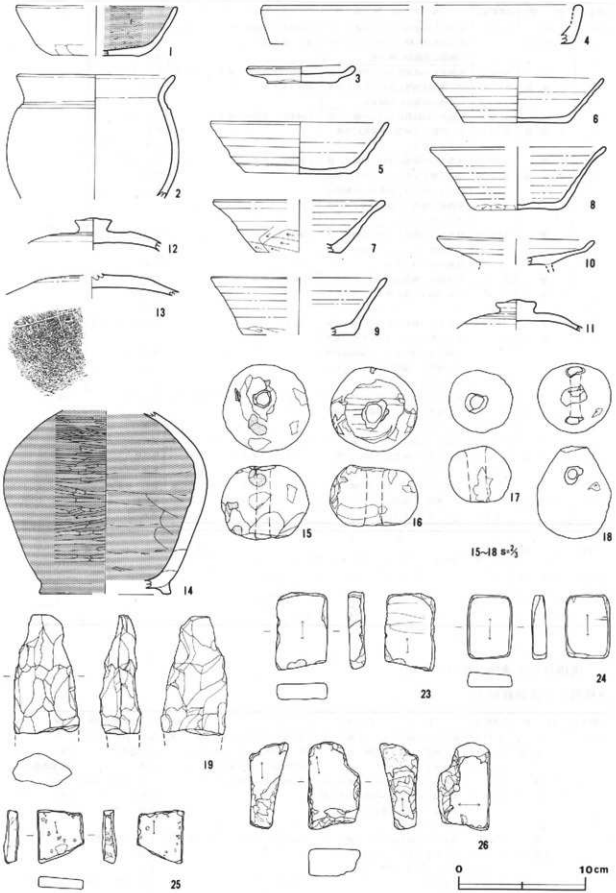
| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第93図<br>6 | 坏<br>土師器 | B(3.1) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に伸びる。 | 口縁部内・外面強い横ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 砂粒<br>黒褐色<br>普通 | P179　20% |
| 7 | 坏<br>土師器 | A(11.4)<br>B(2.9) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面強い横ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・雲母<br>スコリア<br>鈍い褐色　普通 | P180　20% |
| 8 | 坏<br>土師器 | A(10.8)<br>B(2.6) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面強い横ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通 | P181　10% |
| 9 | 甕<br>土師器 | A(21.3)<br>B(7.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾し，端部は真上につまとげられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黄橙色<br>普通 | P182　10% |
| 10 | 甕<br>土師器 | A(26.0)<br>B(5.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P183　5% |
| 11 | 甕<br>土師器 | A(18.2)<br>B(4.6) | 口縁部片。頸部は緩やかに外反する。口縁端部は先端が細くなる。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P184　5% |
| 12 | 甕<br>土師器 | A(17.6)<br>B(5.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。口縁部は直線的に外傾し，端部は斜め上方にわずかにつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>鈍い橙色<br>普通 | P185　10% |
| 13 | 坏<br>須恵器 | A(13.2)<br>B 3.9<br>C(9.6) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・雲母<br>灰色<br>普通 | P186　20% |
| 14 | 坏<br>須恵器 | A(13.7)<br>B 3.6<br>C(8.4) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石<br>褐灰色<br>普通 | P187　20% |
| 15 | 坏<br>須恵器 | A(12.7)<br>B 3.9<br>C(9.6) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部はわずかに内彎しながら立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>褐灰色<br>普通 | P188　40% |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 高さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第93図16 | 管状土錘 | 径 | (2.5) | (6.3) | 0.7 | (25.5) | DP16 |
| 17 | 上玉 | 径 | (2.2) | (1.7) | 0.4 | (6.9) | DP17 |
| 18 | 泥面子 | 2.6 | 2.1 | 0.5 | － | 3.4 | DP22 |

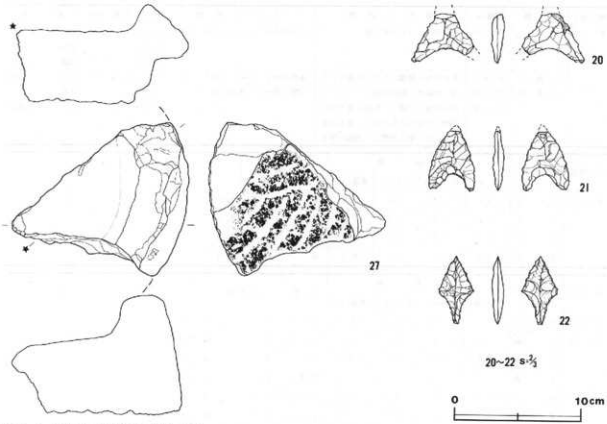
## 8　遺構外出土遺物（第94・95図）

### 遺構外出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第94図<br>1 | 坏<br>土師器 | A(12.4)<br>B 4.0<br>C(6.8) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は内彎しながら立ち上がる。 | 口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き，体部外面下端ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P190　25%<br>表採<br>内面黒色処理 |
| 2 | 甕<br>土師器 | A 12.1<br>B(9.9) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は球状に内彎し，頸部は小さな段を作る。口縁部は頸部から外反して斜め上方に伸びる。 | 口縁部外面強い横方向のナデ。 | 長石・石英・雲母<br>灰褐色<br>普通 | P192　40%<br>表採 |
| 3 | 皿<br>土師質土器 | A 8.6<br>B 1.4<br>C 5.4 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は極めて浅い角度で立ち上がり，口縁部は内彎する。 | 口縁部内・外面ナデ。底部回転糸切り。 | 長石・石英・雲母<br>灰黄色<br>普通 | P191　70%<br>表採 |
| 4 | 坩堝　鍋<br>土師質土器 | A(25.0)<br>B 3.1<br>C(24.0) | 口縁部片。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>黒色<br>普通 | P202　5%<br>表採 |




第94図　遺構外出土遺物実測図(1)




第95図　遺構外出土遺物実測図(2)

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第94図<br>5 | 坏<br>須恵器 | A 13.9<br>B 4.2<br>C 8.3 | 口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>灰色<br>普通 | P189 85%<br>表採 |
| 6 | 坏<br>須恵器 | A 13.1<br>B 3.6<br>C 8.3 | 体部から口縁部一部欠損。平底。体部、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>灰白色<br>普通 | P193 70%<br>表採 |
| 7 | 坏<br>須恵器 | A[13.5]<br>B 4.2<br>C[6.6] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は肥厚してわずかに外反する。 | 体部下端から底部外面へラ削り後ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P194 30%<br>表採 |
| 8 | 坏<br>須恵器 | A[14.0]<br>B 5.0<br>C[6.8] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り後ナデ。底部外面へラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黄灰色<br>普通 | P195 20%<br>表採 |
| 9 | 坏<br>須恵器 | A[13.9]<br>B 5.5<br>C[8.8] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部、口縁部はわずかに外反する。底部が肥厚している。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り後ナデ。底部外面へラ削り。 | 長石・石英<br>灰色<br>普通 | P196 20%<br>表採 |
| 10 | 蓋<br>須恵器 | A[12.4]<br>B 2.1<br>C[5.0] | 底部から口縁部にかけての破片。体部は極めて浅い角度でわずかに外反しながら立ち上がり，口縁部は斜め上方に折れて直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。底部へラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>暗黄褐色<br>普通 | P197 30%<br>表採 |
| 11 | 蓋<br>須恵器 | B[2.6]<br>F 3.1<br>G 1.0 | 天井部片。天井部中央には比較的高く逆等脚台形状のつまみが付き，そこから口縁部に向かってなだらかに弧を描いて下降する。 | つまみ部ナデ。天井部外面へラナデ。 | 長石・石英<br>暗灰黄色<br>普通 | P198 60%<br>表採 |
| 12 | 蓋<br>須恵器 | B[2.6]<br>F 2.9<br>G 1.1 | 天井部片。天井部中央には比較的高く逆等脚台形状のつまみが付き，そこから口縁部に向かってなだらかに弧を描いて下降する。口縁部は水平方向に直線的に伸びる。 | つまみ部ナデ。天井部外面へラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黄灰色<br>普通 | P199 60%<br>表採 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第94図<br>13 | 壺<br>須恵器 | B(2.0) | 天井部片。つまみ部欠損。 | 天井部外面ヘラナデ。外面に自然釉。 | 長石・石英<br>灰色<br>普通 | P20　30%<br>表採<br>内面ヘラ記号 |
| 14 | 長頸壺<br>須恵器 | B(14.5)<br>D(10.4)<br>E　0.8 | 高台部から胴部にかけての破片。平底。付高台。高台は短く「ハ」の字状に外傾して開く。体部は緩やかに内彎しながら立ち上がり，最大径をもつ上位で強く内彎して頸部に至る。 | 体部外面上・中位ヘラ磨き，下位ヘラ削り後ナデ。体部内面ヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黒色<br>不良 | P201　40%<br>表採<br>内・外面黒色処理 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 径(cm) | 高さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 第94図15 | 土玉 | (3.4) | (3.0) | 0.6 | (31.6) | 表採 | DP18 |
| 16 | 土玉 | (3.4) | (2.5) | 0.7 | (27.8) | 表採 | DP19 |
| 17 | 土玉 | (2.5) | (2.2) | 0.6 | (10.1) | 表採 | DP20 |
| 18 | 土玉 | (3.0) | (3.7) | 0.4 | (26.9) | 表採 | DP21 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第94図19 | 打製石斧 | (9.5) | (5.4) | (3.2) | (147.3) | 安山岩 | 表採 | Q3 |
| 第95図20 | 石鏃 | (2.0) | (2.6) | 0.6 | (1.4) | 安山岩 | 表採 | Q9 |
| 21 | 石鏃 | 2.4 | 1.9 | 0.4 | (1.6) | チャート | 表採 | Q10 |
| 22 | 石鏃 | 2.7 | 1.4 | 0.5 | (0.9) | 黒曜石 | 表採 | Q11 |
| 第94図23 | 砥石 | (6.1) | (4.0) | (1.3) | (52.8) | 安山岩 | 表採 | Q4 |
| 24 | 砥石 | 5.0 | 3.6 | 1.1 | 35.4 | 安山岩 | 表採 | Q5 |
| 25 | 砥石 | (4.2) | (3.7) | 1.1 | (17.7) | 安山岩 | 表採 | Q6 |
| 26 | 砥石 | (6.9) | (4.2) | 3.0 | (88.4) | 流紋岩 | 表採 | Q7 |
| 第95図27 | 石臼 | 径(14.0) | | 9.5 | (1193.9) | 安山岩 | 表採 | Q8 |

## 第4節　まとめ

念代遺跡の今回の調査では，竪穴住居跡20軒，竪穴状遺構2基，土坑82基，溝4条，地下式壙4基及び道路跡1条が確認されている。ここでは，当遺跡の時期ごとの様相を，住居跡の形態と遺物との関わりや，土坑及び地下式壙と遺物との関わりについてまとめてみたい。

### 1　奈良・平安時代

当遺跡で確認された住居跡20軒のうち，竈を有しているものは15軒である。竈の向きで住居跡を分類すると，次の4種に分けられる。遺物から時期を検討してみたい。

(1)　西向きに竈を持つ住居跡（第13,15 号住居跡）

2つの住居跡は調査区中央部やや東寄りの南向き斜面に隣む台地縁辺部に位置している。第13号住居跡は主軸方向が「N－110°－W」，一辺6ｍ程の隅丸方形，第15号住居跡は主軸方向「N－59°－W」で，軸長3.42ｍ，幅4.64ｍの隅丸長方形の住居跡である。第13号住居跡からは，体部に明瞭な稜を残す土師器の坏や，最大径を体部中位に持ち口縁部のつまみ上げのない土師器の甕などが出土している。第15号住居跡からは，大形の須恵器の蓋や，底径が比較的大きい須恵器の坏に加えて鉄製の鎌や役人の身分を表す銅製の帯金具などが出土している。北向きや東向きの竈を持つ住居に比べ，西向き竈を持つ住居から出土する遺物はより古い形状を示している。2つの住居跡は7世紀中頃から8世紀前半の住居跡である。

(2) 北向きに竈を持つ住居跡（第３，10号住居跡）

主軸方向がほぼ真北を向く住居跡である。第３号住居跡からは，口縁部を強く屈曲させ，端部を短くつまみ上げた土師器の甕や，器高が低く底径が広い須恵器の坏が出土している。出土した遺物の形状から，８世紀後半の住居である。

(2) 北東向きの竈を持つ住居跡（第１，４，６，７，８，11，14号住居跡）

調査区中央部から北部にかけての南向き斜面に臨む台地縁辺部に位置している。住居跡の主軸方向は真北に対していずれも東へ45度程傾いている。第４号住居跡からは底部と体部の境に丸味を持ったり，底部径が小さく口縁部が外反する須恵器の坏や，口縁部が「く」の字状に折れて端部が強くつまみ上げられている土師器の甕などが出土している。須恵器の甑は体部に縦方向の平行叩きが施され，口縁部は水平方向に折られて，端部がつまみ上げられている。第６号住居跡からは，端部のつまみ上げられた土師器の甕，口縁部径が底部径の約２倍程の須恵器の坏及び天井部に平坦面を持つ蓋などが出土している。第７号住居跡からは，口縁部径が底部径の約２倍程の須恵器の坏，胴長の土師器の甕，須恵器の小壺壺などが出土している。第８号住居跡からは，短頸壺などが出土している。第11号住居からも底部と体部の境に丸味を持つ須恵器の坏や，口縁端部をつまみ上げられた土師器の甕などが出土している。出土した遺物の形状から，これらの住居跡は８世紀末から９世紀のものである。

(4) 東向き竈を持つ住居跡（第12，16，17，18号住居跡）

調査区中央部の南向き斜面に臨む台地縁辺部に位置している。出入り口と竈を結ぶ主軸がほぼ真東を向いている。住居跡の規模は全体に小さい。第12号住居跡からは，底部回転糸切り痕を残す皿状の土師器の坏が出土しており，北向き竈を持つグループよりも更に一段新しい様相を見せている。高台の長い高台付坏及び灰釉のかかった短頸壺なども出土している。第16号住居跡からは須恵器が出土せず，高台が長く「ハ」の字状に開く土師器の高台付坏，高台が短くしかも口縁部に比べて底径が小さい土師器の高台付坏及び底部径が小さく浅い角度で大きく口縁部が開く土師器の坏などが出土している。第17・18号住居跡からも，高台部が坏部に比べて小さな土師器の坏が出土している。出土した遺物の形状から，これらは10世紀に位置付けられる住居跡である。

念代遺跡の住居跡については，(1)から(2)までのわずかな数の住居跡の観察からではあるが，西向きの竈を持つ住居跡よりも北向きの竈を持つ住居跡が新しく，さらに，念代遺跡の住居跡については，(1)から(2)までのわずかな数の住居跡の観察からではあるが，西向きの竈を持つ住居跡よりも北向きの竈を持つ住居跡が新しく，さらに，東向きの竈を持つ住居跡が新しいということが言えそうである。

## 2 中・近世

出土遺物から，中・近世の遺構と思われるものがあるのでまとめてみたい。

(1) 土坑

調査区南端は住居跡が確認されていない区域である。ここでは，第８号土坑のように，出土遺物から平安時代の土坑と判断できるものもあるが，中・近世の遺構と思われるものも少なくない。

第１号土坑は長さ2.14ｍ，幅0.72㎝の長方形で，深さ54㎝の土坑である。ここからは，形状から近世の遺物と考えられる長さ21.7㎝の小刀が出土している。第４号土坑は長さ2.40ｍ，幅1.50ｍの長方形で，深さ84㎝の土坑である。ここからは，熙寧元寶（初鋳造年1064年）という北宋銭が出土している。渡来銭であることや贋銭が横行していたことを考え合わせると，中世の遺構と思われる。第24号から29号土坑は地

下式壙もからんで重複が激しい地点であるが，土師質土器の小皿や内耳鍋片などが出土している。土師質皿は口縁部に油煙が付着していることから，灯明皿として利用されたものと思われる。第30号土坑は長さ2.16ｍ，幅1.37ｍの長方形で，深さ56㎝の土坑である。ここからは，寛永通宝が２枚出土している。粘土が貼ってあったことから，近世の墓壙と考えられる。第89号土坑は第30号土坑と重複しているが，ここからも熙寧元寳が１枚出土している。調査区南端には，平面形が長方形である程度の深さをもつ点で似通った土坑が点在する。この地点が中・近世において墓域であった可能性も考えられる。

(2) 地下式壙

地下式壙は調査区南部の住居跡がない場所に４基確認されている。第１号地下式壙は第24号土坑と重複しているが，ここからは土師質土器の皿と内耳鍋片が出土している。第３号地下式壙からは，１本単位の櫛目が施された擂鉢や内耳鍋片などが出土している。第４号地下式壙からは，瀬戸陶器瓶子底部片や土師質土器の擂鉢などとともに，石臼が出土している。地下式壙から出土した遺物はいずれも中世の遺物で，地下式壙も同時代の遺構と考えられる。地下式壙が埋葬施設という考え方もあることから，この地点が墓域的な性格をもつ地点だと考える事もできる。

これらのことから，念代遺跡周辺の台地上には奈良時代以降継続して集落が営まれ，台地南端部は中世以降墓域が形成されたものと考えられる。

参考文献

浅井　哲也　『茨城県内における奈良・平安時代の土器(1)』　研究ノート創刊号　1992年３月
浅井　哲也　『茨城県内における奈良・平安時代の土器(2)』　研究ノート２号　1993年３月

# 第6章　平　坪　遺　跡

## 第1節　遺跡の概要

平坪遺跡は，霞ヶ浦の西方約3km，念代遺跡の南東約0.5kmのところにある。霞ヶ浦に流れ込む花室川の右岸，標高10～15mの舌状台地上に位置し，調査面積は1,635㎡で，現況は畑である。

今回の調査では，竪穴住居跡5軒（古墳時代3軒，平安時代2軒），掘立柱建物跡1棟，土坑6基，溝2条を確認した。

遺物は，土師器（坏，高坏，高台付坏，皿，甕，壺，器台），須恵器（坏，甕，甑，蓋），土製品（土玉，紡錘車）及び金属製品（鉄鏃，刀子）が出土している。

## 第2節　基本層序

調査区内（B2a₃区）にテストピットを設定し，第4図に示すような基本土層の観察を行った。

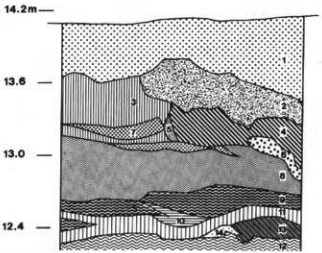
なお，表土除去により耕作土等は取り除かれている。

第1層は，40～80cmの厚さで，ローム粒子を中量程度含む褐色の砂層である。

第2層は，40～50cmの厚さで，ローム粒子と直径5mm程度の礫を少量含む砂層である。

第3層は，35～50cmの厚さで，直径10mm程度の礫と粘土の混じった赤褐色の砂層である。

第4層は，15～30cmの厚さで，直径5mm程度の礫と粘土の混じった褐色の砂層である。



第96図　基本土層図

第5層は，直径3mm程度の礫を少量含む褐色の砂層である。

第6層は，鈍い褐色のきめ細かな砂層である。

第7層は，5～10mmの礫と粘土を少量含む灰褐色の砂層である。

第8層は，30～55cmの厚さで，直径10mm程度の礫を多量に含む褐色の砂層である。

第9層は，直径5mm程度の多量の礫と少量の粘土を含む灰褐色の砂層である。

第10層は，直径10mm程度の多量の礫を含む鈍い褐色の砂層で，指で押すとサラサラと崩れる。

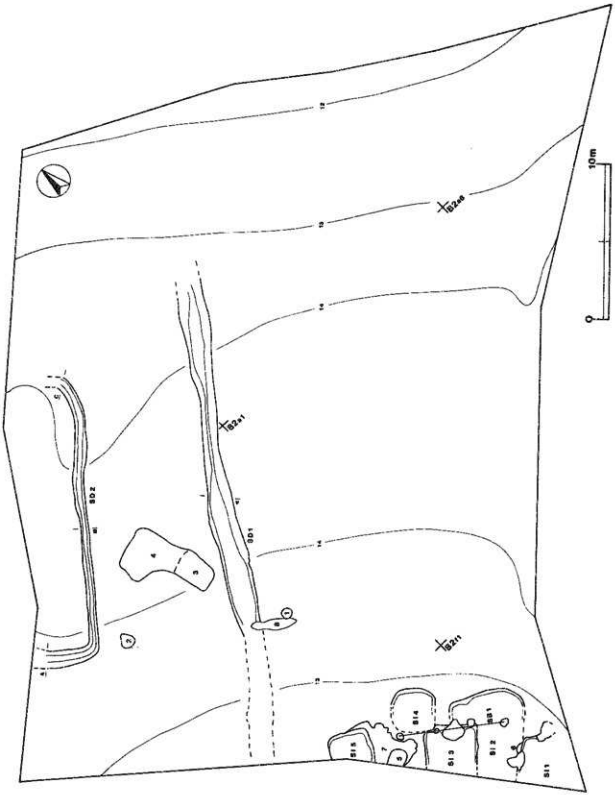
第11層は，粘土を少量含む大きめの粒の灰褐色の砂層である。

第12層は，赤褐色のバター状の粘土層である。

第13層は，直径5mm程度の多量の礫と粘土を少量含む鈍い黄褐色の砂層である。

第14層は，鈍い黄褐色の締まりの強い粘土層である。

住居跡等の遺構は，第1層上面で確認した。




第97図　平坪遺跡全体図

## 第3節　遺構と遺物

### 1　竪穴住居跡

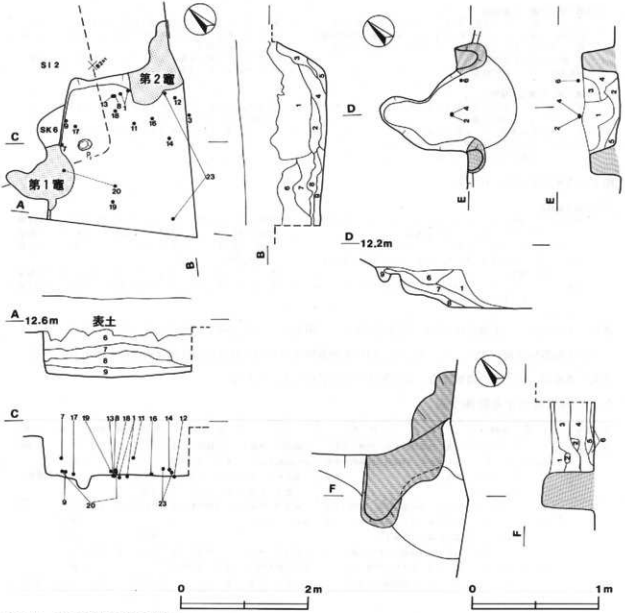
当遺跡では，調査区南端の舌状台地が谷に向かって傾斜する南側斜面から5軒（古墳時代3軒，平安時代2軒）の住居跡を確認した。古墳時代前期の住居跡は比較的掘り込みが浅く，耕作による攪乱を受けているので遺物の遺存状態は良くない。平安時代の住居跡は砂質の地山を1m近く掘り込んで構築されている。遺物の遺存状態は良好で，内面黒色処理された土師器の外面に墨書が施されたものも出土している。

#### 第1号住居跡（第98図）

**位置**　調査区の南端，B1h区。

**重複関係**　本跡の南壁は，第2号住居跡を掘り込んでいるので，本跡の方が新しい。

**規模と平面形**　（長軸，短軸ともに未確認）南東壁，南西壁ともに調査区外へ延びており，全体は確認できな




第98図　第1号住居跡実測図

い。北コーナーは隅丸である。

主軸方向　N－45°－E　　壁　壁高は約60cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，踏み固めは弱く，全体に薄く堆積した焼土が確認できる。

ピット　長径25cm，短径18cmの楕円形で，深さは25cmの主柱穴である。

竈　北東壁と北西壁の２か所。北西竈（第１号竈）は壁外に70cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。

規模は長さ110cm，幅105cmである。両袖とも遺存状態は良くない。火床部は平坦で，覆土中には比較的多量の焼土や炭化粒子が確認され，土師器の坏が出土している。煙道は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。北東竈（第２号竈）は壁外に70cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。竈に向かって左袖部が調査区外まで延びているので明確でないが，確認できる規模は長さ145cm，幅85cmである。右袖部は良好な状態で残る。火床部から比較的多くの土師器片や須恵器片が出土している。煙道は，火床面から70度近い傾斜で立ち上がる。第１号竈，第２号竈ともに袖部，火床部ともに取り壊されたことが認められないので，両竈が同時に使用されたものと考えられる。

北西竈（第１号竈）土層解説

1　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量
5　極暗褐色　ローム粒子微量
6　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
7　暗 赤 色　焼土ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　暗 褐 色　粘土粒子中量，焼土中ブロック・ローム粒子少量
9　褐　色　粘土粒子多量

北東竈（第２号竈）土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　焼粒多量，ローム粒子中量
3　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
4　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量
6　褐　色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子少量

覆土　自然堆積と思われる。

住居跡土層解説

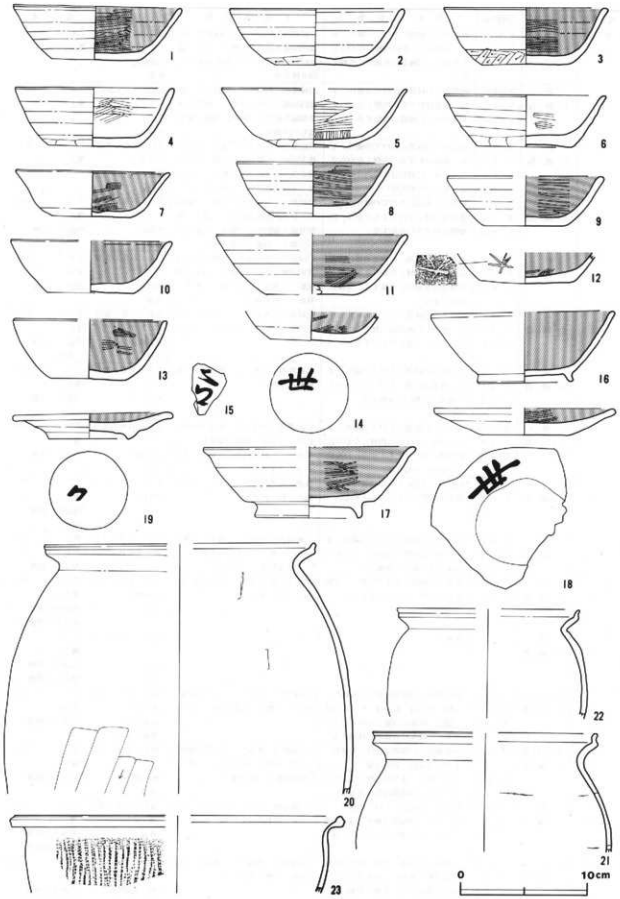
1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量
3　明褐色　小石・砂粒多量，粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム大ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
5　明褐色　粘土粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土ブロック微量
7　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック少量，ローム粒子微量
8　褐　色　粘土小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量

遺物　覆土中から，土師器片458点，須恵器片160点，陶器片１点及び縄文土器片２点が出土している。２，４，６の土師器坏は竈内から，１，８，12，13の土師器坏及び16の土師器高台付坏は床面から出土している。

所見　本跡は，出土した遺物から，10世紀前半の住居跡と考えられる。

第１号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第99図 1 | 坏 土師器 | A 13.3<br>B 4.2<br>C 6.8 | 平底，体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り後ナデ。底部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>淡黄色<br>普通 | P 1　100%<br>底面<br>内面黒色処理 |
| 2 | 坏 土師器 | A 13.6<br>B 4.5<br>C 6.2 | 口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>黄褐色<br>普通 | P 2　95%<br>覆土 |
| 3 | 坏 土師器 | A 12.8<br>B 4.5<br>C 7.0 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き。底部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>淡黄橙色　普通 | P 3　70%<br>覆土<br>内面黒色処理 |




第99図　第１号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第99図 4 | 坏 土師器 | A 12.4<br>B 4.8<br>C 7.0 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内弯しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き。外面下端回転ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>淡黄橙色<br>普通 | P 4 70%<br>覆土 |
| 5 | 坏 土師器 | A [14.6]<br>B 4.7<br>C 5.6 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内弯しながら立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き。体部内面下端回転方向のヘラ磨き，外面下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色<br>普通 | P 5 50%<br>覆土 |
| 6 | 坏 土師器 | A [12.8]<br>B 4.1<br>C 7.6 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内弯しながら立ち上がり，口縁端は直線的に外傾する。底部が比較的厚い。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面強いヨコ横方向のヘラ磨き。外面強いヨコロロ目が残り，外面下端手持ちヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色<br>普通 | P 6 50%<br>覆土 |
| 7 | 坏 土師器 | A 12.2<br>B 3.7<br>C [6.2] | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内弯しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。平底。口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>灰白色<br>普通 | P 7 50%<br>覆土中層<br>内面黒色処理 |
| 8 | 坏 土師器 | A 12.1<br>B 4.3<br>C 6.0 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内弯しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。全体に厚めである。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から体部内面横方向のヘラ磨き。外面下端回転ヘラ削り。底部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>灰白色<br>普通 | P 8 55%<br>座面<br>内面黒色処理 |
| 9 | 坏 土師器 | A [12.2]<br>B 4.0<br>C [6.4] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は内弯しながら立ち上がる。全体に厚めである。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から体部内面へヘラ磨き。底部外面ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>淡黄橙色<br>普通 | P 9 40%<br>床面<br>内面黒色処理<br>二次焼成 |
| 10 | 坏 土師器 | A [12.6]<br>B 4.1<br>C [6.8] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内弯しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色<br>普通 | P 10 45%<br>覆土<br>内面黒色処理<br>二次焼成 |
| 11 | 坏 土師器 | A [15.0]<br>B 4.8<br>C [7.0] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内弯しながら比較的浅い角度で立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面横方向のヘラ磨き，外面下端回転ヘラ削り後ナデ。底部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>淡黄橙色<br>普通 | P 11 30%<br>覆土中層<br>内面黒色処理 |
| 12 | 坏 土師器 | B [2.5]<br>C 7.2 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内弯しながら立ち上がる。 | 体部から底部内面へヘラ磨き。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>灰白色<br>普通 | P 12 20%<br>床面<br>内面黒色処理<br>墨書 |
| 13 | 坏 土師器 | A [12.0]<br>B 4.7<br>C [6.0] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内弯しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面横方向のヘラ磨き，外面下端回転ヘラ削り。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P 13 45%<br>床面<br>内面黒色処理 |
| 14 | 坏 土師器 | B [2.9]<br>C 6.2 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内弯しながら立ち上がる。 | 体部から底部内面へヘラ磨き。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>淡黄橙色<br>普通 | P 14 30%<br>覆土下層<br>内面黒色処理<br>体部外面墨書 |
| 15 | 坏 土師器 | | 体部片。 | | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>灰色<br>普通 | P 16 5%<br>覆土<br>内面黒色処理<br>体部外面墨書 |
| 16 | 高台付坏 土師器 | A [14.3]<br>B 5.6<br>D 7.6<br>E 0.7 | 高台部から口縁部にかけての破片。平底。付高台。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内弯しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面横方向のヘラ磨き。底部内面ヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>淡黄橙色<br>普通 | P 17 50%<br>床面<br>内面黒色処理 |
| 17 | 高台付坏 土師器 | A [16.7]<br>B 5.7<br>D 8.6<br>E 1.3 | 高台部から口縁部にかけての破片。平底。付高台。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内弯しながら立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面横方向のヘラ磨き。底部内面ヘラ磨き，外面回転ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>鈍い橙色<br>普通 | P 18 50%<br>床面<br>内面黒色処理 |
| 18 | 皿 土師器 | A [14.4]<br>B 2.2<br>C [7.0] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部，口縁部は緩やで浅い角度でわずかに内弯しながら立ち上がる。 | 口縁部内・外面ナデ。体部から底部内面へヘラ磨き。底部外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P 48 40%<br>覆土<br>内面黒色処理<br>体部外面墨書 |
| 19 | 高台付皿 土師器 | A 12.4<br>B 2.2<br>D 6.2<br>E 0.6 | 口縁部一部欠損。平底。削り高台。高台は短く断面は三角形をしている。体部は緩やで浅い角度で外傾して立ち上がり，小さな稜を持つ。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部から底部内面へヘラ磨き後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P 19 90%<br>床面<br>内面黒色処理<br>底部外面墨書 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第99図 20 | 壺 土師器 | A[21.4] B(19.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部はわずかに外反し、端部は真上につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面縦方向のヘラ削り。 | 長石・石英・雲母 橙色 普通 | P20 10% 床面 |
| 21 | 壺 土師器 | A[17.8] B( 9.4) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部は緩やかに外反する。口縁端部は真上につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面縦方向のヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 浅黄橙色 普通 | P21 5% 覆土 |
| 22 | 壺 土師器 | A[14.4] B( 8.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾し、端部は真上につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 橙色 普通 | P22 15% 覆土 |
| 23 | 壺 須恵器 | A[25.5] B( 6.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部は水平方向に折れる。口縁端部はつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面平行叩き。 | 長石・石英・砂粒 灰色 普通 | P23 5% 覆土下層 |

## 第2号住居跡（第100図）

**位置**　調査区の南端部，B1g6区。

**重複関係**　本跡は，南東壁を第1号住居跡，西側を第3号住居跡に掘り込まれており，本跡の方が古い。

**規模と平面形**　一辺が〔4.77〕mの隅丸方形である。　**長軸方向**　N－40°－E

**壁**　壁高は約45cmで，外傾して立ち上がる。

**床**　ほぼ平坦で，踏み固めは弱い。

**覆土**　自然堆積と思われる。

**住居跡土層解説**

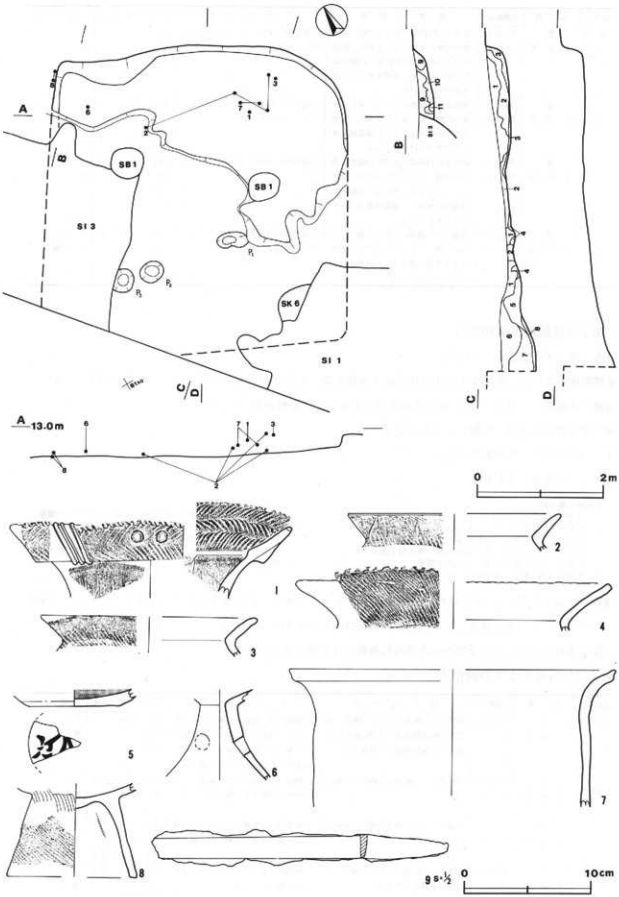
1　暗褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　色　ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土大ブロック微量
8　黒褐色　ローム粒子少量，粘土大ブロック・砂粒微量
9　黒　色　ローム粒子微量
10　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子微量

**遺物**　上師器片273点，須恵器片36点，縄文土器片3点，陶器片1点及び刀子1点が出土している。2の装飾壺の口縁，6の器台脚部，8の台付甕の台部は床面から出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から古墳時代前期の住居跡と考えられる。

### 第2号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第100図 1 | 壺 土師器 | A[22.1] B( 5.7) | 頸部から口縁部にかけての破片。頸部と口縁部境は水平方向に折れ段を成す。口縁部は幅広で外傾する。 | 口縁部は内・外面とも横目が施されている。外面には円形の貼付装飾及び3本単位の隆線が施されている。頸部内・外面縦方向のヘラ磨き。 | 長石・雲母 橙色 普通 | P24 5% 覆土 赤彩 |
| 2 | 壺 土師器 | A[16.7] B( 2.9) | 口縁部片。口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から頸部外面には横毛目が施されている。 | 長石・石英・雲母 橙色 普通 | P25 10% 覆土 赤彩 |
| 3 | 壺 土師器 | A[17.0] B( 2.8) | 口縁部片。口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁部内・外面横方向のナデ。口縁部から頸部外面には刷毛目が施されている。 | 長石・石英・雲母 スコリア 橙色　普通 | P26 10% 覆土中層 |
| 4 | 壺 土師器 | A[24.6] B( 3.7) | 頸部から口縁部にかけての破片。口縁部は直線的に外傾する。 | 口縁端部に刻み。口縁部外面には刷毛目が施されている。 | 長石・石英・雲母 スコリア 鈍い黄橙色 普通 | P27 5% 覆土 |

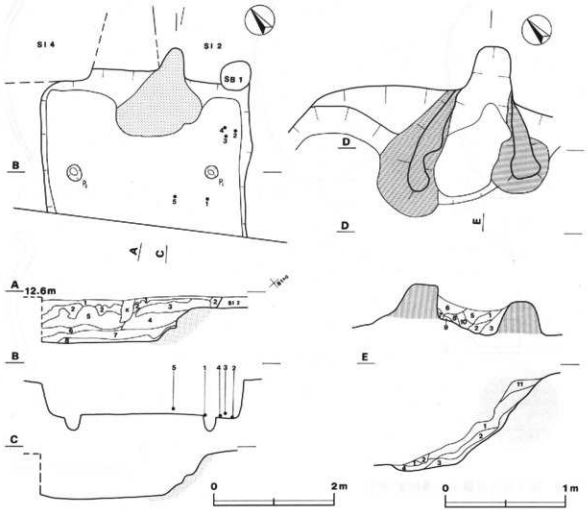



第100図　第２号住居跡・出土遺物実測図

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第100図<br>5 | 坏<br>土師器 | B(1.3)<br>C〔7.2〕 | 底部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。 | 体部内面ヘラ磨き。 | 長石・雲母<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P28　5%<br>覆土<br>内面黒色処理<br>底部外面墨書 |
| 6 | 器台<br>土師器 | B(7.1) | 脚部から器受部にかけての破片。脚部は外反する。脚部には孔が3つ穿たれている。 | 脚部には縦方向の刷毛目が施されている。 | 長石・雲母<br>スコリア<br>灰黄褐色<br>普通 | P29　40%<br>覆土下層 |
| 7 | 甕<br>土師器 | A〔26.0〕<br>B(10.4) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。口縁端部は直上につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色<br>普通 | P30　10%<br>覆土下層 |
| 8 | 台付甕<br>土師器 | B(6.7)<br>C〔10.2〕<br>E 6.2 | 脚台部から体部にかけての破片。脚台部は直線的に外傾して「ハ」の字状に開く。底部は丸底で，体部は内彎しながら立ち上がる。 | 体部から脚台部外面にかけて刷毛目が施されている。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>鈍い橙色<br>普通 | P32　20%<br>床面 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第100図9 | 刀子 | (15.6) | (1.9) | (0.4) | (25.5) | 鉄 | 覆土 | M1 |

## 第3号住居跡（第101図）




第101図　第3号住居跡実測図

**位置**　調査区の南端部，B1go区。

**重複関係**　本跡は，第２号住居跡と第４号住居跡を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

**規模と平面形**　主軸長〔2.52〕m，幅3.40ｍで，遺構の南半分が調査区外へ延びており，全体は確認できない。北コーナー及び東コーナーは隅丸である。

**主軸方向**　Ｎ－49°－Ｅ　　**壁**　壁高は約55cmで，外傾して立ち上がる。

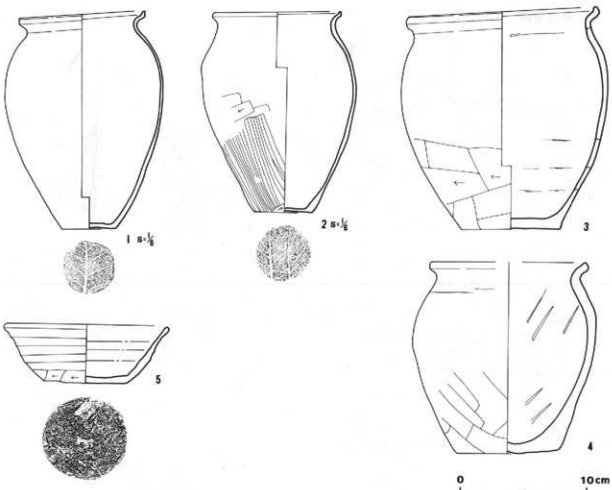
**床**　ほぼ平坦で，床面全体に薄く焼土の堆積が見られる。

**ピット**　$P_1$－$P_3$は径40cm程の円形で，性格は不明である。

**竈**　北東壁中央部を壁外に40cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は長さ135cm，幅140cmである。両袖とも良好な状態で残存している。覆土下層からは多量の焼土とともに，土師器片や須恵器片が比較的多く出土している。火床部は平土で，煙道は火床面から約45度で立ち上がる。

**竈土層解説**

1　褐　　色　粘土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
2　赤 褐 色　焼土多量，ローム粒子微量
3　褐　　色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
4　明 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
6　褐　　色　砂粒多量，焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
7　暗赤褐色　焼土多量
8　褐　　色　砂粒多量，ローム粒子中量
9　褐　　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量
10　暗い褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
11　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量




第102図　第３号住居跡出土遺物実測図

**覆土**　粘土ブロックやロームブロックの混入状況から，人為堆積と思われる。

住居跡土層解説

1　黒褐色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　焼土粒子・ローム粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
6　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子・粘土大ブロック微量
7　暗褐色　粘土大ブロック・粘土小ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　黒褐色　粘土粒子少量，ローム粒子微量

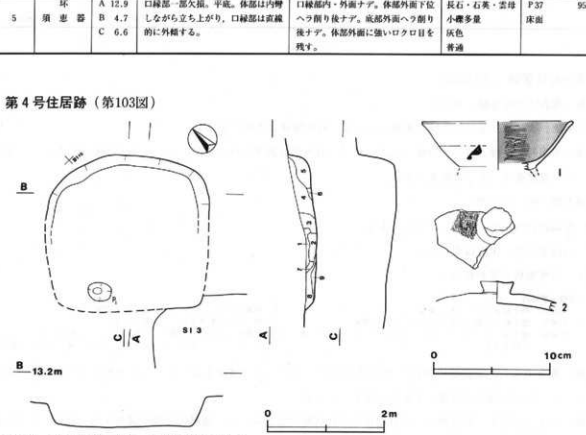
**遺物**　覆土中から，土師器片684点，須恵器片106点及び縄文土器片10点が出土している。1～4の土師器甕及び5の須恵器坏は，床面近くから出土している。

**所見**　本跡は，出土した遺物から，9世紀前半の住居跡と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第102図<br>1 | 甕<br>土師器 | A 19.8<br>B 34.6<br>C 8.6 | 口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。口縁端部は直上につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>灰褐色<br>普通 | P33　90%<br>床面<br>底部木葉痕 |
| 2 | 甕<br>土師器 | A 20.1<br>B 32.1<br>C 9.3 | 体部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。口縁部は上方にわずかにつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面横方向のヘラ削り。体部外面下位縦方向のヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色<br>普通 | P34　85%<br>床面<br>底部木葉痕 |
| 3 | 甕<br>土師器 | A 14.8<br>B 17.6<br>C 7.9 | 口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。口縁端部は斜め内側につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下位横方向のヘラ削り。体部内面に明瞭な輪積痕が残る。 | 長石・石英・雲母<br>灰褐色<br>普通 | P35　95%<br>床面 |
| 4 | 甕<br>土師器 | A(12.3)<br>B 15.2<br>C 8.2 | 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外頻して立ち上がり，頸部は緩やかに外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。体部内面部分的にヘラナデ。体部外面下位斜め方向のヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P36　90%<br>床面 |
| 5 | 坏<br>須恵器 | A 12.9<br>B 4.7<br>C 6.6 | 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直線的に外頻する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下位ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。体部外面に強いロクロ目を残す。 | 長石・石英・雲母<br>小礫多量<br>灰色<br>普通 | P37　95%<br>床面 |

第4号住居跡（第103図）




第103図　第4号住居跡・出土遺物実測図

位置　調査区の南端部，B1f₀区。

重複関係　本跡は，南側コーナーで第3号住居跡に掘り込まれており，本跡の方が古い。

規模と平面形　長軸〔2.80〕m，短軸〔2.67〕mで，遺構の南側が削られ，全体は確認できない。北コーナー及び東コーナーは隅丸である。

長軸方向　N－45°－W　　壁　壁高は約45cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

ピット　長径45cm，短径25cmの楕円形で深さは20cmである。性格は不明である。

覆土　自然堆積と思われる。

住居跡土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・砂粒微量
2　暗褐色　砂粒少量，ローム粒子微量
3　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
4　暗褐色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
6　褐　色　砂粒多量，粘土粒子中量，ローム粒子少量
7　褐　色　砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量
8　褐　色　炭化粒子・ローム粒子微量
9　褐　色　ローム粒子少量，粘土中ブロック微量

遺物　覆土中から，土師器片212点及び須恵器片29点が出土している。須恵器及び1，2は流れ込みである。

所見　床面から出土する土師器片の多くが刷毛目を有することから，古墳時代前期の住居跡と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第103図 1 | 高台付坏 土師器 | A〔12.9〕 B（4.2） | 底部から口縁部にかけての破片。高台部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。口縁部から底部内面へつ巻き。 | 長石・石英・雲母 堅い黄橙色 普通 | P38　10% 覆土 内面黒色処理 体部外面墨書 |
| 2 | 蓋 須恵器 | B（2.5） F　2.9 G　1.1 | 天井部片。天井部中央に逆台形のつまみが付き，口縁部に向かって緩やかに下降する。 | つまみ部ナデ。 | 長石・石英 褐灰色 普通 | P39　30% 覆土 天井部外面墨書 |

## 第5号住居跡（第104図）

位置　調査区の南端部，B1f₉区。

重複関係　本跡は，第7号土坑と重複している。新旧関係は不明である。

規模と平面形　長軸2.67m，短軸（2.22）mで，南西部は調査区外へ延びており，全体は確認できない。北コーナー及び東コーナーは隅丸である。

長軸方向　N－60°－W

壁　壁高は約84cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，床面は柔らかい。

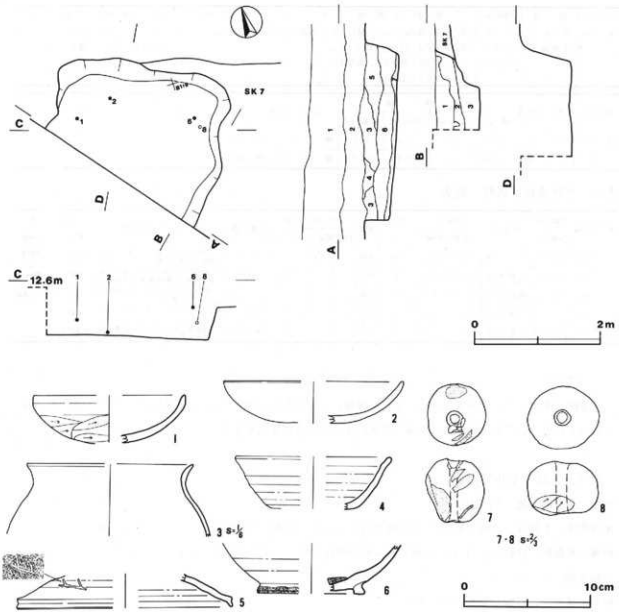
覆土　自然堆積と思われる。

住居跡土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・ローム粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量
3　暗褐色　焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
4　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　色　砂粒多量，ローム粒子中量
6　暗褐色　砂粒中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
7　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量

遺物　覆土中から，土師器片382点，須恵器片24点，土玉2点，縄文土器片8点及び陶器片1点が出土している。1，2の土師器坏は覆土下層から出土している。

所見　本跡は，出土した遺物から7世紀後半の住居跡と考えられる。遺構の南側が調査区外へ延びているため，竈は確認されていない。




**第104図　第5号住居跡・出土遺物実測図**

**第5号住居跡出土遺物観察表**

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第104図<br>1 | 坏<br>土師器 | A[12.0]<br>B( 3.8) | 底部から口縁部にかけての破片。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。 | 口縁部内・外面強い横方向のナデ。体部下位から底部にかけてヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色　普通 | P40　10%<br>覆土下層 |
| 2 | 坏<br>土師器 | A[14.2]<br>B( 3.3) | 底部から口縁部にかけての破片。体部、口縁部は内彎しながら立ち上がる。 | 口縁部内・外面横方向のナデ。体部から底部外面へラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>橙色　普通 | P41　10%<br>床面 |
| 3 | 甕<br>土師器 | A[26.3]<br>B(11.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部は緩やかに外反する。口縁部は外反し、端部は尖る。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>スコリア<br>灰褐色<br>普通 | P42　5%<br>覆土 |
| 4 | 坏<br>須恵器 | A[12.1]<br>B 4.1<br>C[ 6.2] | 底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黄灰色<br>普通 | P43　10%<br>覆土 |
| 5 | 蓋<br>須恵器 | A[16.8]<br>B( 2.7) | 天井部片。天井部はなだらかに下降し、口縁端部は斜め下方に突出している。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>灰色<br>普通 | P44　25%<br>覆土<br>天井部外面ヘラ記号 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第104図 6 | 須恵器 灰釉陶器 | B(4.0) D(8.3) E 0.7 | 高台部から体部にかけての破片。丸味のある平底。付高台。高台は短く「ハ」の字状に外傾する。体部は内傾しながら立ち上がる。 | 体部外面・底部内面施釉者。 | 砂粒 灰色(軸)外面 黒褐色 内面 灰オリーブ色 非油 | P49 20% 覆土中層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | | 出土位置 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 径(cm) | 高さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | | |
| 第104図7 | 土玉 | (2.3) | (2.5) | 0.4 | (10.7) | 覆土 | DP1 | |
| 8 | 土玉 | (2.9) | (2.1) | 0.4 | (12.3) | 覆土下層 | DP2 | |

表8 平坪遺跡住居跡一覧表

| 番号 | 位置 | 主軸方向(長軸方向) | 平面形 | 規模(m)(長軸×短軸) | 壁高(cm) | 床面 | 内部施設 土坑 | 貯蔵穴 | ピット | 入口 | 竈 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | B1ba | N-45°-E | 不明 | (2.35)×(2.30) | 60 | 平坦 | | — | 1 | — | 2 | 自然 | 土師器(坏・高坏・高台付坏・甕・鉢・椀・蓋・鍋底)、須恵器(坏・甕) | S12→本跡,S9は本跡消滅か補) |
| 2 | B1gc | N-40°-E | 不整方形 | [4.77]×[4.77] | 45 | 平坦 | — | — | 3 | — | 不明 | 自然 | 土師器(器台・坏・高坏・高台付坏・甕・台付甕・壺)、須恵器(坏・甕・鉢・蓋・蓋)、黒曜石(刀子) | 本跡→S11,本跡→S13 |
| 3 | B1gc | N-49°-E | 隅丸長方形 | [2.52]×3.40 | 55 | 平坦 | — | | 2 | — | 1 | 人為 | 土師器(坏台・坏・高台付坏・甕)、須恵器(坏・高台付坏・甕・蓋) | S12→本跡,S14→本跡 |
| 4 | B1fa | N-45°-W | 不整方形 | [2.80]×[2.67] | 45 | 平坦 | — | — | 1 | — | 不明 | 自然 | 土師器(坏・高台付坏・甕)、須恵器(坏・高坏・甕・蓋) | 本跡→S13 |
| 5 | B1fa | N-60°-W | 不整方形 | 2.67 ×(2.22) | 84 | 平坦 | — | — | — | — | 不明 | 自然 | 土師器(器台・坏・高台付坏・甕・台付甕・鉢・椀・鍋・須恵器(坏・蓋)、土製品(紡錘車・球状土製品) | S87→本跡 |

## 2 土坑

当遺跡で確認した8基の土坑は，いずれも南側に入り込む谷に面した緩やかな斜面上に位置している。以下，4基の土坑について解説を加え，他は一覧表にまとめ実測図を掲載する。

### 第3号土坑（第105図）

**位置** 調査区北部，B1ba区。

**重複関係** 本跡は，北側で第4号土坑を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

**規模と平面形** 長軸〔2.54〕m，短軸1.62mの不整長方形で，深さは0.34mである。

**長軸方向** N－5°－W

**壁面** 緩やかに外傾しながら立ち上がる。

**底面** 平坦である。

**覆土** 自然堆積と思われる。

土層解説
1 暗褐色 砂粒中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 褐 色 砂粒多量，ローム粒子中量
3 褐 色 砂粒多量，ローム粒子少量
4 明褐色 砂粒・小礫多量，ローム粒子中量
5 明褐色 ローム粒子・砂粒・小礫中量，炭化粒子微量

**遺物** 覆土中から，土師器片24点及び須恵器片5点が出土している。

**所見** 時期や性格等は不明である。

### 第4号土坑（第105図）

**位置** 調査区北部，B1aa区。

**重複関係** 本跡は，南側で第3号土坑に掘り込まれているので，本跡の方が古い。

**規模と平面形** 長軸3.40m，短軸〔3.36〕mの不定形で，深さは0.35mである。長軸方向は第3号土坑に掘り込まれていて，全長は確認できない。

**長軸方向**　N－75°－E

**壁面**　外傾して立ち上がる。

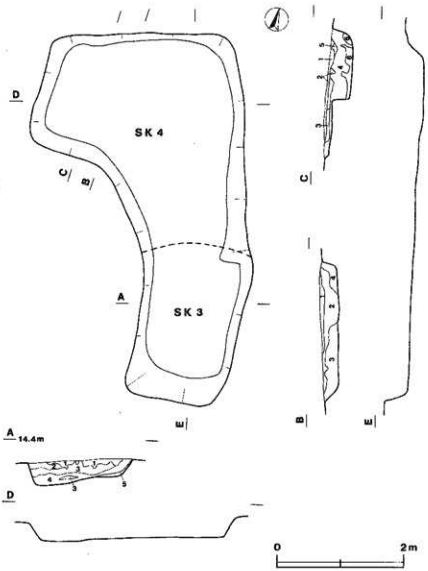
**床面**　平坦である。

**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　粘土中ブロック中量，炭化粒子・ロームブロック・ローム粒子・砂粒少量
2　褐　色　ローム粒子・砂粒中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　砂粒多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　明褐色　砂粒多量，ローム粒子中量
5　褐　色　砂粒多量，ローム粒子少量
6　明褐色　砂粒多量，ローム粒子少量

**遺物**　覆土中から，土師器片20点及び須恵器片5点が出土している。

**所見**　時期や性格等は不明である。




第105図　第3・4号土坑実測図

## 第6号土坑（第106図）

**位置**　調査区北部，B1h0区。

**重複関係**　本跡は，第1号住居跡及び第2号住居跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と平面形**　径0.84mのほぼ円形で，深さは0.60mである。

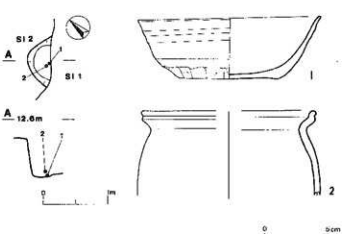
**長径方向**　N－53°－E

**壁面**　外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**遺物**　覆土中から，土師器片9点及び須恵器片2点が出土している。1の土師器坏，2の土師器甕は床面から出土している。

**所見**　時期や性格等は不明である。




第106図　第6号土坑・出土遺物実測図

第６号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第106図 1 | 坏 上師器 | A 14.4 B 5.0 C 7.5 | 口縁部から体部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部外面ヘラ削り後ナデ。 | 長石・石英・雲母 スコリア 橙色 普通 | P45 床面 80% |
| 2 | 甕 上師器 | A[13.6] B( 6.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾し，端部は貴上につまみ上げられている。 | 口縁部内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母 純い赤褐色 普通 | P46 床面 10% |

第７号土坑（第107図）

**位置**　調査区北部，B1f9区。

**重複関係**　本跡は，第５号住居跡及び第５号土坑に掘り込まれており，本跡の方が古い。

**規模と平面形**　長軸［4.10］m，短軸（2.00）mの不定形で，深さは0.65mである。西側が調査区外へ延びているため，平面形は確認できない。

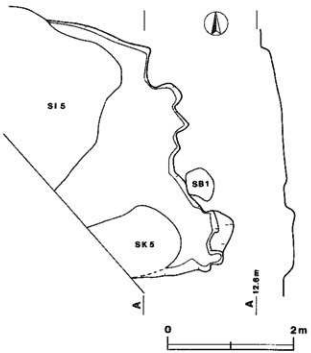
**長軸方向**　N－10°－W

**壁面**　外傾して立ち上がる。

**床面**　平坦である。

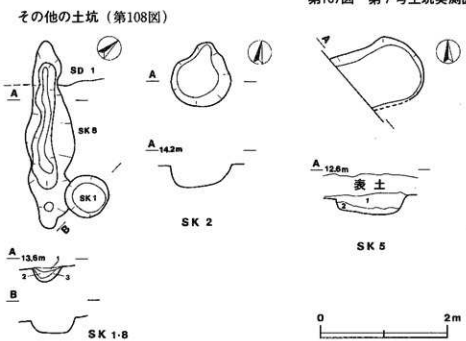
**遺物**　覆土中から，土師器片56点，須恵器片13点，土師質土器片２点及び縄文土器片１点が出土している。

**所見**　時期や性格等は不明である。




第107図　第７号土坑実測図

その他の土坑（第108図）




第108図　第１・２・５・８号土坑実測図

表9　平坪遺跡土坑一覧表

| 番号 | 位置 | 長軸方向 | 平面形 | 規模 長径×短径(m) | 深さ(m) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | B1c₇ | N－8°－E | 円形 | 0.70 × 0.67 | 23 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(甕) | SK2と重複(新旧不明) |
| 2 | B1b₇ | N－7°－E | 不整円形 | 1.04 × 0.93 | 36 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(甕),須恵器(坏) | |
| 3 | B1b₆ | N－5°－W | 不整長方形 | (2.34)× 1.62 | 34 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏) | SK4→本跡 |
| 4 | B1a₆ | N－75°－E | 不定形 | 3.40 ×(3.36) | 35 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・甕) | 本跡→SK3 |
| 5 | B1f₆ | N－68°－E | 不整楕円形 | (1.14)× 1.08 | 17 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(甕) | SK7→SK5 |
| 6 | B1h₆ | N－53°－E | 不定形 | 0.84 ×(0.40) | 60 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(甕) | S12→本跡,S13と重複(新旧不明) |
| 7 | B1f₅ | N－10°－W | 不定形 | (4.10)×(2.00) | 65 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器(坏・甕),須恵器(坏・高坏・甕),土師質土器(鉢) | 本跡→SB,本跡→SB |
| 8 | B1e₅ | N－52°－W | 不定形 | 2.97 × 0.78 | 23 | 緩傾 | 平坦 | 自然 | | S31→本跡→SK1 |

## 3　掘立柱建物跡

### 第1号掘立柱建物跡（第109図）

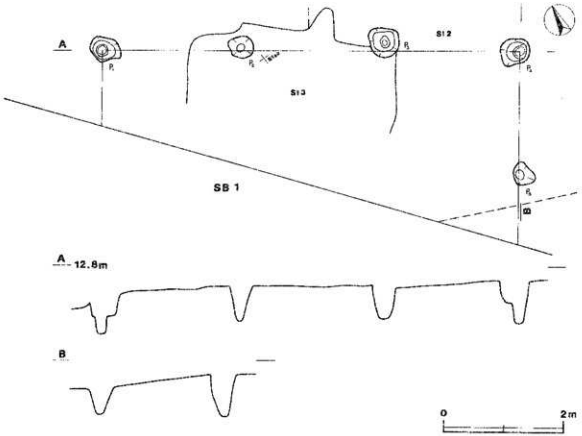
**位置**　調査区の南端部，B1g₀区。

**重複関係**　本跡は，第2号住居跡及び第3号住居跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模**　東西3間，南北2間まで確認したが，遺構が調査区外へ延びていて全体は確認できない。柱間寸法は東西が約2.25m，南北が約2.05mである。柱穴の掘り方は平面形が40～50cmの円形で，深さは45～70cmである。

**長軸方向**　N－30°－E

**覆土**　黒褐色土の単一層で，柱痕は確認できなかった。




第109図　第1号掘立柱建物跡実測図

**所見**　出土遺物もなく，時期や性格等は不明である。

## 4　溝

当遺跡では，溝を２条確認した。第１号溝は調査区を横切っている。第２号溝は第１号溝の西側に位置し，２か所のコーナーが確認できるが，大部分が調査区外にあるものと思われ，全体は把握できない。

### 第１号溝（第97・110図）

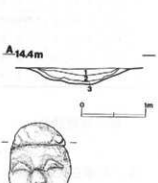
**位置**　調査区の北端から南端部，Ａ２区及びＢ１区。

**規模と形状**　上幅0.95～2.00ｍ，下幅0.10～0.80ｍ，深さは0.20～0.30ｍで，北東から南西へ約24ｍは確認できるが，両端とも調査区外へ延びている。断面はＵ字形で，底面は皿状である。

**方向**　調査区内で北東から南西（Ｎ－35°－Ｅ）へ約24ｍ測り，調査区外へ延びている。

**覆土**　自然堆積と思われる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
2　褐　色　炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量
3　明褐色　砂粒中量，ローム粒子少量



第110図　第１号溝断面・出土遺物実測図

**遺物**　覆土中から，土師器片142点，須恵器片14点，鉄釘片11点，泥面子１点及び陶磁器片16点が出土している。

**所見**　時期や性格等は不明である。

第１号溝出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値 | | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 第110図1 | 泥面子 | 2.1 | 1.6 | 0.5 | － | (1.5) | 覆土 | DP3 |

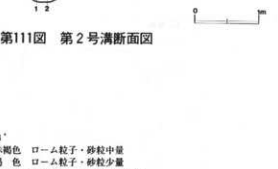
### 第２号溝（第97・111図）

**位置**　調査区の西端部，Ａ１区及びＢ１区。

**規模と形状**　上幅0.50～1.00ｍ，下幅0.10～0.45ｍ，深さは0.15～0.30ｍで，断面はＵ字形，底面は皿状である。A1hs区からB1as区まで，北東から南西に平面上18ｍを測り，両端とも90度北西に折れ，約４ｍで調査区外へ延びている。

**方向**　北東から南西（Ｎ－35°－Ｅ）へ延びて，両端とも直角に北西に曲がる。

**覆土**　自然堆積と思われる。



第111図　第２号溝断面図

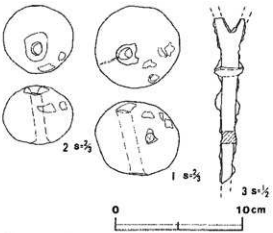
Ａ－Ａ'
1　赤褐色　ローム粒子・砂粒中量
2　褐　色　ローム粒子中量，砂粒少量
3　赤褐色　ローム粒子・砂粒中量
4　褐　色　ローム粒子中量，砂粒少量

Ｂ－Ｂ'
1　赤褐色　ローム粒子・砂粒中量
2　褐　色　ローム粒子・砂粒少量
3　赤褐色　砂粒多量，ローム粒子中量

**遺物**　出土していない。

所見　時期や性格等は不明である。

5　遺構外出土遺物（第112図）




第112図　遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値 径(cm) | 高さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第112図1 | 土玉 | (3.3) | (2.9) | 0.5 | (27.8) | 覆土 | 脚4 |
| 2 | 土玉 | (2.7) | (2.3) | 0.4 | (13.4) | 覆土 | 脚5 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第112図3 | 鉄鏃 | (8.8) | 1.7 | 0.7 | (16.6) | 鉄 | 覆土 | M2 |

## 第4節　まとめ

平坪遺跡の今回の調査では，5軒の竪穴住居跡，1棟の掘立柱建物跡，8基の土坑及び2条の溝が確認されている。ここでは，住居跡と出土遺物についてまとめてみたい。

### 1　古墳時代（第2・4・5号住居跡）

第2・4号住居跡は，南向きの馬の背状の台地縁辺部に位置している。台地が馬の背状で表土が流れやすいことや，耕作のために覆土が撹乱を受けているために，遺構や遺物の遺存状態は良くない。重複する平安時代の住居跡の深さが，確認面から1m程あるのに比べると対照的である。

遺物は，覆土が削られているために床面近くのものだけが残った。第2号住居跡では，混入と思われる須恵器の細片を除いて，器台の脚部，台付甕の台部及び装飾壺の口縁部などの土師器が床面から出土している。器台の脚部，台付甕の台部には，ともに古墳時代前期によく見られる刷毛目の模様が確認できる。また，装飾壺が搬入品でパレススタイルと呼ばれる特徴を示していることから，これらの遺物は古墳時代の前期に位置付けられるもので，住居跡も同時期と考えられる。また，第5号住居跡は，遺構の大部分が調査区外であるが，時期は出土遺物から古墳時代後期末である。古墳時代には規模の小さな集落がこの地に形成されていたものと思われる。

## 2　平安時代（第１・３号住居跡）

第１・３号住居跡は，古墳時代の第２・４号住居跡と重複して構築されている。古墳時代前期の住居跡の覆土の残りが極めて悪かったのに比べて，平安時代の住居跡は確認面から１ｍ近く掘り込んでいる。第１号住居跡は北向き竈と東向き竈をもち，遺存状態から同じ時期にともに使われていたのではないかと想像される。本編第４章の内路地台遺跡における第１号住居跡とともに，北竈の住居の後に東竈の住居が出現する時期の住居と考えられる。

遺物は土師器と須恵器が出土している。第１号住居跡では覆土下層から出土する遺物はほとんどが土師器で，口縁部径に比して底部径が小さい土師器の坏が出土しているが，内面黒色処理されたものとされないものがある。『太』と刻書された土師器の坏が出土しているが，念代遺跡から多数出土している墨書土器の『太部』の一部と思われ，谷を挟んで念代，平坪遺跡が一つの集落であることが想定される。平成元年度に調査された当遺跡の南東方向約800ｍに位置する長峰遺跡からも，10軒以上の平安期の住居跡が確認されている。平安時代における当地周辺は，大きな集落が形成されていたものと考えられる。，

参考文献

茨城県　『茨城県遺跡地図』　1987年３月

土浦市教育委員会　『上浦の遺跡』

茨城県教育財団　『一般国道125号道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書』　茨城県教育財団文化財調査報告第64集

# 写　真　図　版

右籾貝塚東遺跡
内路地台遺跡
念　代　遺　跡
平　坪　遺　跡

念代遺跡・平坪遺跡全景

念代遺跡中央部

念代遺跡北部

作業風景（念代遺跡）

作業風景（念代遺跡）

遺構確認状況

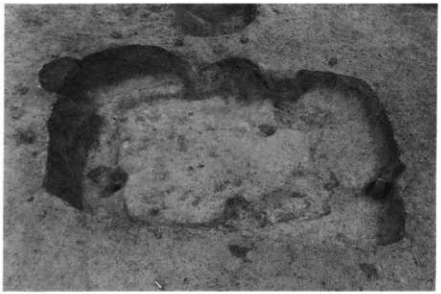
第１号住居跡
遺物出土状況

調査終了全景

調査前全景

第１号住居跡
遺物出土状況

第１号住居跡
遺物出土状況



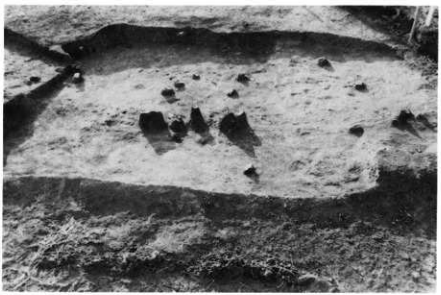
第1・2号住居跡
完掘状況

第1号火葬墓
遺物出土状況

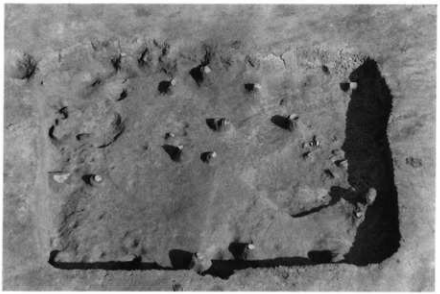
調査終了全景

第１号住居跡
遺物出土状況

第１号住居跡・第１号
竪穴状遺構完掘状況



第３号住居跡
遺物出土状況



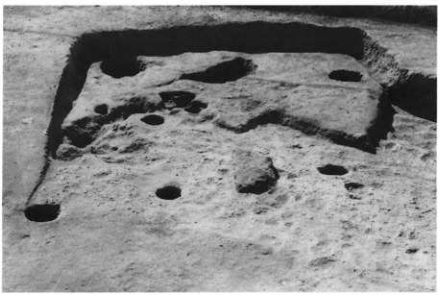
第4号住居跡
遺物出土状況

第6・8号住居跡
遺物出土状況

第6・8号住居跡
完掘状況

第７号住居跡
遺物出土状況（竈内）

第７号住居跡
完掘状況



第10号住居跡
完掘状況

第13号住居跡
遺物出土状況

第13号住居跡
完掘状況

第14号住居跡
完掘状況

第15号住居跡
完掘状況

第17号住居跡
遺物出土状況（竈内）

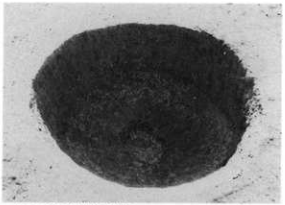
第17号住居跡
完掘状況

第18号住居跡
遺物出土状況

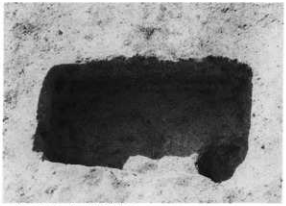
第18号住居跡
遺物出土状況（竈内）

第19号住居跡
完掘状況

第 1 号土抗完掘状況



第 8 号土抗完掘状況

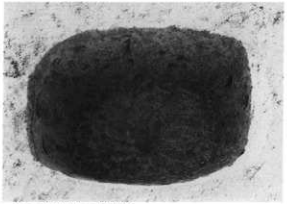


第 3 号土抗完掘状状況

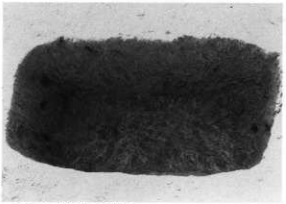
第26・27号土抗完掘状況

第 4 ・39号土抗完掘状況

第24～29号土抗完掘状況

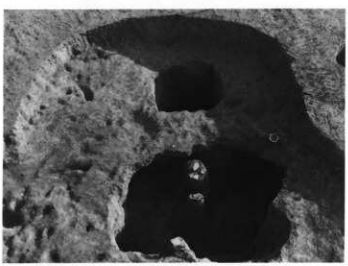


第 7 号土抗完掘状況



第72号土抗完掘状況

第1号竪穴状遺構完掘状況
（念代遺跡）



第5号住居跡・第2号地下式壙
（念代遺跡）

第3号地下式壙完掘状況（念代遺跡）

第2号溝完掘状況（念代遺跡）

第2号溝完掘状況（平坪遺跡）

第１号住居跡
遺物出土状況

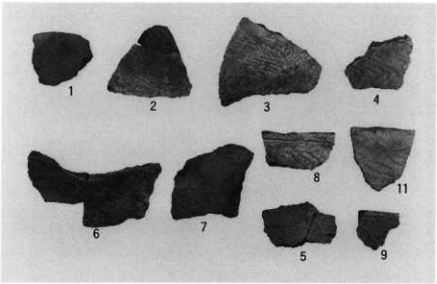
第１号住居跡
遺物出土状況（竈内）

第１号住居跡
完掘状況

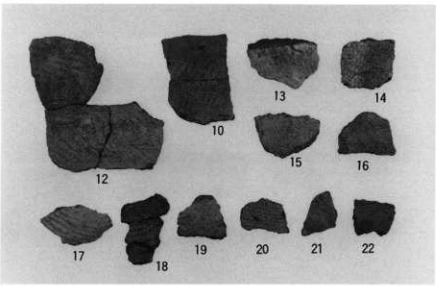
第3号住居跡
遺物出土状況

第3号住居跡
遺物出土状況

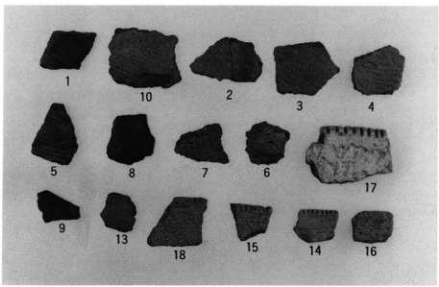
第3号住居跡
完掘状況




第１号住居跡

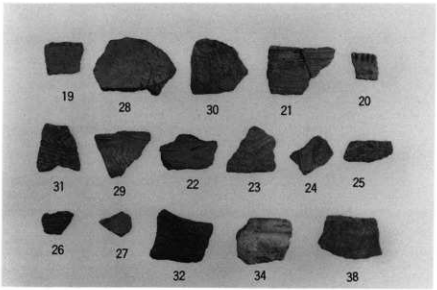


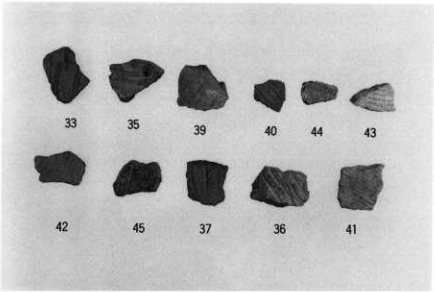

第１号住居跡




遺構外

住居跡・遺構外出土遺物


19
28
30
21
20
31
29
22
23
24
25
26
27
32
34
38


33
35
39
40
44
43
42
45
37
36
41

1

48
49

50

46

49

遺構外出土遺物

SI1-1

SI1-2

SI1-3

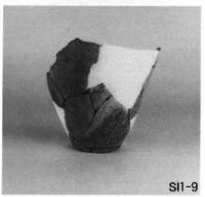
SI1-4

SI1-5

SI1-6

SI1-7

SI1-8


SI1-9

SI1-10

SI1-11

SK2-1

SI1-12

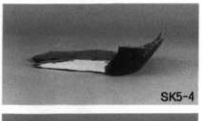
SI1-13

住居跡・土抗出土遺物

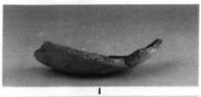
SK2-2

BK5-5

SK5-3


SK5-4

第１号火葬墓-1



第２号火葬墓-2

表採P26

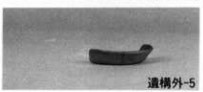
第１号火葬墓-2

第２号火葬墓-3

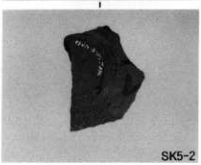
遺構外-6

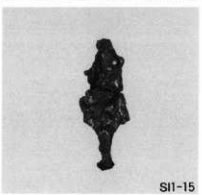
遺構外-3

第２号火葬墓-1

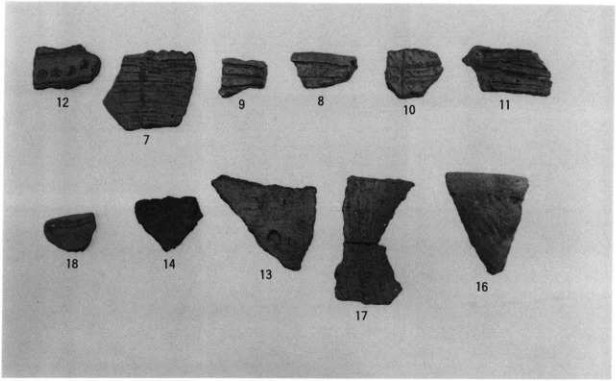

遺構外-5

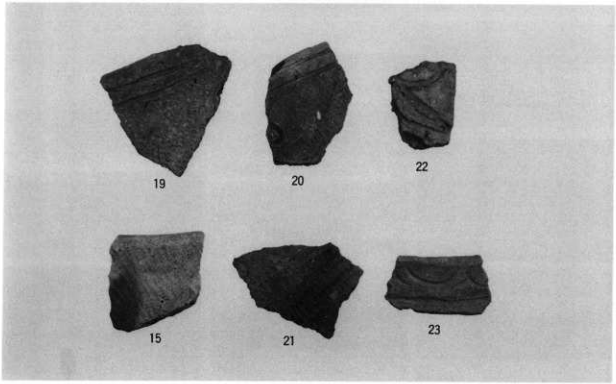
遺構外-4


SK5-2


SI1-15

住居跡・土抗・火葬墓・遺構外出土遺物




遺構外出土遺物

S11-1

S11-2

S13-6

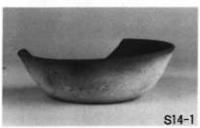
S13-1

S13-5

S13-7

S13-8

S14-8


S14-1

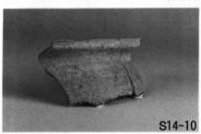
S14-2

S14-14

S14-4

S14-13

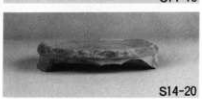
S14-3

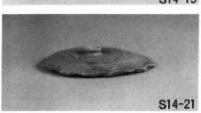

S14-10

S14-19

S14-18

S14-15


S14-20


S14-21

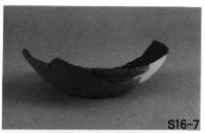
S15-2

S15-3

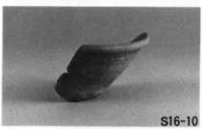
住居跡出土遺物

S16-2

S16-6


S16-7

S16-8

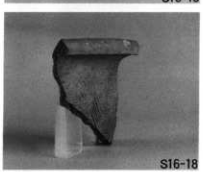

S16-10

S16-13

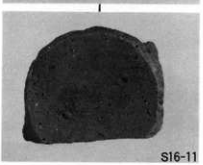
S16-15

S16-12

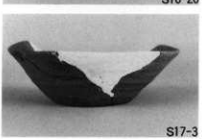
S16-14


S16-18

S16-20


S16-11

S17-2


S17-3

S16-1

S17-4

S17-5

S17-1

S17-6

S17-8

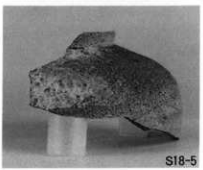
S17-9

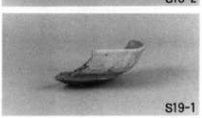
S17-10

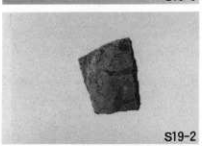
S18-1

S18-2

S18-3


S18-5


S19-1

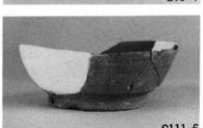

S19-2

S19-5

S19-3

S19-4

S111-4

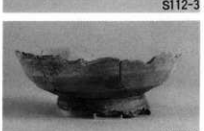

S111-6

S112-1

S112-3

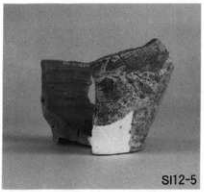
S111-7

S112-2


S112-4

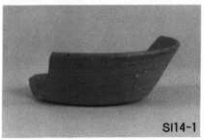
S113-1

住居跡出土遺物


SI12-5

SI13-5

SI13-6

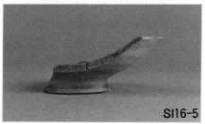

SI14-1

SI15-1

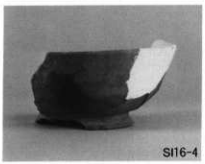
SI15-7

SI16-1

SI16-2


SI16-5

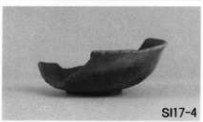
SI16-6


SI16-4

SI17-2

SI17-5

SI17-3


SI17-4

SI18-1

SI18-2

SI21-1

住居跡出土遺物

S121-2

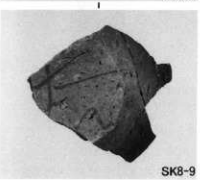
SK4-1

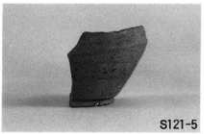
SK8-2

SK8-3

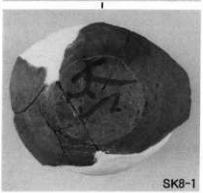
SK8-8

SK8-9

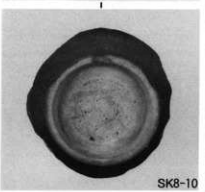

SK8-9

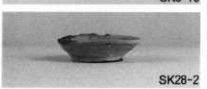

S121-5

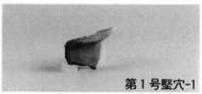
SK8-1


SK8-1

SK8-6


SK8-10


SK28-2


第1号竪穴-1

第2号竪穴-2

SK8-4

SK8-5

SK8-7

SK15-1

SK24-1

SK35-2

住居跡・竪穴状遺構・土抗出土遺物

SK37-3

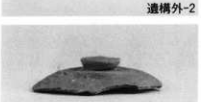
SK87-1

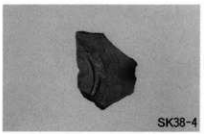
第1号地下式壙-3

第3号地下式壙-2

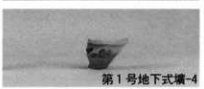
包含層-9

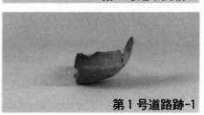
遺構外-2

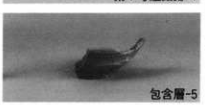

遺構外-11


SK38-4

SK87-2


第1号地下式壙-4


第1号道路跡-1


包含層-5

遺構外-5

遺構外-8

遺構外-12

SK28-2

SK86-1

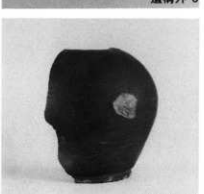
第1号地下式壙-1

第1号地下式壙-6

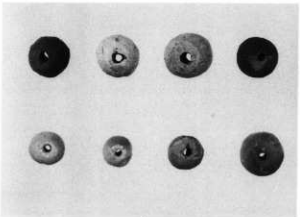
第1号道路跡-2

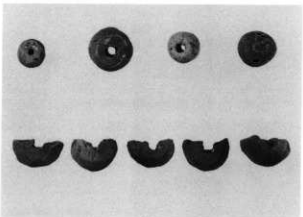
包含層-6

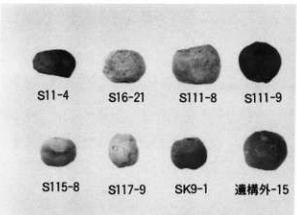
遺構外-6

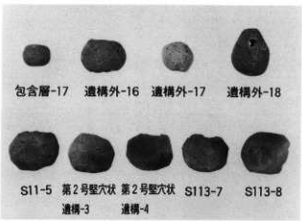

遺構外-14

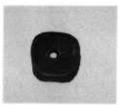
土抗・地下式壙・道路跡・遺物包含層・遺構外出土遺物

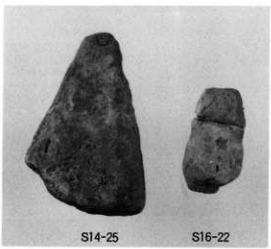


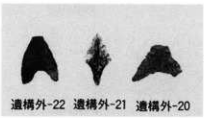




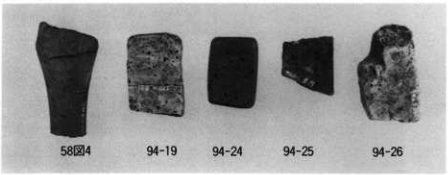



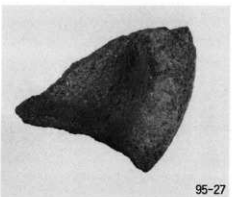



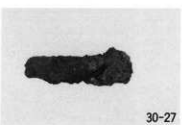


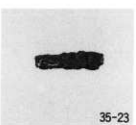



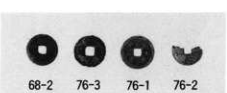
住居跡・竪穴状遺構・土抗・遺物包含層・遺構外出土遺物









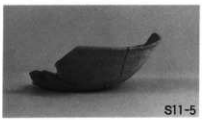

住居跡・竪穴状遺構・地下式壙・遺構外出土遺物

S11-1

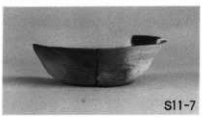
S11-2

S11-3

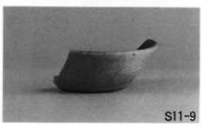
S11-4


S11-5

S11-6


S11-7

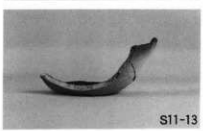
S11-8

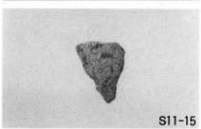

S11-9

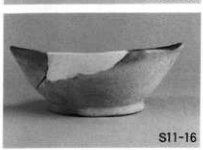
S11-10

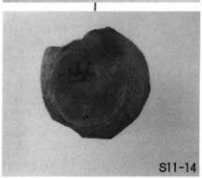
S11-11

S11-12


S11-13


S11-15


S11-16


S11-14

S11-17

S11-23

S11-18

住居跡出土遺物

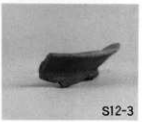
1

S11-19

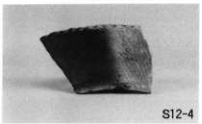
S11-22

S12-6

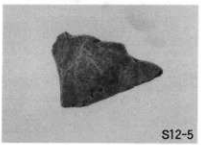
S12-2



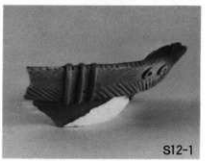
S12-3



S12-4



S12-5



S12-1

S12-7

S12-8

S13-1

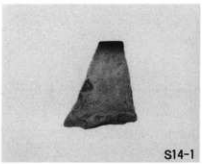
S13-2

S13-3

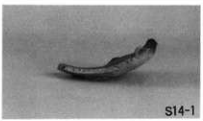
S13-5

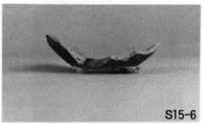
住居跡出土遺物

S13-4

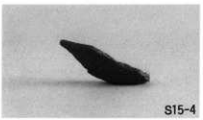

S14-1

S14-2

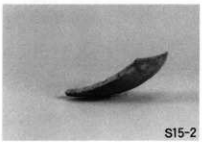

S14-1

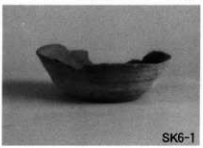

S15-6

S15-3

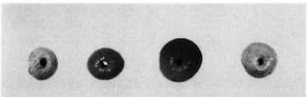

S15-4

S15-5


S15-2


SK6-1

SK6-2


S15-7 S15-8 遺構外1 遺構外2

S12-9

SDI-3

遺構外

住居跡・土抗・溝・遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第111集

主要地方道土浦竜ケ崎線道路改良
工事地内埋蔵文化財調査報告書

右籾貝塚東遺跡　念代遺跡
内路地台遺跡　平坪遺跡

平成8（1996）年3月25日印刷
平成8（1996）年3月31日発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310　水戸市見和1丁目356番地の2
TEL　029－225－6587

印刷　株式会社高野高速印刷
水戸市東原2－8－1
TEL　029－231－0989